

昭和 50 年度

林業試験場関西支場年報

No. 17

農林省林業試験場関西支場



林業試験場関西支場

まえがき

わが国の林業生産は、将来生産量の増加を見込んでもなお国内の木材需要量に充分答えることができず今日程度の外材の輸入を必要とすることが予想されるため、一刻も早く社会経済情勢にマッチした効率的な生産技術体系を作り上げる必要に迫られ、しかも一方では、森林の木材生産以外の効用の重要性が最近強調され、木材生産と各種の効用に対する利用の競合調整が切実な問題となっている。森林の各種の効用については抽象的には理解できても相互に比較の可能な数量的把握方法は確立されておらず、その手法の究明が強く望まれている。以上のような背景のもとに、当支場では50年度において次に述べるような研究を実施した。農林省の各研究機関の共同の研究課題である、農林漁業における環境保全的技術に関する総合研究に48年度から引続き育林部の全研究室が参加し、主として都市近郊林の生態系の変動について研究を行なった。また保護部の各研究室では本支場共同でマツの集団枯損の主原因であることが確認されたマツノザイセンチュウやその伝播者マツノマダラカミキリの生態や防除法について研究すると共に、そのほか各地に頻発している樹木の病虫害について研究を行なった。瀬戸内、近畿の地方の劣る低山地帯のマツの集団枯損跡地の更新法について、西日本3支場と共同で、府県林試の協力を得ながら、研究を進め、本年度は主としてマツノザイセンチュウの抵抗性のある外国産マツの植栽成績について調査を実施した。このほか森林の造成、施業、保護、関係の課題から、生産物の流通問題などの経営経済部門に及ぶ広い分野について研究を行なっている。

ここにお配りする昭和50年度の年報は一年間に実行した諸課題の研究内容を簡単に要約したものではあるが、各位のご参考に供し、今後の研究に対するご意見、ご助言を賜りたい。これらの研究は当支場の研究員のみができるものではなく、関係のある各機関の方がたと密接な連けいをとりながら、効果的に研究を進めており、この機会に平素のご協力、ご援助に対し厚く御礼申し上げる次第である。

昭和51年7月20日

林業試験場関西支場長

細井 守

目 次

まえがき

研究の動向

(1) 昭和50年度試験研究の動向.....	1
(2) 昭和50年度研究目標および研究項目表.....	2

試験研究の概要

共同研究

1. 農林漁業における環境保全的技術に関する総合研究.....	
(1) 都市化とともになう都市近郊林の生態系の変動.....	7
(2) 近畿地方人工林の水保全機能の解明.....	7
(3) 集落再編成の基準と手法.....	7
(4) 家畜排泄物の処理利用技術の開発.....	7
2. マツ類枯損激害地域の更新技術.....	7
3. マツ類材線虫の防除に関する研究.....	8
4. 農林水產生態系における汚染物質の循環と指標生物に関する研究.....	8
5. 松くい虫等防除薬剤の残効とその影響.....	8

各研究室の試験研究

造林研究室.....	9
経営 //	12
土じょう //	15
防災 //	18
樹病 //	19
昆虫 //	24
岡山試験地.....	29

試験研究資料

高野山ヒノキ人工林皆伐用材林作業収穫試験地.....	31
高野山スギ //	36
地獄谷アカマツ、ヒノキ、スギ択伐用材林作業収穫試験地.....	39
竜の口量水試験地観測報告.....	48

試験研究発表題名一覧表

昭和50年度試験研究発表題名一覧表.....	59
------------------------	----

組織、情報、その他

(1) 沿革.....	63
(2) 土地および施設.....	63

研究の高層

1) 研究の高層試験の結果

(3) 組織	65
(4) 会議の開催	66
(5) 受託研究、調査、指導	68
(6) 研修、海外出張	69
(7) 見学者	70
(8) 人のうごき	70

試験地一覧表

試験地一覧表	71
--------	----

気象年表

支場構内	73
岡山試験地	74

研究の動向

(1) 昭和50年度試験研究の動向

別枠研究「農林漁業における環境保全的技術に関する総合研究」については、49年度に引き続き「都市化による都市近郊林の生態系の変動」を育林部各研究室の共同研究としてとりあげ、京阪神および紀伊半島方面の都市近郊林を対象とした調査を行った。また、「家畜排泄物の処理利用技術の開発」は、土じょう研究室が分担し、施肥および主林木に対する生長促進効果ならびに植生の変動を調査した。50年度には新たに「集落再編成の基準と手法」「近畿地方人工林の水保全機能の解明」が追加され、前者は経営、後者は防災研究室が分担して研究を開始した。

48年度より発足した特別研究「マツ類材線虫の防除に関する研究」は、和歌山県林試の参加、大阪管林局および各府県の援助と協力を得て、保護部各研究室で研究を続けてきたが、50年度をもって終了した。

プロジェクト研究「農林水産生態系における汚染物質の循環と指標生物に関する研究」(環境庁予算)は保護部各研究室が担当し、50年度は主として農林水産環境における指標生物の耐性限界とその利用について研究を行った。50年度より新たにプロジェクト研究として新発足したものに「マツ類枯損害地域の更新技術」と「人工林の非皆伐施業」がある。それぞれ、西日本3支場(九州、四国、関西)の共同研究で、とくに前者は当支場長が主査となり、5ヶ年計画で実施しているもので、マツ類の集団的枯損跡地の更新指針の確立が行政面から強く要望されていることに対応したものである。後者は、四国支場長が主査で、47年度よりの経常研究から移行したもので、複層林の造成、維持管理技術の確立を目的として各地で調査研究を行った。

指定研究は3項目あり「合理的短期育成林業技術の確立」は造林研究室が担当し、福山および山崎管林署管内の試験地の保育を実行した。「松くい虫等防除薬剤の残効とその影響」は、50年度のみの研究である。この研究は、49年度にマツクイムシ防除薬剤の空中散布によって、ヒノキに異常を起す事例が生じたことに対応したものである。この現象は全く予期していなかったことであったため、これを確認すると共に現地において調査を行った。なお、本研究は保護部各研究室が担当しているが、51年度からは、特別会計の技術開発課題「林業薬剤散布の追跡調査」に引き継がれることとなっている。

「マツ林におけるマツタケ菌糸の移植試験」は、マツタケの生産増殖をはかる目的で樹病研究室が担当し、京都府林試も参加して研究を進めているものである。

特別会計の技術開発課題4項目のうち、「森林の取扱い方法による品等別の収穫量の予想」は、国有林内に設定した固定試験地を対象とし、長期にわたり定期調査を行い収穫表の資料収集を目的とするもので、経営研究室により、50年度は、高野および奈良管林署管内の試験地の調査が行われた。

「林内人工更新法」「風致を考慮した森林施業」は、それぞれ数年にわたって造林研究室が担当して調査研究を行ってきたが、50年度をもって完了した。しかしながら、51年度以降も引き続き「人工林の非皆伐施業」の中に組込んで更に研究を進めることとなっている。

経営研究室が担当して行った「森林造成維持費用分担推進調査」は、水利科学研究所からの委託により、主に本場(経営、土壌、防災)の研究者と共同で本年度木曽三川を担当、調査を行ったものである。

経常研究は、それぞれの年次計画にしたがって各研究室において実施しているが、その研究は、23項目にわたっていて、いずれも継続のものである。

(2) 昭和50年度研究目標および研究項目表

研究目標	研究課題			研究項目	担当研究室
	大	中	小		
森林生物の分類 生態および分布				病害鑑定診断ならびに防除 対策研究指導	樹病
適地判定技術 の確立				虫害鑑定診断ならびに防除 対策指導 (管内の虫害発生状況) (虫害鑑定診断ならびに 防除対策指導)	昆蟲
森林土壤の生成, 分類, 調査法, 分布, 特性, 地 質				—亜熱帯の森林土壤 —森林土壤の遊離酸化物 (非火山性土壤の遊離酸) 化物	土じょう
種苗生産技術 の高度化	—苗畑採種林の被 害防除	—苗畑病害に関する研究 (病害の概況調査)		—土壤水分 (森林土壤の水環境)	//
				—土壤母材の化学的風化	//
地力維持	—低山帶ならびに都市近郊地 域の土壤と緑化				土じょう
	—林地肥培技術	—林地肥培			//
更新および保 育技術の確立	—特殊環境地帯の 更新および保育 技術	—寡雨地帯の育林技術		岡山	山
		—保育形式比較試験 <指定研究>		造林	林
人工造林(含竹 林)の更新お よび保育技術	—林内人工更新法 <技術開発>				//
	—枝打技術の確立				//
	—人工林施業法の解明 (北山林業の林分解析) (スギ人工林における樹 高成長曲線の比較)			経営	營
	—アカマツ林の施業改善			送林	林
	—混交林の經營				//
	—人工林の非皆伐施業 <プロジェクト研究>			造林	林
	—タケに関する研究 (竹林の生産力) (育苗試験) (海外における研究協力)				//
	—マツ類枯損激害地域の更 新技術 <プロジェクト研究>			造林, 経営 土じょう	
育林技術 の高度化					

研究目標	研究課題			研究項目	担当研究室
	大	中	小		
				—樹木のてんぐす病 (サクラのてんぐす病)	樹 病
				—林地病害 (ゴマタケに関する研究)	〃
				—マツ類材線虫の防除 <特別研究>	保護部長 樹病, 昆虫
				(マツノマダラカミキリ) (の羽化脱出消長調査)	昆 虫
				(マツノマダラカミキリ) (成虫の材線虫保持数)	〃
				(マツ類枯損の疫学的研 究)	〃
				(マツノマダラカミキリ) (成虫の後食行動と材線 虫のマツ樹体内への侵 入経過)	〃
				(マツノマダラカミキリ) (成虫の密度と後食量お よび枯損率の関係)	〃
				森林の被害防 除技術の高度 化 — 森林の病虫鳥獣 害防除技術の高 度化	森林における標高別被 害率調査と次年度の被 害程度の予測
				(マツ枯損木の生立木の) (全後食量調査)	〃
				(マツノザイセンチュウ) (の地理的分布)	樹 病
				(マツノザイセンチュウ) (の寄生性発現に関与す る条件)	〃
				(マツノマダラカミキリ) (の材線虫伝播様式)	〃
				(薬剤の土壤施用による) (枯損防止)	〃
				(カミキリ脱出材のマツ (ノザイセンチュウの行 動)	〃
				—松くい虫等防除薬剤の残効 とその影響<指定研究>	保 護 部長 樹病, 昆虫
				—関西地方における森林昆虫 の基礎的研究	昆 虫
				(肥料木の害虫に関する) 研究	〃
				(スギ球果害虫に関する) 研究	〃
				(主要食葉性害虫の生態)	〃
				(低密度個体群の動態)	〃
				(昆虫の局所的な発生に 対する各種捕食者の反 応)	〃
				(昆虫の環境抵抗因子の) 解析	〃
				—育林生産技術 — 保育形式の確立 — 合理的短期育成林業技術の の体系化	造 林

研究目標	研 究 課 題			研究項目	担当研究室
	大	中	小		
	森林資源の把握	人工林、天然林の収穫表調整	森林の取扱方法による品等別収穫量の予想 <技術開発>	経営	當
	特殊林産物利用	食用菌類増殖技術の開発	食用菌類の増殖	マツ林におけるマツタケ菌糸の移植<指定研究>	保護部長病樹
	復旧治山技術の合理化	施工跡地の管理方法	治山施工跡地の水保全性	防災	
国土保全	予防治山技術の確立	森林の保安機能	林地における雨水貯留		//
	水資源涵養技術の確立	森林の利水機能	山地流域の流出特性		//
	林業経営	林業経営の改善	林業経営の改善	一 林業経営管理主体の育成 (林業政策に関する問題) (林業構造改善事業および山村振興に関する問題)	経営
経営経済	林業経営	林業経営の改善	林業経営の改善	一 林業経営技術体系の確立 (磨丸太の生産流通構造に関する研究) (吉野材の加工と流通に関する研究) (高品質材の需給構造に関する研究) (久万林業成立に関する研究) (非皆伐施業に関する経営的考察) (林業生産の地域比較に関する研究)	//
				森林造成維持費分担推進調査(木曽三川)<受託研究>	//

研究目標	研 究 課 題			研 究 項 目	担当研究室
	大	中	小		
自然保護 と環境の 保全	環境の保 全	環境の保 全		農林漁業における環境保全 的技術に関する総合研究 <別枠研究>	
				(都市化にともなう都市) (近郊林の生態系の変動)	育林部長 造林, 経営
				1) 植生調査 2) 土壌〃 3) 気象〃 4) 環境〃	土じょう, 防災
				(近畿地方人工林の水保) (全機能の解明)	防 災
				(集落再編成の基準と手) (法)	経 営
				(家畜排泄物の処理利用) (技術の開発)	土じょう
				農林水産生態系における汚 染物質の循環と指標生物に 関する総合研究 <プロジェクト研究>	保護部長 樹病, 昆虫
				風致を考慮した森林施業法 <技術開発>	造 林

注) ()書きは研究小項目およびこれに準ずるものを含む。

試験研究の概要

共 同 研 究

1. 農林漁業における環境保全的技術に関する総合研究

(1) 都市化にともなう都市近郊林の生態系の変動

49年度に引き続き、紀伊半島沿岸部、奈良、京都近郊などにある安定林分の植生と環境の解析を行った。土壤調査は安定林分のほか荒廃林分についても検討した。また樹林地の気象調査は支場構内で実施し土壤の水環境の実態はあくについては、神戸市六甲山系再度山において、前年度に引き続き安定林分と破壊林分の土壤のPF値を測定し、降雨とPF値の変動の関係を検討した。なお50年度の調査地は次のとおりである。

和歌山県すさみ町（春日神社）

和歌山県白浜町（三所神社）

奈良県吉野町（妹山樹叢）

奈良市（春日奥山）ほか3か所

なお実態解析は50年度で終了し、51年度から維持管理方式の研究に移行する。

（育林部長・造林・経営・土じょう・防災研究室）

(2) 近畿地方人工林の水保全機能の解明

本年度から着手したもので、森林の取扱い方法と水保全機能との関係を解明するため、吉野地方におけるスギ人工林の更新履歴と水保全機能との関係を林地の浸透能を尺度として調査した。（防災研究室）

(3) 集落再編成の基準と手法

本年度から着手したもので、林業振興のための経営経済的基本要因の実態を明らかにすることを目的としている。50年度は岐阜県春日村において人口動態、産業構造、林業生産の実態をあくした。

（経営研究室）

(4) 家畜排泄物の処理利用技術の開発

京都府宇治市八軒屋谷国有林内元治山施工地において、前年度に引き続き2回目の堆肥施用を実施するとともに、施用1年後の主林木に対する生長促進効果ならびに植生の変動調査を実施した。

（土じょう研究室）

2. マツ類枯損激害地域の更新技術

この研究は関西以西、九州に至る地域におけるマツノザイセンチュウ、マツノマダラカミキリによるマツ類の集団的枯損跡地の更新指針の確立が行政面から強く要望されたため、50年度から5年間九州、四国、関西の3支場の共同研究として着手することになったものである。

ザイセンチュウに対し抵抗性のあるマツ類、その他の有用樹種の中で、当該地域に導入の可能性を考えられるものについて、立地条件、生長状況、病虫害その他の問題を明らかにすることを目的としているが、50年度は兵庫県南部および岡山県南部、瀬戸内沿岸のマツクイムシ激害地およびその周辺地域に植栽されているテーダマツを主に、一部スラッシュマツ、メラノキシロンアカシヤ、アカマツ林の実態調査とこれらの林分の土壤調査を実施した。（育林部長・造林・経営・土じょう研究室）

3. マツ類材線虫の防除に関する研究

國立林試木場、支場および數県の林業試験場が参加して、昭和48年度より特別研究として発足した本研究は、50年度がその終了の年にあたる。当支場関係では、樹病研究室および昆虫研究室が参画し、和歌山県林試の参加を得て共同研究を進めてきたが、本研究課題は管内全般にわたる問題であることから、試験の遂行には、大阪営林局および各府県からの強力な援助と協力があった事実は特記されなければならない。

研究項目としては、マツノザイセンチュウに関するものでは地理的分布、生活史および行動、寄生性および寄主の萎凋枯死機構、寄生性発現に関与する環境条件、マツノマダラカミキリに関するものでは地域別経過習性、材線虫伝播様式、行動、密度推定法、個体数変動要因の解析等の多岐にわたっている。昭和50年度の研究内容については各研究室の試験研究の項にその概要が記されている。

なお、本研究全体の成果は昭和51年度中にとりまとめられて、農林水産技術会議から刊行される予定である。
(保護部長・樹病研究室・昆虫研究室)

4. 農林水産生態系における汚染物質の循環と指標生物に関する研究

農林業に関する国公立試験場ならびに大学等多数の研究機関の共同研究として、昭和47年度から5カ年継続の予定で実行されている環境問題関連の研究であって、林業試験場においてはプロジェクト研究として組織され、本場造林部、土壌部、保護部、木材部、浅川実験林および関西支場が参加している。当支場では、農林水産環境における指標生物の耐性限界とその利用に関する研究として、50年度には、マツのすす葉枯病の発生におよぼす亜硫酸ガスの影響、ポプラのマルゾニナ落葉病の実態、林木上のクモ相の変動状況等を調査し、既往の資料に併せて、これらの対象生物やその状態が大気汚染の程度を示す指標となり得るか否か、また、なり得るとすればその利用にはどのような方法があるか等についての調査研究が行われている。

(保護部長・樹病研究室・昆虫研究室)

5. 松くい虫等防除薬剤の残効とその影響

マツ類の激害型枯損を防ぐ方法の一つとして、農薬(乳剤)散布による予防法があり、最近はひろく実行されている。しかし、昭和49年に、1部の地域において、防除薬剤がヒノキの異常を起すという事例が生じた。この現象を確認するとともに、その原因を追求するために、昭和50年度に林業試験場保護部、造林部、関西支場等が共同して試験が行われた。空散事業が行われた現地における調査や幼令造林木に対する散布試験は、名古屋営林局岡崎営林署および大阪営林局京都営林署の協力を得ながら行われ、松くい虫防除薬剤が散布された場合に、ヒノキは個体によって異常を起すものがあることが判明した。異常発現の要因や機作の解明は今後の問題として残されている。
(保護部長・樹病研究室・昆虫研究室)

各研究室の試験研究

造林研究室

1. 林内人工更新法

この研究は、技術開発課題として、昭和47年から発足したものである。昭和50年度の概要は次のとおりである。

- 1) 支場構内における、光環境とスギ、ヒノキ稚樹の反応に関する試験を継続実施した。
- 2) 岐阜県石原山林、和歌山県浦木林業、その他の複層林において光環境と林内稚樹の伸長量との関係を求めるための継続調査を行った。
- 3) 石原山林において、広葉樹林下のスギ稚樹の枯損について実態調査を行い枯損条件の解明に着手した。
- 4) スギの品種系統別の耐陰性を調べる試験を関西林木育種場および岡山県林試において協力実施中である。

なお、技術開発課題でのこの研究は50年度で完了するが、研究内容は非皆伐施業に関する研究の一環をなすものであり、その多くは51年度以降も非皆伐施業に関する研究に組込んで進める予定である。

(早稲田 収・山本久仁雄・市川孝義・斎藤勝郎・藤森隆郎)

2. 枝打ち技術の確立に関する研究

この研究は昭和44年に開始し、スギとヒノキを対象にその生理、生態学的諸効果を求め、それに基づき枝打ち技術の改善に検討を加えようとするものである。50年度の業務の概要は次のようにある。

- 1) 枝打ちの強度と、その後の林木の成長との関係を求めるため、試験地の継続調査を行った。
- 2) 枝打ち方法の違いによる林分構造の変化を求めるため、試験地の継続調査を行った。
- 3) 枝打ちの実施季節と枝打ちに伴なう材の変色との関係を求める試験の実施と、その一部解析を行った。
- 4) ある幹の直径について、その地上高と樹高の関係を求める調査を行い、その資料に基づく枝打ち管理方法について検討した。

51年度も上記試験地での試験と継続調査を行う予定である。

(藤森隆郎・早稲田 収)

3. アカマツ林の施業改善に関する研究

この研究は、昭和30年から、アカマツ林の更新ならびに保育技術の確立を目的として行ってきたが、現在は、長期間を要する試験地の定期調査と、そのための保育管理が業務の主体となっている。

本年度は、吉永植栽比較試験地（岡山）について植栽後10年目の生育調査を行った。その結果、樹高の平均値はアカマツ>テーダマツ=スラツシユマツ>クロマツ>ヒノキ>スギの順となり、とくに国内産マツ類の樹高、肥大成長が良好であった。

51年度は、島ヶ原除伐試験地（亀山）と大谷混植試験地（兵庫）の定期調査を行う。

（山本久仁雄・早稲田 収）

4. 混交林の経営に関する研究

この研究は、昭和44年から着手し、混交林の生理・生態的、技術的、さらに林業経営的特性を明らかにしようとするものであり、当面の目標を混交林の実態把握、生産量の純林との対比、および混交林の保育、収穫過程における諸技術の解明において検討を進めている。

本年度の業務の概要是次のとおりである。

- 1) 兵庫県山南町のスギヒノキ混交林の調査資料（8ヶ所、16林分）の中間とりまとめを行い、混交率と両樹種の材積、およびその合計との関係を明らかにし、あわせてアカマツヒノキ混交林との相違点を考察した。（混交林の経営に関する研究Ⅲ、日林関西支講、26）
- 2) アカマツヒノキ混交林に関する既往の調査資料（他府県林試の実施分を含めて）について総合的なりまとめを行った。これは51年度に完了する予定である。

51年度は、福山営林署部内馬乗山試験地（スギヒノキ）について、2回目の定期調査と間伐、ならびに兵庫県山南町におけるヒノキアカマツ混交林の上層木（アカマツ）伐採後のヒノキの成長について、固定試験区（2ヶ所）の調査を行う。 （早稲田 収・山本久仁雄・市川孝義・斎藤勝郎・藤森隆郎）

5. 人工林の非皆伐施業

この研究は昭和47年度より経常研究のひとつとして着手したが、50年度から西日本3支場のプロジェクト研究へと移行しており、複層林の造成、維持管理技術の確立を目的として進めている。50年度の業務の概要是次のとおりである。

- 1) 岐阜県今須の択伐林の一林分から択伐木17本の円盤を部分的に採取し、その測定から択伐林における成長経過の一例を解析した。
- 2) 広島県福山営林署管内の長者原山ほか2試験地において上層木の成長量調査を行った。
- 3) 長者原山、和歌山県浦木林業新宮試験地における、伐出量、伐出諸行程、諸経費、立木または丸太販売価格などの資料収集を行った。
- 4) 光環境の測定法を改善するため、照度積分計（林内平均照度測定用、設置型長時間用）の使用を検討中である。また光環境の指標として、林冠のうつ闇度を全天写真を利用して計測表現する方法を模索中である。

51年度は今須その他の固定試験地の調査を行う。

（早稲田 収・山本久仁雄・市川孝義・斎藤勝郎・藤森隆郎）

6. タケに関する研究

(1) 竹林の生産力に関する研究

竹林の施業改善に資するため、その生態的特性を把握する一環として、取あつかいの異なるいくつかのモウソウチク林分について、現存量や生産量をしらべ、その一部を第87回日本林学会大会において発表した。

要約すると、モウソウチク林の単位面積あたりの現存量は、普通の樹林のそれに比べてかなり少ないが、葉量や地上部生産量、葉の生産能率などは落葉広葉樹林のそれらに近いのを認めた。 (鈴木健敬)

(2) 育苗試験

昨年に引きついで、竹幹のさし竹による育苗試験を行った。熱帯から暖帯圏に多い連軸型の竹種には、さし竹による育苗の可能なものが多いが、温帯圏における単軸型の竹種は、一般にさし竹の発芽発根が困難である。このため、従来からさし木の発根促進に使われてきた各種の植物生長ホルモン類の応用を試みたが、顕著な効果はみられなかった。51年度には、イネ科植物の発根に効果があるとされている2,3の植物生長調節剤の効果をしらべてみる予定である。 (鈴木健敬・成田忠範)

(3) 海外における研究協力

49年度後半より引き続き、フィリピン国立林産研究所より要請された、同国におけるタケに関する研究協力に従事している。すなわち、鈴木は昭和49年11月より昭和50年4月まで同国に在任し、今後の長期計画のための事前調査、協議を行った他、2,3の有用種について、予備的な生態調査、育苗試験などを実施した。その後、内村は8月より「熱帯林業の育成に関する研究」プロジェクトの一部として同研究所において「タケの栽培に関する研究」を実施中で、併せて同国林業試験場のコンサルタントをおこなっている。

(鈴木健敬・内村悦三)

7. 合理的短期育成林業技術の確立に関する研究

この研究は、昭和37年度から全国的規模で、国有林と林業試験場本、支場が共同し、指定研究として実施している。

本年度は、アカマツ（福山）試験地の密植区（6,000本/ha）に対する間伐（木数間伐率約36%）と、スギ（山崎）試験地についての枯枝打ちならびにつる切りを行った。

51年度は、スギ（山崎）試験地について根曲り木、倒伏木などの調査と除伐を行う。

(早稲田 収・山本久仁雄・市川孝義・斎藤勝郎・藤森隆郎)

8. 農林漁業における環境保全技術に関する総合研究（別枠研究、本支場共同研究）

(1) 都市化にともなう都市近郊林の生態系の変動——植生調査——（造林、経営研究室分担項目）

日本海側を除く近畿地方の低山帯を主な対象として、これまで人為的、自然的破壊を比較的まぬがれてきた林分を求め、その種的、量的組成と構造を調査した。主な調査項目は階層別（草本、低木、亜高木、高木層）の種、個体数、高さ、直径、被度、優占度、および林床相対照度などである。50年度の調査地は、和歌山県すさみ町（春日神社）、和歌山県白浜町（三所神社）、奈良県吉野町（妹山樹叢）、奈良市春日奥山、兵庫県家島町、京都市松尾（松尾神社）であり、そこで合わせて9林分を調査した。これらの林分の多くは信仰によって保護されてきたものであり、面積的には限られている。

51年度は維持管理方式の研究に移行する。

なお、本研究は経営研究室と合同で植生調査班を編成して調査にあたった。

(造林研究室 早稲田 収・藤森隆郎)

(経営研究室 上野賛爾・長谷川敬一)

9. 風致を考慮した森林施業法

この研究は47年度より技術開発課題として着手したもので、風致景観を主目的とする森林の取扱いについて検討してきた。すなわち、過去において風致維持が積極的に進められた大和三山（耳成山、畠傍山、香具山）および宮島の2ヶ所の現況調査を行い、風致施業としての評価ならびに育林技術的な面からの考察を進めてきた。

本年度は、城山国有林（岩国）におけるヒノキ帯状伐採地について、光環境の測定ならびに更新技術上の諸問題を検討した。

なお、本課題は本年度をもって完了するが、51年度以降も非皆伐施業に関する研究の中で実施する予定である。
(早稻田 収・山本久仁雄・市川孝義・齊藤勝郎・藤森隆郎)

経営研究室

1. 林業経営技術体系の確立

(1) 磨丸太の生産流通構造に関する研究

前年度刊行した資料「磨丸太の生産流通構造に関する研究」は刊行後各方面から領布の要望が続出したので、前者に補訂を加え、単行書「磨丸太のすべて」として大日本山林会より刊行した。

また、磨丸太の生産・流通諸問題についての解説を「林業新知識」に5回にわたり連載した。

(岩水 豊)

(2) 吉野材の加工と流通に関する研究

前年度に引き続き吉野各所で資料しゅう集を行い検討してきたが引き続き調査を進める予定。
(岩水 豊)

(3) 高品質材の需給構造に関する研究

スギ特殊クローンによる秀材の生産構造に関して、かねて研究を進めてきたが、その経過についてひとまず中間成果をまとめ林学会関西支部大会・「山林」などに発表した。

なお、継続して研究調査を進め、近い将来体系的にとりまとめの予定。

(岩水 豊)

(4) 久万林業成立に関する研究

久万林業の成立・発展に関する要因究明について、本年度は2回にわたり資料しゅう集・調査を行い検討中であるが、とりあえず「優良林業地をめざす久万林業の問題点」をとりまとめた（未発表）。

なお、51年度も継続して調査を行い中間成果をとりまとめの予定。

(岩水 豊)

(5) 非皆伐施業に関する経営的考察

わが国の森林に対する国民的要請は、外材依存率の高まつた現状からして國産材自給率の向上と自然保護等に伴う厚生林機能の両面から期待されていることは周知のことである。しかも、われわれ林業関係者の責務は、この両者の調和を保ちつつ良き森林の造成維持にあると一義的には認されるところであろう。

かかる観点を発想の泉源として、森林の取扱いに関して最も好ましい施業と称されている非皆伐施業について、その実現性の要因分析を試みたものである。ただ、施業の技術的側面の解明は、これを技術関係の専門分野の範囲として割愛し、主として社会的な側面と私有林の個別経営とのからみ合いから考察を加え発表した。

(久田喜二)

(6) 林業生産の地域比較に関する研究

わが国における林業投資の効果（経済性）比較を一定の指標のもとに樹種別、地域別に把握し、これによって林業の育林技術体系等の実態も明らかとなり、今後の経営上多くの指針を与えることになる。

本年は育林生産のフローチャートをまとめた。

（久田喜二・長谷川敬一）

2. 林業経営管理主体の育成

(1) 林業政策に関する問題

わが国の林政に関する基本構想は前年に明らかにしたが、その中で森林組合の役割を明確にした。それは地域林業の発展のためにはその担い手たる森林組合の育成強化が緊要のこととされるからであり、本年はその意義と役割についてまとめ、さらに、日本林学会関西支大会シンポジウムで話題提供した。

（久田喜二）

(2) 林業構造改善事業および山村振興に関する問題

林業構造改善事業は現在第2次に入っているが、地域林業振興のためにはこの事業の成果を高めることに一つの鍵があるので、ケーススタディとしての方向づけと問題点の解明である。

本年は間伐材等処理施設の設置について兵庫県神崎町。木材の出荷施設の設置について兵庫県県森連。協業活動拠点施設の設置について徳島県東祖谷山村のそれぞれをまとめた。

また、岐阜県板取村について、山村振興の意見書を長谷川敬一とまとめた。

（久田喜二）

3. 農林漁業における環境保全的技術に関する総合研究（別枠研究、本支場共同研究）

(1) 集落再編成の基準と手法（経営研究室分担項目）

この研究は、わが国中部地方における山村地域での過疎化に伴う村落の社会機能の充実と、自然環境（主として林地）の管理のあり方を研究する。

本年度は過疎化と低位生産に悩む春日村（岐阜県）について人口動態、産業構造、林業生産の実態調査を行った。

人口は国調（1975年）によると7%の減少にとどまり、以前に比べて小康状態を保っているが、それでも交通不便（主として奥地）の集落ほど人口減少が強い。

当村は山間部にあって産業基盤が薄弱であり、特に耕地については零細経営が多い。しかも林業面にとつても長く薪炭生産に依存してきたために経済性の高い用材林への転換が遅れ、しかも未成熟の段階にある後発地域である。

このため村内における安定的就労の場が少なく、通勤（移動）労務として中京経済圏や山林労務に就労し、所得の場を村外に求めている現状である。ただ、薄弱とはいえた村内に生活基盤を持つために舉家離村まで考える農林家はほとんどみられないことはアンケート調査結果からも統計的に示された。しかし、当村の安定的発展のためには高度な土地利用のもと産業基盤の確立が第1であるが、着々と計画路線を歩むとしても半世紀の経過が必要視されることから、その間にわが国の経済の動向によっては人口の減少が波動的に起る条件を秘めているとみるのが至当であろう。しかもこれらに対処し、先行的に振興ビジョンを誘導する駆動力は住民の側にも村当局にも現在薄弱といえよう。

ともあれかかる現状からすれば、新たな方向は外発的に貢献を与え、内発的駆動力を引き出すことでなければならないが、それには現在に倍加する国家投資が期待されなければならない。

ただ、これには当面の賦存する実態と条件（資源・人口 etc）からもたらされる効果を最高に高める総合的政策体系が準備されなければならないが、これらは次年度以降の考究にまつことにしたい。（久田喜二）

4. 森林の取扱方法による品等別収穫量の予想（技術開発課題 本支場共同研究）

森林の取扱い方と林分成長ならびに収穫量および収穫量の品質などとの関係を明らかにするため固定試験地を設け、永続的に調査しているもので、昭和50年度はつきの試験地の調査を行った。

- 1) 高野山ヒノキ人工林皆伐用材林作業収穫試験地
- 2) 高野山スギ人工林皆伐用材林作業収穫試験地
- 3) 地獄谷アカマツ・ヒノキ・スギ皆伐用材林作業収穫試験地

これら試験地の概要および調査結果を P. 31～47 に掲げたので参照されたい。

（上野賢爾・長谷川敬一）

5. 人工林施業法の解明

(1) 北山林業の林分解析

前年度に引き継いで現地調査を予定していたが諸般の都合により現地調査を中止し資料の整理検討を行った。（上野賢爾・長谷川敬一）

(2) スギ人工林における樹高成長曲線の比較

前年に引き継ぎ資料の検討を行いまとめを終えたので研究報告として提出した。その要旨はつきのとおりである。

7種の樹高成長曲線式について適合性を検討し、Näslund 式を採用することとしたが、地域別に求めた Näslund 式の係数は地域性を持つと共に地位とも深い関係のあることがわかった。したがって地域ごとに求めた樹高成長曲線の基準値における樹高が異なる場合の比較は困難であった。

このため、基準値における樹高を独立変数に含めた式およびその逆数を重みとした樹高を用いた場合良好な結果が得られることがわかった。

この方法に地位級別に求めた曲線式の比較を含めて、本州西南部のスギの成育区域を気象条件で6地域に分け地域間の樹高成長曲線を比較した結果3グループに大別されることを示した。

また、基準値の樹高の平方根の逆数を重みとした樹高に修正指數曲線をあてはめると、限界値を示す定数の値は前に分類した3グループで、はっきりした範囲にあることを明らかにし、この値で地域分類の可能などを示した。（長谷川敬一）

6. 森林造成維持費分担推進調査（木曽三川）（受託研究、本支場共同研究）

森林のもつ公益的機能の維持増進に対する国民的要請が高まり、そのための森林整備の必要性が窺知される現状にある。このため多面的機能を高度に發揮する森林を造成維持する費用について、森林の公益的機能を受益する下流側に対し費用分担を要望する傾向が強まっており、森林の整備を可視的速やかに推進するた

めには、上流側のこの要望に応えることが必要であり、両者間で森林の造成・維持に係る諸問題を明らかにし、これに則った森林諸機能の高度な発揮をねらった取扱いとその費用分担等を明らかにすることが必要である。

このため「森林の造成・維持費用分担関係設定調査」(利根川を対象としたモデル調査)の結果等を参考として木曽三川について森林の有する諸機能及び上流域の費用分担の実情、下流域の受益の実態等について各分野による共同研究を仕組み費用分担のあり方を検討したものである。

費用分野のあり方としては 1) 森林造成に要する費用額の算出と 2) 森林の公益的効用(受益の量と評価)とをもとにして理論化を図るものであるが、橋本氏(静大)の総括を補佐する立場でまとめた。

(久田喜二)

土じよう研究室

1. 土壤母材の化学的風化

今まで、関西支場管内の花こう岩を母材とする赤色土や、赤色系褐色森林土について、 TiO_2 を基準として、化学成分の変動をみてきたが、今年度は更に黄色系褐色森林土も含め、更に赤色土、赤色系褐色森林土のデータも補足し、分析、検討を進めた。

いずれの土壤も赤色風化の化学的特徴である塩基の流失、珪酸の溶脱および二三酸化物の富化が認められた。母岩の風化残留率は、層断面における分布状態がきわめて連続的であり、赤色土<赤色系褐色森林土<黄色系褐色森林土の順に大きくなっていた。

これらの土壤は、いずれも脱塩基作用を極めて強く受けている。脱珪酸作用には土壤によって差異があり、赤色土は非常に強く受けているが、黄色系褐色森林土では弱く、赤色系褐色森林土はこれらの中間である。しかし、いずれの土壤でも脱珪酸過程はきわめて連続的に推移している。

(西田豊昭)

2. 森林土壤の遊離酸化物

(1) 非火山性土壤の遊離酸化物

わが国における森林土壤の、生成分類的な位置づけを明らかにするため、遊離酸化物の研究が重視されており、今まで本邦の主要な森林土壤について研究をしてきたが、50年度は沖縄地域の主要な土壤について遊離鉄の分析を進め、遊離鉄の活性度や結晶化指數から、本土の褐色森林土、赤色土などと比較検討した。

沖縄地域の土壤では Tamm 法可溶鉄は赤色土、暗赤色土、表層グライ系赤・黄色土の B 層では、ほぼ同一レベルにあり、黄色土は上限が高く、分布の範囲が広かった。Mehra-Jackson 可溶鉄および全鉄は赤色土と暗赤色土では同じくらいで、黄色土や表層グライ系赤・黄色土より大きい値を示した。活性度は赤色土・暗赤色土、表層グライ系赤・黄色土では値の小さいものが多く、黄色土では比較的値の大きなもののが多かった。結晶化指數は赤色土や暗赤色土、表層グライ系赤・黄色土では大きく、黄色土ではやや小さかった。活性度と結晶化指數の分布領域を本土の土壤とくらべると、赤色土や暗赤色土は本土のそれとほぼ同じであり、黄色土は褐色森林土と赤色土の間にあり、更に永塚のいう西南日本の黄褐色森林土と赤色土の間に位置していた。これらの成果については林試研報に投稿した(51年2月)。

(西田豊昭・小島俊郎)

3. 亜熱帯の森林土壤

沖縄の土壤については、土壤の分布、土壤断面の形態的特徴ならびに一般化学的性質について、昨年に引き続きとりまとめをおこなった。

断面の形態的特徴のうち、黄色土の土色は色相がいずれも 10 YR であり、明度は 5~7、彩度は 6~8 で、中心は 6/8 であった。また黄色土は A 層の厚さが、褐色森林土にくらべ平均 10cm は薄く、A 層と B 層の層界のはっきりしているものが多かった。土壤の硬さも褐色森林土にくらべ、かなり硬く B 層では堅一固結に含まれている。

一般化学的性質は土壤により著しく異なり、強酸性の土壤から弱アルカリ性のものまで認められる。このうち黄色土は、土壤型による化学性のちがいが、褐色森林土と同様の傾向を示していた。

また、沖縄の方言でフェーチシャと呼ばれる土壤が、主として沖縄本山の台地、丘陵地にかなり広く出現しているが、またその特徴は明らかでなく、生成、分類学的な解明が要請されている。この土壤は現地の観察からは、表層グライ化を受けた土壤と判断されたが、土壤の特性の解明のひとつとして化学成分の移動を調べた。土壤は粘土化が著しく進んでおり、粘土量は表層で少なく、下層で増加し、微砂はこれと逆に表層で多かった。これらのことから表層の粘土は何らかの形で他に移動していることが考えられたが、下層への大量の移動集積は明らかでなかった。

細土および粘土の珪藻比は表層で大きく、 Fe_2O_3 や Al_2O_3 が移動し、相対的に SiO_2 が富化された形になっていたが、ポドゾルで見られる集積層の存在が不明瞭であり、普通のポドゾル化作用により生成された土壤とは考えられない。

(小島俊郎・西田豊昭・吉岡二郎)

4. 土 壤 水 分

(1) 森林土壤の水環境

土壤中の水環境の変動を把握する手段として、自記テンションメーターを開発し、林地における土壤水分の連続的な測定が可能になった。この装置を用いて各地で測定をおこなっている。京都府丹波町のヒノキ林での測定は49年に完了し、資料のとりまとめを進めている。京都市貴船のスギおよびヒノキ林での測定は50年度で完了した。

また、多雪地帯での水環境を解明する目的で自記装置の適応試験をかねて、石川県林業試験場の構内に測点を設け、検討しているが、測定の可能性が認められたので、引き続き本格的な測定にはいった。

(吉岡二郎)

5. 低山帯ならびに都市近郊地域の土壤と緑化

本年度はそれぞれの既設試験区に、化成肥料および鶏糞添加樹皮堆肥を所定量施用した。施肥時期は化成肥料が 7 月、樹皮堆肥は 11 月である。本年は更に堆肥の倍量施用区を設け、他区と同様に肥料の影響をみるととした。

施肥の効果については、主要林木の胸高直径を測定し、成長状態を把握し、一方では植生の変化をみるとしているが、施肥 1 年後の肥大成長を調べ検討したところ、明らかな差は認められなかった。また、植生調査の結果は大きな変化が認められなかつたが、施肥区ではハナゴケの占有面積が僅かながら狭くなつて

おり、ツルリンドウ、ササガヤ、ノギラン、ヘクソカズラなどの草本類が生立しはじめたのが認められた。

(小島俊郎・衣笠忠司・西田豊昭・吉岡二郎)

6. 林地肥培

50年度は幼令林施肥試験地のうち、高野宮林署管内に設定してある幼令林試験地（昭和36年設定および46年設定の2試験地の追肥を50年4月におこなった。

このうち36年設定の試験地は設定後15年を経過し、密度比数が80に達するので、枝打ち、間伐をおこない、今後スギの成長ならびに土壤の変化をみてゆく予定である。

西条のクロマツ試験地については成長量の調査ならびにクロマツ針葉の養分濃度の変化を50年12月にしらべた。土壤はせき悪で、通常、クロマツの成長が9年生でも2mに達しないようなところであるが、施肥により急激な成長の増大が認められ、肥効は施肥初年度よりも2年目の方が大きかった。針葉中のNおよびK濃度は施肥により多少の増大がみられ、P濃度は著しい増加が認められ、とくにPの配合比の高い化成肥料の施用区で増加が顕著であった。

(衣笠忠司・小島俊郎)

7. 農林漁業における環境保全的技術に関する総合研究（別枠研究 本支場共同研究）

(1) 都市化に伴う都市近郊林の生態系の変動——土壤調査——（土じよう研究室分担項目） ——水環境調査——（土じよう、防災研究室分担項目）

1) 土壤調査

近畿、中国の都市近郊地域において、主要地質母材別（花こう岩、流紋岩、第3紀層、その他）に、安定林分、荒廃林地、そのほか中間相を示す林分を調査対象地として選び、多点抽出方式により林分と土壤を調べ、土壤の面からその実態を比較解析することにしている。50年度は、江須崎、白浜（以上和歌山県）、妹山、春日山（以上奈良県）、家島（兵庫県）、松尾山（京都府）において実施した。各調査地とも安定林分と、近接し人為による破壊のいちじるしい林を調査することとし、安定林分10カ所、対照林分5カ所、合計15カ所を調査した。

土壤の種類は、安定林分ではB_B型土壤が4カ所、B_{D(a)}型土壤2カ所、B_D型土壤4カ所、対照林分ではB_B型土壤3カ所、B_{D(a)}型土壤1カ所、B_D型土壤1カ所である。

(小島俊郎・衣笠忠司・西田豊昭・吉岡二郎)

2) 水環境調査

昨年に引き続き、六甲山において安定林分と破壊林分の土壤水分のpF値を測定し、土壤中の水分の変動と気象条件（特に降雨）との関係についての検討を進めた。

土壤水分のpF値の変動は、大きくは地形によって支配されていたが、土壤型によって起る相違がもっとも大きく、乾性土壤は適潤性土壤にくらべて高いpF値を示した。降雨後は両者ともに急速に低いpF値になったが、乾性土壤はより低くなる傾向を示した。安定林分（カシ・シイ林）では、土壤型による変動の差が破壊林分（マツ林）より顕著で、土壤生成に関する立地条件の相違および林分破壊による土壤変化が土壤の水環境に反映されることを示した。

なお、本研究は防災研究室と共同で調査に当った。

(土じよう研究室 吉岡二郎)

(防災研究室 阿部敏夫)

(2) 家畜排泄物の処理利用技術の開発（土じよう研究室分担項目）

林木に対する施用技術の確立を目的に、京都府宇治市郊外の八軒屋国有林内に、鶏糞添加樹皮堆肥の施肥試験地を設け、都市近郊地域の綠化促進をねらって、施肥の影響を観察している。

本年は第2回施肥をおこない、アカマツやソヨゴ、ネジキなど主要樹種について、施肥1年後の胸高直径を測定し、林床植生の変化などを調べた。

主要林木の肥太成長については施肥の影響が明らかでない。

また林床植生の推移状況を観察したところ大きな変化はみられないが、施肥区ではハナゴケの点有面積が多少狭くなっている。ツルリンドウ、ササガヤ、ヘクソカズラなど草本類が生立しはじめたのが認められた。

なお、本年度は、新たに堆肥の倍量施用区 (N: 340 kg/ha) を設け、施肥後の経過をみるとこととした。

(小島俊郎・衣笠忠司・西田豊昭・吉岡二郎)

防 災 研 究 室

1. 治山施工跡地の水保全性

前年度は岡山県玉野市の治山施工地で、山地斜面浸透計を用いて浸透能の測定を行ったが、本年度も同じような方法で六甲山の治山施工地で浸透能の調査を行った。

また、従来から山腹治山工と水土保全機能の関係について種々な試験調査を実施してきた経緯もあり、これらの資料と本試験資料とを対比し、若干の検討を加えた。(一部を26回日林関西支部大会で発表)

最終浸透能は散水強度(試験範囲: 43~195 mm/hr)の増加について直線的に増加する傾向が認められた。各調査プロットについて線形回帰式を求め、その式に散水強度 100 mm hr を代入してそれぞれの最終浸透能を計算すると、

玉野: 昭和29年施工地 83 mm hr, 昭和30年施工地 84 mm hr, 裸地 33 mm hr

六甲: 昭和30年施工地 89 mm hr

であり、施工地は裸地に比べ浸透能がかなり改善されることが認められた。

(小林忠一・阿部敏夫・藤枝基久・岸岡 孝)

2. 林地における雨水貯留

前年度に継続して、森林植生による降雨遮断機能の試験を京都府林業管内八軒屋谷国有林において実施した。試験林分は、散生せるアカマツ(平均樹高 13.5 m, 平均胸高直径 26 cm)を上木とし、ヒサカキ・ネジキ・ミツバツツジなどが混交しているせき悪林である。

過去1年半の観測結果より次のことが分った。

- 1) 林外雨量 X mm と林冠通過雨量 Y mm の関係は線形回帰式 $Y = 0.83X - 0.92$ で表わされ、X と Y の相関係数は 0.99 である。
- 2) 一連続雨量が 5 mm 程度以上の降雨については、林外雨量に対する林冠通過雨量の比はおおよそ 0.70 ~ 0.85 の範囲である。

3) 林外雨量と林冠通過雨量の関係において、月別、季節（生长期と休眠期）別の差は認められなかつた。
(岸間 孝・小林忠一・阿部敏夫・藤枝基久)

3. 山地流域の流出特性

竜の口山流域における雨量と水位の観測を継続し、自記記録の読み取りと整理を行った。また、昭和46年1月1日以降についての日流出量を作成した。
(阿部敏夫)

4. 農林漁業における環境保全的技術に関する総合研究（別枠研究、本支場共同研究）

（1）都市化に伴う都市近郊林生態系の変動——気象調査——（防災研究室分担項目）

都市近郊林の気象緩和機能の予備的な調査として、支場構内の裸地、テーダマツ林、タケ林、照葉樹を中心とする常緑樹林において気温（地上 15 cm, 120 cm）と地温（地下 5 cm）の観測を継続した結果、次のことがわかった。

1) 日最高気温は年間を通じ林地内は裸地より低く、その差は夏期に大で、冬期に小である。また晴天で大きく、曇天・雨天で小さい。

2) 日最低気温については、林内外の差は年間を通じ、最高気温程には大きくなく、季節差も明らかでない。また最高気温の場合と同じく天候の影響を受ける。

3) 地温の林内外における差ははっきりと認められ、また地温の日変化は裸地で大きく林内では小さい。同じく林内といってもテーダマツ林、タケ林にくらべて常緑樹林の方が日変化が大きく現れたが、これはマツ林、タケ林に比較して常緑樹林は林床における落葉層の堆積規模が小さかったことに起因するものと考えられる。

4) 気温の日変化についても地温同様、林内外の差は明らかであるが、地温ほどには顕著でない。

(阿部敏夫)

（2）近畿地方人工林の水保全機能の解明

本年度は、400年以上にわたる森林施業の歴史を有し、かつ極端な密植と頻度の高い間伐、長伐期の大径木仕立てという特徴的な施業方法の行われている吉野林業地におけるスギ人工林の更新履歴と水保全機能との関係を明らかにするために、川上村の東川地区の2代林（90年生）・3代林（50年生）、迫地区的初代林（250年生）、高原地区的3代林（50年生）において山地浸透計による浸透能の調査を行った。なお、調査林分はすべて秩父古生層を母材とする崩積土上に成立している。

調査結果によれば、東川地区的2代林と高原地区的3代林がほぼ同程度の最終浸透能値を示し、迫地区的初代林がそれに次いでいる。東川地区的3代林の最終浸透能は他と比較してかなり低い値を示した。

(岸間 孝・小林忠一・阿部敏夫・藤枝基久)

樹 病 研 究 室

1. 病害鑑定診断ならびに防除対策研究指導

国有林および民有林で発生した病害の鑑定診断、防除法について研究指導を行なうとともに、管内の病害

発生の現況把握につとめる。本年度も各府県ならびに営林局・営林署等各種団体および個人からの、病害鑑定依頼を受けた。その状況はつきのとおりである。

国有林関係	14件	18点
民有林関係	25件	39点
計	39件	57点

内訳：苗木の病害 16点、林木の病害 21点、その他 20点。

樹種別：マツ 12点、スギ 9点、ヒノキ 4点、ヒバ（アスナロ） 4点、線虫 11点、クリ 12点、サクラ 2点、その他（緑化木、シイタケ雑菌、キノコ） 13点。（紺谷修治・峰尾一彦・田中潔）

2. 苗畠病害に関する研究

（1）線虫病の概況調査

近年緑化木の需要が多くなり、各地に苗木の育成が行なわれている。このことから苗畠病害に関する研究の一項として主要な植物寄生性線虫による緑化木の被害について実態調査を行なった。

本年度調査した苗畠は、京都営林署須知苗畠と支場苗畠で、線虫の分離は加温浮出法により、ネコブセンチュウについては、虫えいの解剖等による肉眼観察を行ない、根系内への寄生を確認した。

調査の結果、従来からネグサレセンチュウ (*P. penetrans*) の生息が認められた京都営林署須知苗畠では、ウバメガシ外9種の樹木について調査したところ、検出頭数はスギ (820/g) ヒノキ (160/g) ほど高くないが、イチョウ (20/g)、ドイトトウヒ (13/g)、トベラ (30/g) などの根系からネグサレセンチュウが検出された。関西支場苗畠ではムクゲ、シユロ、ゲットウなどに顕著なネコブセンチュウの虫えいが認められた。

（峰尾一彦）

3. 林地病害に関する研究

（1）ゴマタケに関する研究

ゴマタケ菌 (*Apiospora shiraiana* HARA) の生理、生態的な研究を行なう中で、ゴマタケ生産に好適な立地的環境を選定して、人工接種による生産技術の向上と安定を計る目的で、數年継続して試験を行なっている。前年度までの、人工接種ならびに生産に好適な土地環境についての成果は、第25回日本林学会関西支部大会で発表した。

本年度は、前年（昭和49年）11月京都府宮津市城屋で採集した試料を使って、胞子の形態等について調査観察を行なった。材料を温室処理した結果、病斑部に白色の胞子角を生じた。これは長だ円形の単胞の柄胞子で *Apiospora* 菌の不完全時代と認められる。なお病斑部の開口部の大きなものについて切片を作つてみると、これは *Melanconium muroianum* HINO et KATUMOTO と判明し、ゴマタケは *Apiospora* 菌の柄胞子の部分と子のう胞子の部分、さらに *Melanconium* 菌とが交互に網状となり美しい斑点を作るものと考えられた。（紺谷修治）

4. 樹木のてんぐす病

（1）サクラのてんぐす病

サクラの最主要病害であるてんぐす病防除法確立のため、本年は薬剤防除試験に供用する罹病苗木の育

成、および、防除手段として行なわれる患部切除作業に伴なう傷口部の早期癒合を計り腐朽菌の侵入を防止するための癒合促進剤と殺菌剤の検討を行なった。

罹病苗木の育成は罹病枝の挿木によって行ない春挿しと夏挿しとにわけた。春挿しの材料は滋賀県甲賀郡甲西町で3月28日採取して穗作りを行い、これをペノミール薬液浸漬処理区と挿付後のペノミール剤散布とに区分し、対照区とあわせて4区を設定し、それぞれ100本あてを、4月8日鹿沼土を充填した園芸用ポット（プランター）に挿付けた。

夏挿しは7月14日京都市伏見区桃山町島津で採取したものについて挿付を行なった。

その結果、春挿しより夏の青挿しの方が発根率が良く、春挿しは400本中8本の発根できわめて悪しかったが、夏挿しについては平均39%の発根率で、薬剤処理間、ならびに処理区と対照区との間には差異が認められなかった。

患部切除の防除手段にともなう傷口部癒合促進剤についての試験には、バルコート、トップジンベーストMを使用し、植栽後3年のソメイヨシノを供試した。なお対照区を含んでそれぞれ約40個の枝打ち部について観察した。また参考のため昭和50年1月枝打ちを行なった針葉樹（約20年生メタセコイヤ、ヒマラヤシーダ、ヒムロ、ユサン、モリンダトウヒ等）についても比較観察を行なった。

その結果、バルコートが最も良く、枝打切口面積に対する癒合面積比は80%で、トップジンベーストMは70%，対照区は30%であった。なお、針葉樹枝打ちについての観察の結果、メタセコイヤは32%，ヒマラヤシーダは29%，ヒムロは12%，ユサンは29%，モリンダトウヒは38%であった。針葉樹の癒合が良くないのは樹令が高かったことと、枝1本の切断面積が大きかったことが関係したのではないかと考えられる。この研究項目は本場・樹病研究室、東北支場・樹病研究室との共同研究課題である。

（紺谷修治・田中潔）

5. マツ類材線虫の防除（特別研究、本支場共同研究）

マツノザイセンチュウがマツに寄生、加害する機構ならびに伝播の機構を解明して、適確な防除法を確立するためつぎのような調査研究を行なった。

（1）マツノザイセンチュウの地理的分布

マツノザイセンチュウの分布は管内全域の海岸線、内陸の標高の低い地帯に広く認められ、顕著な分布の拡大は本年は認められなかつたが、被害の激化したのは奈良県橿原市周辺、兵庫県淡路島でその他の地方は昨年と同程度、またはそれを下回る被害発生であった。

（2）マツノザイセンチュウの寄生性発現に関する条件

マツノザイセンチュウの被害発生環境を知る目的で、前年度に継続して土壤の乾燥と被害発生の関係を明らかにするため、植木鉢に川砂を入れ、3年生クロマツ苗を植え、水を入れたワグネルポットに底部を浸漬し、試験区分を3段階にして、ワグネルポットに水を補給し、7月25日、1本当り5,000頭の線虫を接種した。

水を補給しなかつた区は、8月27日の時点で、接種、無接種に関係なく全ての供試木は枯死した。隔週毎に水を補給した区の接種木は、樹脂浸出異常後急速に枯死したが、毎週水を補給した区の接種木の場合は緩慢であった。毎週・隔週に水を補給した両区の無接種の対照木は、一時的に樹脂の異状を認めたものがあつた。

たが、その後全て正常に回復した。(第87回日本林学会大会講演発表)

(3) マツノマダラカミキリの材線虫伝播様式

マツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリから離脱し、どのようにして樹木へ侵入するかを明らかにする目的で、小型ペトリ皿内でザイセンチュウの保持状況をマークしたカミキリを用いて、羽化脱出の経過日数による線虫離脱状況、後食枝への線虫侵入状況、後食させた苗木の枯損発生等について調査した。

その結果、羽化直後のカミキリからのザイセンチュウの離脱は、まったく認められなかったが、7、15日経過したものからは高い頻度で、ザイセンチュウの離脱が認められ、頭数の最高は5,000頭以上のものも認めた。羽化15日後のカミキリに後食させたクロマツ小枝からのザイセンチュウの分離状況は、供試した41頭のカミキリ中15頭の後食枝から検出された。ペトリ皿中における線虫離脱頭数の少なかったカミキリの後食枝からは、ザイセンチュウの分離検出は認められなかった。

羽化後24時間内に線虫10頭以上の離脱を認めたカミキリによって、後食させた苗は顕著な病状を示した。

(第86回日本林学会大会講演発表)

(4) 薬剤の土壤施用による枯損防止

マツ樹体内的マツノザイセンチュウの直接防除を目的として、土壌中にペノミール剤、テラクワP粒剤の施用試験を行なった。

7年生クロマツの地床に、ペノミール剤の500倍液を1本当り1ℓあて、線虫接種の1ヶ月前と接種時の2回にわたって施用し、線虫は1本あたり10,000頭を接種した。その結果ほとんど効果が認められなかった。

同様にしてテラクワP粒剤を45本のクロマツに、1本当り1kg, 500g, 100gの3区分により接種の1ヶ月前に施用した結果、接種後約4ヶ月後の12月現在で100g施用区で2本の枯損が認められたが、他の供試木は健全であった。

(5) カミキリ脱出材のマツノザイセンチュウの行動

マツノザイセンチュウの生活史と行動の解明のため、カミキリ脱出後の材について、ザイセンチュウの生息の有無を調査した。

1975年3月、桃山御陵地内から採取したアカマツ材を網室に入れ、カミキリ脱出後の材40本について調査した結果、40本中17本からザイセンチュウが検出されたが、検出頭数は1g当たり最高で10頭であった。

(細谷修治・峰尾一彦・田中謙)

6. 松くい虫等防除薬剤の残効とその影響(指定研究、本支場共同研究)

松くい虫の防除に使われている、MEPとEDBの乳剤をヒノキ造林地に散布し、その影響を知るため、京都府立森林植物研究所松尾山国有林内の6年生ヒノキ林に試験地を設定した。薬剤とその散布濃度は、MEP 1%区と2%区、EDB 0.5%区と1%区、MEP 1%とEDB 0.5%混合区、MEP 2%とEDB 1%混合区とし、散布回数は1回(5月あるいは6月)、2回(5月および6月)に分けた。なお、樹冠散布だけでなく根元にも散布する区も設定した。

その結果、薬剤の濃度および散布回数には関係なく、樹冠散布区では144本中6本(4.2%)、根元散布区では39本中1本(2.6%)の異常木の発生が認められた。しかし、この異常は薬害のかたちとしては、特殊

なタイプのように観察された。こんごはヒノキの生理、立地条件等の面から異常発現の機作を究明する必要があると考えられる。

(山田房男・紺谷修治・峰尾一彦・古田公人)

7. マツ林におけるマツタケ菌糸の移植試験（指定研究、本場・土壤微生物・赤沼試験地・京都府林業試験場と共同研究）

前年度に継続して、マツタケ感染苗の育成と、この感染苗を使って成木の新生根に接触感染を計る試験を繰返し行なった。

その結果、マツタケ発生シロ周辺にアカマツ苗を植付け感染苗を作ることが可能となった。なお、シロ環境が日陰のところでは、植付苗の生育が悪く枯死することが多く、とくに外国産マツ（スラッシュマツ、テーダマツ）は顕著である。

林内に溝を切り、落葉腐葉土を埋め込んだところに成木の新生根が集中することが認められた。新生根に雑菌の菌根の形成の多いものについては、ペノミール剤を散布しマツタケ感染苗を接触植付けると、雑菌の菌根形成を抑制し、感染マツタケ菌根が永く土壤中に生息して、成木新生根へ感染し易い徵候が認められた。

(紺谷修治)

8. 農林水産生態系における汚染物質の循環と指標生物に関する研究——大気汚染に伴って発生する病害とその指標性——（プロジェクト研究、本支場共同研究）

(1) マツのすす葉枯病の発生に及ぼす SO₂ の影響

マツのすす葉枯病は大気汚染地域で目立って多く発生する。そこで、大気汚染が本病の発生を増大させるメカニズムを追求するとともに、逆に本病の発生程度、その分布が大気汚染の指標となりうるか否かを検討する。

本年度は低濃度の SO₂ (0.2 ppm) くん煙と本病菌の接種を組み合わせ、本病の発生に及ぼす SO₂ の影響について調査した。

3年生アカマツ苗 240 本を使用し、接種区は本病菌の分生胞子 (1 本あたり 10⁵ 個) を噴霧後、48時間温室処理した。なお、ガスのくん煙は 0.2 ppm の SO₂ で 1 日 6 時間、接種前後 2 週間および接種前または接種後 2 週間処理とし、病状の進展状況、柄子殼形成量を毎週調査した。

その結果 0.2 ppm の SO₂ くん煙は本病の発生を著しく増加させた。また、接種前のくん煙に比べ、接種後のくん煙の影響が大きく病状の進展が顕著になった。なお、柄子殼の形成量は SO₂ くん煙により著しく増加が認められた。

(2) ポプラのマルゾニナ落葉病の実態

ポプラのマルゾニナ落葉病がオキシダント濃度の高い地域で多発していること、および、本病の病徵（病斑と異常落葉症状）がオキシダント被害と酷似していることから、本病の野外での発生実態をつかみ、本病とオキシダント被害の区別点を明らかにする。さらに本病の発生に及ぼす大気汚染の影響を調査するため、本年はオキシダント濃度の高い大阪府羽曳野地区で、大阪府農林技術センター構内の 3 年生ポプラさし木苗 35 クローンについてマルゾニナ落葉病の発生経過を毎週調査した。

4 月中旬から 5 月中旬に展開したポプラの葉は 7 月 18 日までに半数以上落葉した。5 月中旬から 6 月中旬

の展開葉、6月中旬から7月中旬の展開葉、7月中旬から8月中旬の展開葉はそれぞれ、8月25日、9月19日、9月26日までに半数以上が落葉した。病斑形成ピークから3週間のずれで落葉ピークが認められた。本病の罹病程度により、調査したボプラクローンを5段階に分けるとつぎのようになる。

A（強感受性）：I-77/51, I-45/51, I-455, CBD, I-476, I-262

B（感受性）：I-154, LW42, L230, Nr24B, Nr32, LK83, ゲルリカ, Nr19, I-214, ジェネラータ

C（弱感受性）：Nr84, Nr82, L-293, LK67, OP1, Nr2, メリーランド, LD5

D（弱抵抗性）：OP20, Nr6, セロチナ

E（抵抗性）：OP29, I-72/51, OP285, 巨大, OP42, OP51

なお、本病の発生状況とオキシダント濃度の関係については未検討ではあるが、汚染地域におけるボプラの異常落葉は、本病による害とオキシダント害の2つが合わさっていると思われる。こんごは本病による落葉のメカニズムとオキシダントによる落葉のメカニズムの異同を検討すると同時に、本病の誘因としてオキシダント汚染が関与しているか否かを明らかにする。
（田中 潔）

昆 虫 研 究 室

1. 虫害鑑定診断ならびに防除対策指導

（1）管内の虫害発生状況

管内の虫害発生状況を集約した結果、松くい虫による被害量が例年のごとくその大部分をしめていた。昭和45年まで約5万m³程度であった松くい虫（松の枯損）の管内合計被害量は46年から急増を続け、昨年度は約54万m³に達したが本年度は約41万m³であった。終戦直後の大発生（管内の合計、昭和23年約55万m³）を上まわる規模となった今回の大発生も全体的にはようやくピークを越えようとしている。被害量の多かった兵庫、岡山、広島などの各県と大阪管林局管内はいずれも減少の傾向を示した。近畿一円もほぼ前年なみの減少傾向にある。ただし、石川県から島根県までの日本海沿岸の4県はいずれも増加しており、今後の動向が注目される。

他の害虫では、福井、鳥取の両県にスギノハダニの大発生があり、また兵庫、岡山、広島の各県のクリ園でカツラマルカイガラムシ、クリタマバチなどの発生が大きな問題となりつつある。

（2）虫害鑑定診断ならびに防除対策指導

虫害鑑定ならびに防除対策の問合せは下記のとおりで松くい虫関係が相変わらず多く、本年は特に薬剤の空中散布にともなう危被害（ヒノキ、生態系への影響など）についての事項が目立った。次いで庭園木、緑化木に関する問合せも昨年同様に多かった。また、三重、滋賀の両県で初めてアメリカシロヒトリの発生がみられ今後の拡散が注目される。

松の枯損（材線虫と松くい虫） 28件

その他のマツの虫害 4件

スギ、ヒノキの虫害 5件

緑化木・庭園木の虫害	12件
乾材害虫	4件
苗畑害虫	1件

2. マツ類材線虫の防除に関する研究

昭和48年度から開始されたこの本支場共同の特別研究は本年度をもって終了した。本年度に当研究室で行なわれた項目は次の通りである。

(1) マツノマダラカミキリの羽化脱出消長調査

羽化脱出消長を気温との関係でとらえ、合理的な防除時期の決定などの基礎資料とするためにこの調査を行なってきた。本年度は支場構内で継代飼育中のマツノマダラカミキリ寄生木、三木試験地（兵庫県三木市）、八軒屋試験地（京都府宇治市）、支場附近の枯損木を構内のケージに収容しておき、毎日の羽化脱出数を記録した。本年度の12.5°C以上の積算温量曲線は前年、前々年よりも1週間程度の遅れがあったが、羽化脱出消長は開始時がやや遅れた以外は、全般的には平年並みであった。継代飼育用のエサ木はこの3年間、同一のケージ内で保存されているので、毎年の羽化曲線と12.5°C以上の積算温量曲線を3年間分について比較してみたところ、両者の間には一定の関係は見出されず、積算温量曲線がマツノマダラカミキリの羽化脱出を正確に反映するとは言い難い結果となった。

（奥田素男・小林一三・細田隆治）

(2) マツノマダラカミキリ成虫の材線虫保持数

羽化脱出消長調査で得られた成虫の大半を、その日のうちに鉄で細切するか又は乳鉢ですりつぶして材線虫保持数を調べた。三木試験地の枯損木10本から脱出した成虫では材線虫保持数の平均値が約4,000で最高値は29,000であった。単木毎の脱出成虫の平均材線虫保持数は0から13,000まで大きく変動した。また、同一枯損木からの脱出成虫の個体間の材線虫保持数にもかなりの変動があった。支場附近の枯損木では平均で約2,500、最高は51,000であった。単木間では約900から約4,000の変動があり、単木内でもかなりの変動があった。数年来、エサ木を用いて継代飼育をしている個体群にも平均で約100、最高は約2,000の材線虫保持が認められた。後食用の枝条とは別に健全木の乾部を産卵用に与えてあるので、この材線虫は産卵期の成虫によって直接エサ木に持ちこまれることによって、初代の成虫についていた材線虫の子孫が生存を続いているものと思われる。

（細田隆治・小林一三・奥田素男）

(3) マツ類枯損の疫学的研究

見老津試験地（和歌山県西牟婁郡）は1971年に設定されて以来、典型的なクロマツ幼令林の激害型被害の経過をたどり、本年度は7本の残存木中2本が枯死し、累積枯損率は96%に達した。三木試験地は1964年に設定され、アカマツ、クロマツ混交の壮令林で、1973年までは微害型で経過したが、1974年から激害型へ移行する様相を呈し始め、本年は14%の枯損率となった。しかし9月に道路建設のために試験地の主要部が伐倒された。この両試験地は本年度で調査を一応終了することにし、これまでの結果の概要是第86回日本林学会大会で発表した。本年度から新らに八軒屋国有林内に500本ずつのマツをふくむ試験地を、2箇所に設け、今後同様の調査を続けることにした。この枯損率は、本年度1%で、夏型枯損木の出現率も30%であって、微害状態にある。

（小林一三・奥田素男・細田隆治・古田公人）

(4) マツノマダラカミキリ成虫の後食行動と材線虫のマツ樹体内への侵入経過

成虫期は時間的経過とともに羽化脱出直後、それにつづく定着後食期、産卵期にわけられ、それぞれ

の段階での材線虫保持数が調べられている。後食行動を通じてこれらの材線虫がマツ樹体内に侵入していく過程を明らかにするために、鉢植にしたクロマツ5年生苗木にケージをかけてこの中に羽化脱出直後の成虫を放ち、苗木を適宜とりかえながら、後食面積の測定と樹体内に見出される材線虫数を調べた。また、これと並行して、大型ガラスシャーレで成虫を飼育して材線虫の離脱状況を調べた。結果のとりまとめは終っていないが、定着後食期と産卵期の境目に一時的に後食量の低下する時期がある、1日当たりの後食量は0～5cm²とかなりのふれがみられること、後食痕からの材線虫の侵入は早いものでは脱出後5日目から、遅いものでは20日目から始まり、個体によっては産卵期に入ってからの方が材線虫の離脱が多いものもあることなどがわかった。

(小林一三・細田隆治)

(5) マツノマダラカミキリ成虫の密度と後食量および枯損率の関係

マツ林におけるマツノマダラカミキリの後食痕の量は材線虫の侵入経路として直接的にマツの枯損に結びつくと共に、その林におけるマツノマダラカミキリ成虫密度の間接的な表示でもあるので、林分での後食量の推定法が当研究室において研究されてきた。潮岬試験地（和歌山県串本町、クロマツ15年生）では過去2年間の調査で7月下旬以後には1年枝、2年枝上の後食量はほぼ一定になることがわかったので、本年は8月上旬に2年枝1本とその上に群生する1年枝を1サンプルとして全試験木（223本）から合計2,000のサンプルを採取して、その上につけられている後食痕の長さと巾を測定した。この結果、1サンプル当たりの後食面積は0.10cm²であって、1973年の0.42cm²、1974年の0.26cm²にひきつづき減少した。一方、この試験地内で羽化脱出した成虫の数は1973年に約600頭、1974年に約1,000頭、1975年には約30頭であった。1972年からの枯損率はそれぞれ、13.2%，24.3%，12.0%，6.1%（夏型枯損木のみでその後、多少増加する可能性がある）であって、枯損率の変動はその林分内での羽化脱出とは関係なく、後食量の変動と同じ傾向を示した。この試験地の面積は9アールであって、この程度の広さでは成虫の飛翔行動範囲よりずっと小さいので移出・移入がはげしかったためであろう。

(小林一三・細田隆治)

(6) 宮島における標高別被害率調査と次年度の被害程度の予測

昭和48年から50年までの3年間継続された宮島国有林のマツ枯損防止のための薬剤空中散布を51年度にも行うべきか否かを判定する基礎資料とするために、大阪宮林局の依頼により実施した。このために51年度の被害の発生源となる50年度の枯損木の発生状況と、このうちの夏型枯損木におけるマツノマダラカミキリの寄生程度調査を50年12月に実施した。枯損木発生状況は49年度の散布地域と無散布地域の標高別調査（第26回日林関西支部講）に準じて行なったところ、49年度に被害の多かった標高180m以下の無散布地域においては50年度はおよそ半分程度に枯損率が減少し、散布地域ではほとんど枯損木の発生は認められず、全体的に宮島のマツ枯損現象は低下傾向にあることが明らかであった。マツクロキボシゾウムシの寄生がないマツノマダラカミキリ寄生木を12本伐倒し、マツノマダラカミキリの産卵嗜痕数、穿入孔数を調べたところ1m²当たりの平均値でそれぞれ15.9、3.6であって、両者ともに一般的に各地の激害地でみられる夏型枯損木での値にくらべ顕著に少なかった。以上のことから翌年に宮島内で羽化脱出するマツノマダラカミキリ成虫の数はかなり少なく、枯損量もそれに応じて少ないことが予測された。

(奥田素男・細田隆治)

(7) マツ枯損木と生立木の全後食量調査

理論的にはただ1箇所のマツノマダラカミキリの後食痕でマツが枯死することもあり得るし、多くの後食痕をうけながらも枯死しない場合もある。野外の夏型枯損木、秋型枯損木あるいは生立木の後食痕の総量お

より分布様式、後食痕のヤニの出方やカルスの形成程度などから後食痕のつけられた時期を推定することの可能性などを調べるために、50年12月から支場構内で調査を行っている。これまでのところでは次の事が言えそうである。総後食量は夏型枯損木が最も多く、秋型枯損木、生立木の順に少くなり、夏型枯損木ではマツが衰弱をおこした後につけられた後食痕が多く混在し、秋型枯損木にはまれになり、生立木ではすべての後食痕にカルスの形成がヤニの流出があった。後食箇所数と後食面積合計の間には直線関係が認められる。

(古田公人・小林一三・細田隆治)

3. 関西地方における森林昆虫の基礎的研究

(1) 肥料木の害虫に関する研究

関西地方に多いせき懸林地における育林技術に関する研究の一環として、肥料木植栽後の害虫相と被害の推移を調査し、肥料木の衰退現象と虫害の関係を明らかにする目的で昭和38年から各地に試験地を設け調査を続けている。本年度は亀山試験地と信楽試験地で虫害と枯損状況を調査した。亀山のコバノヤマハシノキ林のうち、33林班ではほとんど全てが枯死・消滅したのに対し、31林班ではいまだに78%が残存して立派な林分を形成している。この残存木のうち94%はコウモリガ類やカミキリムシ類の加害をうけており、衰退現象は虫害だけでおきるものではなく、病害、風害、乾燥などが組み合されて引き起される場合が多いものと思われる。

(奥田素男・細田隆治)

(2) スギ球果害虫に関する研究

関西地方におけるスギ球果害虫の種類、被害状況、害虫の生態について調査を行い、採種園での合理的な防除法を確立する。本年度は支場構内のスギ見本林を試験地に設定し、31クローンについて結実量と球果の虫害状況を調査した。このうち11クローンに結実がみられ、害虫としては、スギメムシガ、スギカサガ、ウスアカチビナミシャク、モノゴマダラノメイガの4種が認められた。今後、この調査を継続して、各クローン毎の結実量と害虫密度の変動の関係を明らかにしていく予定である。

(小林一三・細田隆治)

(3) 主要食葉性害虫の生態

主要な害虫の生態に関する広範囲な資料の蓄積は、害虫防除の基本ともいべき項目のひとつであり、その資料は機会に応じて追加されるべき性格のものである。今年度はマイマイガの食害回避という観点から、メタセコイアの摂食の有無と発育の状態を、野外の強制接種と室内飼育によって検討し、メタセコイアは若齢幼虫の餌として不適当なことが判明した。

近年、スギ造林地においてオオミノガの発生が問題となってきている。オオミノガの個体群動態の解析のための予備的な調査として、個体数と分布様式の年変化に関する調査に着手した。

(古田公人)

(4) 低密度個体群の動態

害虫の発生しにくい森林の造成にあたっては、その種が低い密度で生息している場合の環境抵抗を解析し、それを生かした施業計画をたてる必要がある。こうした試みは生態型と発生型（密度変動様式）の異なる種について実施するのが望ましい。マイマイガは北海道においては主として鳥類によって低い密度に保たれることが明らかになっているが、本州での潜伏発生時の密度は北海道よりも高いため、同様な経過で低い密度に決定されているとは限らない。この機構の解明は、昆虫の密度水準、変動機構の解析を行なう上で有力な情報となると思われる。今年度はコナラとスギについて予備的な実験を実施した。

また、マイマイガと類似した生態型を持つが、秋に若齢期を過す例としてマツカレハをとりあげ、その比較検討をこころみることを開始した。 (古田公人)

(5) 昆虫の局所的な発生に対する各種捕食者の反応

昆虫の密度を低く保つうえで広食性の捕食者が重要な役割を果している例が広範囲な種について明らかになってきている。行動様式の異なる捕食者が、昆虫の局所的な発生にどのような反応を示し、その発生を制御するかを解析するため、ササグモ類、オオカマキリ、アシナガバチ類、鳥類についてマツカレハの若齢幼虫に対する反応を観察した。このうち、オオカマキリはマツカレハに対して数の反応を示したが、マツカレハ以外の餌となる動物の豊富な条件下ではそうした反応は見られなかった。 (古田公人)

(6) 昆虫の環境抵抗因子の解析

害虫防除に天敵類を利用するためには、その天敵類の個体群動態が明らかにされねばならない。また、殺虫剤散布の天敵類に及ぼす影響を論ずる際にも、こうした知識は欠くことができない。今年度はササグモとオオカマキリについて、その個体数と分布様式の時間的な変化、死亡要因、捕食能等について、林内と圃場という環境条件の著しく異なる地点間の比較検討を行なった。 (古田公人)

4. 松くい虫等防除薬剤の残効とその影響

マツノマダラカミキリの後食予防のために散布されている薬剤の影響によるものと思われるヒノキの異常落葉現象が昭和49年に大阪府、奈良県下などに発生した。その原因を急ぎ究明することを主な目的として、林地に残留する薬量および昆虫相におよぼす影響をあわせ調査するために昭和50年度単年の指定研究として、本場と関西支場の共同で実施された。

岡崎宮林署豊橋国有林でのMEP 単体1回散布区、2回散布区および(MEP+EDB)の1回散布区、2回散布区ともに10~15%程度のヒノキの異常落葉現象が発生し、MEPの散布が大きく作用していることが明らかになった。空中散布を行なっていない京都市周辺のヒノキ林ではこのような現象は見られなかった。薬剤散布の昆虫相への影響については散布区と無散布区での樹上昆虫相の変化を調べてきた。その結果については本場でとりまとめ中である。 (山田房男・小林一三・奥田素男・細田隆治・古田公人)

5. 農林水産生態系における汚染物質の循環と指標生物に関する研究

(プロジェクト研究・本支場共同研究)

亜硫酸ガス等による大気汚染がクモ類の個体数、および種構成に影響を与えていたか否かについて調査を行なった。本年度は前年度に引き続き汚染のない対照地域として京都府下のマツ林において、海岸から内陸方向に向って調査地をとり、クモ相をしらべた。

また、富山県下ではスギ林を対象として、汚染源に近い地点から遠隔地にわたり同様な調査をした。その結果によると京都府下では前年と同様に、調査地点によるクモ相に一定の傾向はみられなかった。なお、富山県下においては、主なクモ属の個体数は上位5属が前年と共通であり、また、大気汚染測定値および各調査地点の立地条件などについてくわしい検討はなされていないが、汚染源からの距離によるクモ相のちがいは、以前に調査された岡山県下のマツ林のようには顕著な傾向を見出すことはできなかった。

(細田隆治・山田房男)

岡山試験地

1. 寒雨地帯の育林技術

(1) 適性樹草の選抜

せき悪地を対象とした適性樹草を選抜するため、アカシヤ属、ハンノキ属、ヤマモモ、外国産マツ属などの植栽試験を実行している。玉野地区（花崗岩）では適当な施工、施肥を行えばメラノキシロンアカシヤ、スラッシュマツの成長は良好である。現在メラノキシロンアカシヤとヒノキの混植試験を実施している。

(2) 植栽工法試験

降雨の有効利用を主目的として、拡水溝、階段切付工を行い、その効果を検討している。また土壤の保水機能と肥培効果を高めるためオガクズ堆肥、イネワラ、ケイフンを施用し、その効果も検討している。オガクズ堆肥の施用は、一般的に土壤水分の持続に好結果をもたらすが、多量使用の場合は夏期の乾燥時にかえって乾燥しやすい欠点がみられた。

(3) 保育管理

メラノキシロンアカシヤとスラッシュマツの混植の場合は樹高の成長度合がほぼ等しいため、競合は比較的おそくあらわれるが、メラノキシロンとヒノキの混植ではヒノキが被圧されるため、ha 当の植栽本数を少なくする必要がある。これまでの試験で共存できる本数は、植栽後10年で ha 当り 1,000 本以下になっている（表-1）。

表-1 混植樹種別成長と被圧木の整理状態

（玉野試験地）

工法区分		ha 当りの植栽本数	被圧木の平均整理率	ヒノキ			メラノキシロンアカシヤ		
階段工区	(1 本当たりの施用物量)	本	%	cm	cm	%	cm	cm	%
	1 施用物なし	2,000	30.0	354	6.6	0	936	14.3	60
	2 オガクズ 2 kg	2,000	35.0	345	6.4	16	805	11.7	54
	3 オガクズ 4 kg	2,000	27.5	346	6.2	14	880	13.8	41
斜溝区	4 オガクズ 4 kg	1,000	22.0	383	7.7	15	926	13.2	29
	5 オガクズ 6 kg	1,000	18.5	399	8.0	5	903	14.3	32
水平溝区	6 イネワラ 6 kg	1,000	21.5	398	7.8	5	912	12.4	38
	7 施用物なし	1,000	11.5	422	7.7	0	827	13.1	23
施工ナシ	8	1,000	18.0	384	8.0	6	780	11.3	30

注 混植割合は 1 : 1

スラッシュマツの植栽本数別試験では、ha 当 2,500本植栽で12年目までに58%が自然淘汰に近い状態の被圧木がでている。植栽後12年目の成立本数は5,000 本/ha 区>2,500 本/ha 区>10,000 本/ha 区の順になっている（表-2）。

（松田完安・大滝光春・島村秀子）

表-2 スラッシュマツの植栽本数別被圧木整理率と成長調査表

（岡山試験地構内）

昭和38年植栽		2,500本/ha植栽区			5,000本/ha植栽区			10,000本/ha植栽区		
調査年月	被圧木整理率	樹高	胸高直径	被圧木整理率	樹高	胸高直径	被圧木整理率	樹高	胸高直径	
4.6.1.2	11.6%	900cm	13.0cm	27.6%	850cm	10.0cm	43.3%	830cm	8.5cm	
4.8.1.2	38.4%	1130cm	15.7cm	57.0%	1060cm	13.0cm	75.0%	990cm	11.3cm	
5.0.1.2	58.0%	1317cm	18.1cm	76.0%	1262cm	15.9cm	91.0%	1160cm	14.8cm	
ha当たりの残存数	1,050本			1,200本			900本			

試 驗 研 究 資 料

高野山ヒノキ人工林皆伐用材林作業収穫試験地

経営研究室 上野 賢爾・長谷川敬一

試験地の概要

試験地は2ヶ分地にわかれ、1分地は和歌山県伊都郡高野町字高野山国有林31林班ろ小班、2分地は同国有林44林班に小班に所在する。1分地は面積0.2480ha、海拔高約840~870mの中腹より尾根までの北東に面した傾斜約30度の平衡斜面に位置する。2分地は面積0.2000ha、海拔高約800~840mの谷より尾根までの東に面した傾斜約38度の平衡斜面に位置する。1分地の林分は1914年3月haあたり4500本の植栽地で現林令は62年生、2分地の林分は1893年3月haあたり5000本の植栽地で現林令は83年生である。

施業経過

植栽後試験地設定までの施業経過はつきのようである。

1分地

補植：1915年3月haあたり450本（新植の10%）

下刈：1914年～1917年まで4回

間伐：1921年、1927年、1930年の3回

つる切：1931年

2分地

補植：1895年3月haあたり300本（新植の6%）、1900年3月haあたり50本（新植の1%）

下刈：1893年～1912年までに8回

つる切：1906年、1912年の2回

枝打ち：1907年、1912年、1917年、1923年の4回

間伐：1909年、1912年、1916年、1922年の4回

試験の経過

1935年10月試験地設定、以後1941年8月、1947年3月、1950年8月、1955年9月、1960年12月、1965年11月、1970年11月に林分調査が行われ、1975年11月9回目の林分調査を行った。

1分地の間伐は、1935年10月の試験地設定時に本数で27%、材積で20%。1941年8月の2回目調査時に本数で11%、材積で9%。1950年8月の4回目調査時に本数で11%、材積で8%。1955年9月の5回目調査時に本数で19%、材積で13%。1965年11月の7回目調査時に本数で20%、材積で14%の間伐が行われ、1975年11月の9回目調査に本数で17%、材積で11%の間伐を行なった。2分地の間伐は、1935年10月の試験地設定時に本数で17%、材積で12%。1955年9月の5回目調査時に本数で13%、材積で9%。1965年11月の7回目調査時に本数で15%、材積で10%の間伐が行われた。

調査結果の概要

(1) 今回調査結果(1975年11月)

1) 林況

今回調査の林況を表-1にかかげた。林分の相対幹距比は1分地間伐前17.5%，間伐後19.0%。2分地19.8%である。

表-1 間伐前後の林況

(haあたり)

試験区	林令	間伐前後	本数	平均形態			断面積	材積
				樹高	直径	幹材積		
I	62	間伐前	1242	16.2	22.2	0.312	48.0433	387.710
		間伐木	206	14.8	18.8	0.212	5.9633	43.538
		間伐後	1036	16.3	22.8	0.332	42.2800	344.172
II	83	間伐前	870	17.1	27.9	0.509	53.3400	442.765
		間伐木	—	—	—	—	—	—
		間伐後	870	17.1	27.9	0.509	53.3400	442.765

2) 直径階別構成状態

直径階別にみた本数、断面積、材積の構成比率は表-2 のとおりである。この直径階を直径級別にまとめその本数比率をみると、1分地は14cm以下の細径木1%，16~24cmの小径木82%，26~36cmの中径木17

表-2 直径階別構成状態

直 径 階	1 分 地						2 分 地											
	残存木			間伐木			計			残存木			間伐木			計		
	本数	断面積	材積	本数	断面積	材積	本数	断面積	材積	本数	断面積	材積	本数	断面積	材積	本数	断面積	材積
cm	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
14	0.4	0.2	0.1	2.0	1.1	1.0	0.7	0.3	0.2	—	—	—	—	—	—	2.9	1.5	1.3
16	1.5	0.8	0.7	23.5	17.4	16.1	5.2	2.8	2.4	—	—	—	—	—	—	6.9	4.4	4.0
18	8.6	5.4	4.9	29.4	27.3	26.8	12.0	8.0	7.3	—	—	—	—	—	—	14.9	11.0	10.6
20	19.8	15.2	14.5	29.4	32.9	33.7	21.4	17.3	16.6	2.9	1.5	1.3	—	—	—	2.9	1.5	1.3
22	25.7	23.8	23.3	15.7	21.3	22.4	24.0	23.5	23.2	6.9	4.4	4.0	—	—	—	6.9	4.4	4.0
24	23.0	25.1	25.4	—	—	19.2	22.1	22.6	14.9	11.0	10.6	—	—	—	—	14.9	11.0	10.6
26	11.7	15.1	15.7	—	—	9.7	13.3	14.0	20.7	17.9	17.6	—	—	—	—	20.7	17.9	17.6
28	7.4	11.0	11.7	—	—	6.2	9.7	10.4	7.2	17.1	17.1	—	—	—	—	7.2	17.1	17.1
30	1.5	2.7	2.9	—	—	1.3	2.4	2.6	16.1	18.3	18.7	—	—	—	—	16.1	18.3	18.7
32	0.4	0.7	0.8	—	—	0.3	0.6	0.7	12.6	16.2	16.6	—	—	—	—	12.6	16.2	16.6
34	—	—	—	—	—	—	—	—	4.0	5.9	6.1	—	—	—	—	4.0	5.9	6.1
36	—	—	—	—	—	—	—	—	3.5	5.6	5.8	—	—	—	—	3.5	5.6	5.8
38	—	—	—	—	—	—	—	—	1.2	2.1	2.2	—	—	—	—	1.2	2.1	2.2
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	—	—	—	—	100	100	100

%。2分地は小径木25%，中径木74%，大径木1%である。これを前回調査と比較すると、1分地は中径木が8%増、小径木と細径木はおのれ7%，1%減である。2分地は大径木で1%，中径木で14%増、小径木は15%減である。

3) 林分成長

直径、断面積、材積の連年成長は表-3のとおりである。今回の調査は間伐後10年目に当るが、間伐後5年目の前回調査と比較すると、1分地は直径で204%，断面積で207%，材積で188%の成長を示し、2分地は直径で179%，断面積で200%，材積で200%の成長を示した。

4) 林分生産量と収穫量

試験地設定前の収穫量を含まない現在の林分生産量と収穫量は表-4のとおりで、収穫量の平均直径と単木平均材積は1分地13.2cm, 0.080m³。2分地17.1cm, 0.157m³である。

(2) 既往の調査結果

既往の調査結果を総括して表-5にかけた。林分の樹高成長からみると、試験地の地位は紀州地方ヒノキ林林分収穫表地位3等地とよく類似するが、本数密度、断面積密度、材積密度はいづれも試験地が高く、収穫表の基準値はやや低い値のように思われる。

表-3 林分各構成要素の成長状況

(haあたり)

試験区	林令	間伐経年	連年直径成長		断面積連年成長	材積連年成長
			平均	標準偏差		
I	57	5	0.13	cm	0.0356	m ³
	62	10	0.28		0.0572	1.1491
II	78	5	0.16		0.0804	0.5641
	83	10	0.28		0.1108	1.1289

表-4 林分の材積成長

(haあたり)

試験区	林令	総生産量	過去の収穫累計			平均成長量	連年成長量	成長率
			本数	平均直径	材積			
I	62	529.975	2321	13.2	185.803	8.548	12.332	3.46
II	83	545.620	655	17.1	102.855	6.574	11.333	2.74

表-5-1

1 分 地 既 往 の 調 査 結 果 の 総 括

測定年月	樹種	林令	残存木				伐採木				計		総生産量		成長期量		定期連年成長量	
			本数	平均高	平均直径	断面積	材積	本数	平均高	平均直径	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積
昭和10年10月	ヒノキ	22	2439	8.3	10.8	22.3986	97.679	915	7.9	9.2	6.0545	24.257	28.4531	121.936	28.4531	121.936		
昭和16年8月	〃	28	2173	9.6	13.1	29.3659	144.358	265	8.8	12.2	23.1151	14.757	32.3810	159.115	38.4355	183.3729	9.9824	61.4361
昭和22年2月	〃	33	2177	10.6	14.3	34.8361	186.387						34.8361	186.387	44.0057	225.4015	5.5702	42.0291
昭和25年8月	〃	37	1927	11.5	15.6	38.1080	223.788	250	9.3	13.3	33.4687	18.398	41.5767	242.186	50.7463	281.2006	6.7406	55.7991
昭和30年9月	〃	42	1560	12.6	17.3	36.7525	233.586	367	9.8	14.6	6.1504	36.002	42.9029	269.588	55.5412	327.0004	4.7949	45.8000
昭和35年12月	〃	47	1544	13.5	18.4	40.9506	281.651	16	9.8	14.7	0.2742	1.665	41.2248	283.316	60.0135	376.7304	4.4723	49.7300
昭和40年11月	〃	52	1242	14.6	20.1	39.5261	293.247	302	10.4	17.0	6.8681	47.186	46.3942	340.433	65.4571	435.5125	5.4436	58.7821
昭和45年11月	〃	57	1242	15.5	20.8	42.2977	326.048						42.2977	326.048	68.2287	468.3132	2.7716	32.8010
昭和50年11月	〃	62	1036	16.3	22.8	42.2800	344.172	206	14.8	18.8	5.7633	43.538	48.0433	387.710	73.9743	529.9755	5.7456	61.6621

表-5-2 2分地既往の調査結果の総括

測定年月	樹種	林令	残存木				伐採木				計		総生産量		定期成長量		定期連年成長量	
			本数	平均高	平均直徑	断面積	材積	本数	平均高	平均直徑	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積
			m	cm	m ²	m ³	m	cm	m ²	m ³								
昭和10年10月	ヒノキ	43	1255	12.9	16.5	26.8160	176.980	270	11.1	13.5	3.8605	23.280	30.6765	200.260	30.6765	200.260		
昭和16年8月	〃	49	1255	13.6	18.3	33.0495	224.760						33.0495	224.760	36.9100	248.040	6.2335	47.780
昭和22年2月	〃	54	1255	14.2	19.7	38.2105	267.655						38.2105	267.655	42.0710	290.935	5.1610	42.895
昭和25年8月	〃	58	1175	14.8	21.4	42.3010	308.485	80	12.7	16.2	1.6365	10.790	43.9375	319.275	47.7980	342.555	5.7270	51.620
昭和30年9月	〃	63	1020	15.3	22.6	40.9710	309.085	155	13.7	18.4	4.1395	28.830	45.1105	337.915	50.6075	371.985	2.8095	29.430
昭和35年12月	〃	68	1020	15.7	23.8	45.5045	353.315						45.5045	353.315	55.1410	416.215	4.5335	44.230
昭和40年11月	〃	73	870	16.2	25.6	44.6770	357.780	150	16.2	21.3	5.3320	39.955	50.0090	397.735	59.6455	460.635	4.5045	44.420
昭和45年11月	〃	78	870	16.7	26.4	47.4975	386.100						47.4975	386.100	62.4660	488.955	2.8205	28.320
昭和50年11月	〃	83	870	17.1	27.9	53.3400	442.765						53.3400	442.765	68.3085	545.620	5.6445	56.665
																1.1289	11.333	

高野山スギ人工林皆伐用材林作業収穫試験地

経営研究室 上野 賢爾・長谷川敬一

試験地の概要

試験地は和歌山県伊都郡高野町字高野山国有林31林班ろ小班に所在する。面積は 0.1720 ha で、海拔高約 820~840 m の谷より中腹までの北東に面した傾斜約35度の平衡斜面に位置する。林分は1914年3月 haあたり4500本の植栽地で現林令は62年生である。

施業経過

植栽後試験地設定までの施業経過はつぎのとおりである。

補植：1915年3月 ha あたり450本（新植の10%）

下刈：1914年～1917年まで 4回

間伐：1921年、1927年、1930年の3回

つる切：1931年

試験の経過

1935年10月試験地設定、以後1941年8月、1947年3月、1950年8月、1955年9月、1960年12月、1965年11月、1970年11月に林分調査が行われ、1975年11月9回目の林分調査を行なった。間伐は1935年10月の試験地設定時に本数で37%，材積で21%。1941年8月の2回目調査時に前回間伐被害木として本数で11%，材積で6%。1950年8月の4回目調査時に、被圧、枯損木として本数で8%，材積で3%。1955年9月の5回目調査時に本数で17%，材積で11%。1965年11月の7回目調査時に被圧、枯損木として本数で8%，材積で5%の間伐が行なわれ、1975年11月の9回目調査時に本数で23%，材積で12%の間伐を行なった。

調査結果の概要

(1) 今回調査結果 (1975年11月)

1) 林況

間伐前後の林況を表-1にかけた。林分の相対幹距比は間伐前12.6%，間伐後14.4%である。

表-1 間伐前後の林況

(haあたり)

林令	間伐前後	本数	平均形態			断面積	材積
			樹高	直徑	幹材積		
62	間伐前	988	24.8	30.6	0.798	72.78	788.52
	間伐木	226	21.6	22.7	0.406	9.19	91.71
	間伐後	762	25.2	32.6	0.914	63.59	696.81

2) 直径階別構成状態

直径階別にみた本数、断面積、材積の構成比率は表-2のとおりである。この直径階を直径級別にまとめその本数比率をみると、14 cm以下の細径木1%，16~24 cmの小径木25%，26~36 cmの中径木62%，38~

表-2

直 径 階 別 構 成 状 態

直径階 cm	残 存 木			間 伐 木			計		
	本 数	断面積	材 積	本 数	断面積	材 積	本 数	断面積	材 積
14		%	%	2.6	%	0.9	0.6	%	0.1
16				5.1	2.6	2.3	1.2	0.3	0.3
18				5.1	3.1	2.9	1.2	0.4	0.3
20				18.0	14.0	13.4	4.1	1.8	1.6
22	0.8	0.3	0.3	23.1	21.0	20.6	5.9	3.0	2.7
24	7.6	4.3	3.9	28.2	31.5	31.6	12.4	7.7	7.1
26	7.6	4.8	4.5	15.4	19.9	20.4	9.4	6.7	6.3
28	13.0	9.7	9.2				10.0	8.5	8.1
30	18.3	15.5	15.0				14.0	13.5	13.3
32	15.3	14.6	14.4				11.8	12.8	12.7
34	10.0	10.9	10.9				7.6	9.5	9.7
36	12.2	15.0	15.3				9.4	13.1	13.5
38	5.3	7.2	7.4	2.5	6.9	7.9	4.8	7.2	7.5
40	3.1	4.5	4.7				2.4	4.0	4.2
42	3.1	5.1	5.4				2.4	4.4	4.7
44	0.8	1.4	1.7				0.6	1.2	1.3
46	0.8	1.5	1.7				0.6	1.4	1.5
48	1.5	3.4	3.7				1.2	3.0	3.3
50	0.8	1.8	2.0				0.6	1.6	1.7
計	100	100	100	100	100	100	100	100	100

50 cm の大径木12%である。これを前回調査と比較すると、大径木は6%増、小径木で6%減である。

3) 林分成長

直径、断面積の連年成長は表-3 のとおりであり、間伐5年後の前回調査と比較すると直径成長で121%，断面成長で131%，材積成長で123%の成長を示した。

4) 林分生産量と収穫量

試験地設定前の収穫量を含まない現在の林分生産量と収穫量は表-4 のとおりで、収穫量の平均直径は15.4 cm、単木平均材積は0.145 m³である。

(2) 既往の調査結果

既往の調査結果を総括して表-5 にかかげた。林分の樹高成長からみた試験地は紀州地方スギ林林分収穫表地位2等地とよく類似するが本数密度、断面積密度、材積密度はいづれも高い数値を示し、その総生産量は、収穫表に比し約30%高い値を示している。

表-3 林分各構成要素の成長状況

(haあたり)

林令	間伐 経過年数	連年直径成長		断面積 連年成長	材積 連年成長
		平均	標準偏差		
57	5	0.21	0.1272	0.9910	14.835
62	10	0.26	0.1531	1.3013	18.277

表-4 林分材積成長

(haあたり)

林令	総生産量	収穫量	平均成長量	連年成長量	成長率	
					m ³	%
62	948.91	252.10	15.304	18.277	3.91	

表-5 3分地既往の調査結果の総括

測定年月	樹種	林令	残存木				伐採木				計		総生産量		定期成長量		定期連年成長量			
			本数	平均高	平均直径	断面積	材積	本数	平均高	平均直径	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積		
昭和10年10月	スギ	22	1580	12.6	14.9	m ³	m ³	171.319	918	9.8	11.0	8.6401	46.596	36.0273	217.915	36.0273	217.915	m ³	m ³	
昭和16年8月	〃	28	1400	14.6	18.5	m ³	m ³	265.203	180	12.0	13.4	2.5390	15.855	40.1739	281.058	48.8140	327.654	12.7867	109.7392.131118.289	
昭和22年2月	〃	33	1400	15.6	19.8	m ³	m ³	328.598						43.3048	328.598	54.4839	391.049	5.6699	63.3951.134012.679	
昭和26年8月	〃	37	1290	17.2	22.3	m ³	m ³	411.168	110	13.7	15.0	1.9603	13.603	52.3824	424.771	63.5615	487.222	9.0776	96.1732.264924.043	
昭和30年9月	〃	42	1069	18.9	24.6	m ³	m ³	50.7254	444.802	221	16.2	19.9	6.8482	53.191	57.5736	497.993	70.7130	574.047	7.1515	86.8251.430317.365
昭和36年12月	〃	47	1069	20.6	26.2	m ³	m ³	57.8717	542.352					57.8717	542.352	77.8593	671.597	7.1463	97.5501.429319.510	
昭和40年11月	〃	52	988	22.3	28.1	m ³	m ³	61.3205	622.954	81	20.4	22.8	3.3332	31.147	64.6537	654.101	84.6413	783.346	6.7820	111.7491.356422.350
昭和45年11月	〃	57	988	23.2	29.2	m ³	m ³	66.2753	697.130					66.2753	697.130	89.5961	857.522	4.9548	74.1760.991014.835	
昭和50年11月	〃	62	762	25.2	32.6	m ³	m ³	63.5939	696.811	226	21.6	22.7	9.1879	91.705	72.7818	788.515	96.1026	948.908	6.5065	91.3851.301318.277

地獄谷アカマツ、ヒノキ、スギ抾伐用材林作業収穫試験地

経営研究室 上野 賢爾・長谷川敏一

試験地の概要

試験地は奈良市春日山に隣接する地獄谷国有林17林班に小班に所在する。試験地は三区分され、1分地は中腹以下の東南に面した10~35度の斜面に位置し面積は0.2648 ha。2分地は中腹以下の東南に面した10~25度の斜面に位置し面積は0.3446 ha。3分地は中腹下部より尾筋までの東南に面した20~30度の斜面に位置し面積は0.3556 haである。

既往の施業経過

1922年11月当時約46年生のアカマツ天然林を抾伐し、その跡地にヒノキ、スギを補植した。下刈は1923年、1926年、1928年、1933年、1934年、1935年の6回、つる切は1930年~1935年まで6回、除伐は1937年に行われている。

試験の経過

1940年2月抾伐林への誘導とその林分成長、収穫量、林分構造の推移を明らかにするため前記1・2・3分地からなる試験地が設定せられた。以後1949年12月、1955年2月、1960年2月、1965年3月、1970年2月に林分調査が行われ、1976年2月7回目の林分調査を行った。抾伐の実行は、1分地は1965年2月。2分地と3分地は試験地設定時の1940年2月と1965年2月に行われている。

調査結果の概要

(1) 今回調査の結果

1) 樹種別構成

1976年2月現在の樹種別構成を表-1に、その構成比率を表-2にかけた。表-1、2でみられるように1分地はアカマツを上木、ヒノキを下木とする二段林型で、その混交歩合は本数でアカマツ5%，ヒノキ89%。材積ではアカマツ32%，ヒノキ60%である。2分地はアカマツ、ヒノキ、スギの多層林型で、その混交歩合は本数でアカマツ10%，ヒノキ52%，スギ34%。材積ではアカマツ24%，ヒノキ17%，スギ57%である。3分地はアカマツ林下にヒノキ、スギが部分的に侵入しつつある初期の多層林型で、その混交歩合は本数でアカマツ36%，ヒノキ36%，スギ27%。材積ではアカマツ64%，ヒノキ16%，スギ20%である。

2) 樹種別林分成長と収穫量

樹種別の林分成長を表-3にかけた。表-3でみられるように1分地と2分地の林分成長はほぼ同量であるが、3分地の林分成長は前二者の約30%である。試験地設定以後の収穫量（枯損、被害木を含む）は1分地412本、266 m³、2分地413本、242 m³、3分地738本、235 m³で、その平均直径は1分地30.4 cm、2分地28.9 cm、3分地22.1 cmである。試験地設定以前の収穫量を含まない林分総生産量は1分地541 m³、2分地587 m³、3分地479 m³で過去36年間（63~99年生）の平均生産量は1分地13 m³、2分地14 m³、3分地9 m³である。参考までに当地方のあかまつ基準収穫表である近畿地方あかまつ林分収穫表の65~100年生までの35年間の平均生産量をかけると、1等地は3.5 m³、2等地は2.7 m³、3等地は2.2 m³であって、いづれの場合と比較しても試験地の成長量の大きいことが知られる。

(2) 既往の調査結果

既往の調査結果を総括して表-4にかかげた。

表-1 樹種別構成と平均形態

樹種	林令	残存木				枯損木				計				
		本数	平均直径 cm	平均高 m	断面積 m ²	材積 m ³	本数	平均直径 cm	平均高 m	断面積 m ²	材積 m ³	本数	断面積 m ²	材積 m ³
アカマツ	99	1350.3	322.8	2.5801	23.525	132.5	20.5	0.0830	0.749	14	2.6631	24.274		
ヒノキ	53	23419.1	13.4	6.5996	44.001	2615.8	11.5	0.5077	3.186	260	7.1073	47.187		
スギ	53	336.9	18.7	0.3201	3.087	112.4	8.5	0.0121	0.053	4	0.3322	3.140		
モミ		138.6	17.0	0.1170	0.859					1	1.1170	0.859		
針計		251	22.1		9.6168	71.472	2816.5		0.6028	3.980	279	10.2196	75.460	
広		12	17.9	10.4	0.3035	1.446	111.2	9.5	0.0099	0.043	13	0.3134	1.489	
計		263	21.9		9.9203	72.918	2916.4		0.6127	4.031	292	10.5330	76.949	
アカマツ	99	3038.8	23.0	3.5447	34.470	1038.6	22.7	1.1679	11.218	40	4.7156	45.688		
ヒノキ	53	16416.6	13.9	3.5373	24.732	1613.7	11.4	0.2357	1.514	180	3.7730	26.246		
スギ	53	10526.9	21.4	5.9969	56.256	422.0	18.2	0.1524	1.441	109	6.1493	57.697		
モミ		230.6	18.8	0.1465	1.249					2	0.1465	1.249		
針計		301	23.6		13.2284	116.707	3025.7		1.5560	14.173	331	14.7844	130.880	
広		12	19.6	12.4	0.3622	2.068	217.5	13.5	0.0483	0.300	14	0.4105	2.368	
計		313	23.5		13.5906	118.775	3225.3		1.6043	14.473	345	15.1949	133.248	
アカマツ	99	9829.5	19.5	6.6845	55.255	2326.0	18.0	1.2194	9.909	121	7.9039	65.164		
ヒノキ	53	9617.0	13.0	2.1902	14.167	1517.2	15.9	0.3476	2.736	111	2.5378	16.903		
スギ	53	7420.1	16.4	2.3370	17.351	224.6	14.6	0.0948	0.641	76	2.4318	17.992		
モミ		118.1	8.2	0.0257	0.111					1	0.0257	0.111		
針計		269	23.1		11.2374	86.884	4023.0		1.6618	13.286	309	12.8992	100.170	
広		118.2	10.8	0.0260	0.133					1	0.0260	0.133		
計		270	23.1		11.2634	87.017	4023.0		1.6618	13.286	310	129.252	100.303	

表-2 樹種構成比率

樹種	残存木			枯損率			計		
	本数	断面積	材積	本数	断面積	材積	本数	断面積	材積
アカマツ	4.9%	26.0%	32.3%	7.1%	3.1%	3.1%	4.8%	25.3%	31.5%
ヒノキ	89.0	66.5	60.4	10.0	7.1	6.8	49.0	67.5	61.3
スギ	1.1	3.2	4.2	25.0	3.6	1.7	1.4	3.1	4.1
モミ	0.4	1.2	0.1				0.3	1.1	1.1
広	4.9	3.1	2.0	7.7	3.2	2.9	4.5	3.0	1.9
計	100	100	100	9.9	5.8	5.2	100	100	100
アカマツ	9.6	26.1	23.8	25.0	24.8	24.6	11.6	31.0	28.7
ヒノキ	52.4	26.0	17.1	8.9	6.2	5.8	52.2	24.8	16.4
スギ	33.6	44.1	56.8	3.7	2.5	1.7	31.6	40.5	52.6
モミ	0.6	1.1	0.9				0.5	1.0	0.8
広	3.8	2.7	1.4	14.3	11.8	12.7	4.1	2.7	1.5
計	100	100	100	9.3	10.6	9.1	100	100	100
アカマツ	36.3	59.4	63.5	19.0	15.4	15.2	39.1	61.2	65.0
ヒノキ	35.5	19.4	16.3	13.5	13.7	16.2	35.8	19.6	16.9
スギ	27.4	20.7	19.9	2.6	3.9	3.6	24.5	18.8	17.9
モミ	0.4	0.2	0.1				0.3	0.2	0.1
広	0.4	2.3	0.2				0.3	0.2	0.1
計	100	100	100	12.9	12.9		100	100	100

表-3 林分生長 (haあたり)

施業区	樹種	定期成長量	連年成長量	成長率	過去36年間の収穫量			総生産量	過去36年間の平均生産量
					本数	平均直径	材積		
I	アカマツ	4.382m ³	0.730m ³	0.82%	152	46.8 cm	244.473m ³	333.398m ³	5.171m ³
	ヒノキ	56.734	9.456	6.30	221	13.6	18.686	185.010	7.031
	スギ	1.504	0.251	2.26	4	12.0	0.200	11.869	0.352
	モミ	0.117	0.020	0.61	0	0	0	3.247	0.116
	広	1.305	0.218	4.37	35	13.8	2.252	7.716	0.207
	計	64.042	10.674	4.12	412	30.4	265.609	541.240	12.877
II	アカマツ	14.938	2.490	1.99	194	39.4	219.771	319.734	5.234
	ヒノキ	21.678	3.613	5.54	125	12.7	9.472	81.195	2.987
	スギ	29.939	4.990	3.28	65	15.3	9.117	172.295	5.264
	モミ	1.085	0.181	5.87	6	22.9	2.156	5.778	0.182
	広	1.023	0.170	2.68	23	13.0	1.647	7.644	0.294
	計	68.663	11.538	3.25	413	28.9	242.163	587.173	13.961
III	アカマツ	2.417	0.404	0.22	582	23.9	220.280	375.547	5.949
	ヒノキ	11.669	1.945	4.67	84	14.2	9.372	49.181	1.687
	スギ	6.634	1.105	2.34	33	15.2	3.674	52.430	1.382
	モミ	-0.014	-0.002	-0.73	5	21.3	1.164	1.476	0.038
	広	0.102	0.017	5.22	34	8.1	0.180	0.554	0.014
	計	20.808	3.468	1.28	738	22.1	234.670	479.188	9.070

表-4-1 1分地既往の調査結果の総括 (haあたり)

測定年月	樹種	林令	残存木				伐採木				計		総生産量		定期成長量		定期連年成長量		
			本数	平均高	平均直径	断面積	材積	本数	平均高	平均直径	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積	
昭和15年 2月	アカマツ	63	181	m 21.3	cm 37.5	m ² 20.0306	m ³ 182.149	19	m 20.9	cm 35.4	m ² 1.8603	m ³ 16.794	m ² 21.8909	m ³ 198.943	m ² 21.8909	m ³ 198.943	m ² m	m ³ m	
	ヒノキ	17	151	6.3	7.6	0.6858	2.217				0.6858	2.217	0.6858	2.217					
	スギ	17	815	7.2	25.4	0.3829	2.719				0.3829	2.719	0.3829	2.719					
	モミ	4	7.0	13.8	0.0566	0.242					0.566	0.242	0.0566	0.242					
	広	8	9.0	10.0	0.0589	0.242					0.589	0.242	0.0589	0.242					
	計	352	27.7	21.2148	187.568	19	35.4	1.8603	16.794	23.0751	204.362	23.0751	204.363						
昭和24年 10月	アカマツ	73	173	22.3	43.1	25.3051	234.755	819	19.5	29.1	0.5008	4.396	25.8059	239.151	27.6662	255.945	5.7753	57.0020.5775	5.700
	ヒノキ	27	1005	8.7	10.9	9.2995	44.101	4	6.2	7.4	0.0162	0.057	9.0157	44.158	9.3157	44.158	8.6299	41.9410.8630	4.194
	スギ	27	1515	7.2	22.5	0.6001	4.188				0.6001	4.188	0.6001	4.188	0.2172	1.4690.0217	0.147		
	モミ	417	1.1	21.3	0.1344	1.095					0.1344	1.095	0.1344	1.095	0.0778	0.8530.0078	0.085		
	広	49	9.0	10.2	0.4003	1.582	4	8.5	11.4	0.385	0.162	0.4388	1.744	0.4388	1.744	0.3799	1.5020.0380	0.150	
	計	1246	19.1	35.7394	285.721	16	21.6	0.5555	4.615	36.2949	290.336	38.1552	307.130	15.0801	102.7671.5080	10.276			
昭和30年 2月	アカマツ	78	173	22.6	45.1	27.7772	259.014				27.7772	259.014	30.1383	280.204	2.4721	24.2590.4944	4.852		
	ヒノキ	32	1046	10.1	12.5	12.8523	69.679				10.8523	69.679	12.8685	69.763	3.5528	25.5780.7106	5.116		
	スギ	32	1515	8.2	24.3	0.7020	4.951				0.7020	4.951	0.7020	4.951	0.1019	0.7630.0204	0.153		
	モミ	418	5.2	25.4	0.1915	1.639					0.1915	1.639	0.1915	1.639	0.0571	0.5440.0114	0.109		
	広	49	9.6	12.0	0.5589	2.398					0.5589	2.398	0.5974	2.560	0.1586	0.8160.0314	0.163		
	計	1287	20.4	42.0819	337.681						42.0819	337.681	44.4977	359.090	6.3425	51.9601.2685	10.393		
昭和35年	アカマツ	83	170	22.8	47.3	29.8123	278.958	320	21	29.6	0.2598	2.315	30.0721	281.273	32.4332	302.463	2.2949	22.2590.4590	4.452
	ヒノキ	37	1065	11.1	13.4	15.0853	88.304	11	7.4	8.0	0.0570	0.227	15.1423	88.531	15.1585	88.588	2.2900	18.8520.4580	3.770
	スギ	37	1516	2.2	26.5	0.8319	5.906				0.8319	5.906	0.8319	5.906	0.1299	0.9550.0260	0.191		

昭和40年 2月	モミ	419.2	28.0	0.2477	2.175				0.2477	2.175	0.2477	2.175	0.0562	0.536	0.0112	0.107			
	広	7210.0	12.3	0.8569	3.652	4	9.0	9.8	0.0283	0.113	0.8852	3.765	0.9237	3.927	0.3263	1.367	0.0653	0.273	
	計	1326	21.2	46.8341	378.995	18		15.3	0.3451	2.655	47.1792	381.650	49.5950	403.059	5.0973	43.969	1.0195	8.793	
昭和42年 2月	アカマツ	88	6422.7	45.6	10.4936	97.991	10623.0	50.6	21.2934	199.675	31.7870	297.666	34.4079	321.171	1.9747	18.708	0.3949	3.742	
	ヒノキ	42	100511.8	14.7	16.9981	106.764	60	9.6	10.7	0.5412	2.919	17.5393	109.683	17.6125	109.967	2.4540	21.379	0.4908	4.276
	スギ	42	1516.4	28.4	0.9603	6.926					0.9603	6.926	0.9603	6.926	0.1284	1.020	0.0257	0.204	
	モミ		420.2	31.7	0.2980	2.692					0.2980	2.692	0.2980	2.692	0.0503	0.517	0.0101	0.103	
	広		5310.0	12.9	0.6941	2.931	1910.0	15.6	0.3754	1.582	1.0695	4.513	1.1363	4.788	0.2126	0.861	0.0425	0.172	
	計	1141		29.4441	217.304	185		39.1	22.2100	204.176	51.6541	421.480	54.4150	445.544	4.8200	42.485	0.9640	8.497	
昭和45年 2月	アカマツ					8			1.2686	11.998	1.2686	11.998							
	ヒノキ					26			0.4540	2.393	0.4540	2.393							
	シラカシ					4			0.0650	0.230	0.0650	0.230							
	計					38			1.7876	14.621	1.7876	14.621							
	アカマツ	93	5322.8	47.1	9.2209	87.374	4		0.6812	6.464	9.9021	93.838	35.0850	329.016	0.6771	7.845	0.1354	1.569	
	ヒノキ	47	95612.4	16.6	20.5632	121.633	22		0.2143	1.047	20.7775	122.680	21.8459	128.276	4.2334	18.309	0.8467	3.662	
昭和51年 2月	スギ	47	1515.2	30.5	1.1053	10.365					1.1053	10.365	1.1053	10.365	0.1450	3.439	0.0290	0.688	
	モミ		416.0	35.4	0.3720	3.130					0.3720	3.130	0.3720	3.130	0.0740	0.438	0.0148	0.087	
	広		49	9.5	15.2	0.8921	4.324				0.8921	4.324	1.3993	6.411	0.2630	1.623	0.0526	0.325	
	計	1077		19.5	32.1535	226.826	26		0.8955	7.511	33.0490	234.337	59.8075	477.198	5.3925	31.654	1.0785	6.331	
	アカマツ	99	4922.8	50.3	9.7528	88.925	420.5	32.5	0.3137	2.831	10.0665	91.756	35.6306	333.398	0.8456	4.382	0.1409	0.730	
	ヒノキ	53	88513.4	19.0	24.9465	166.324	9811.5	15.8	1.9191	12.043	26.8656	178.367	28.1483	185.010	6.3024	56.734	1.0504	9.456	
昭和51年 2月	スギ	53	1118.7	36.9	1.2100	11.669	4	8.5	12.4	0.0457	0.200	1.2557	11.869	1.2557	11.869	0.1504	1.504	0.0251	0.251
	モミ		417.0	38.6	0.4423	3.247					0.4423	3.247	0.4423	3.247	0.0703	0.117	0.0117	0.020	
	広		4510.4	17.9	1.1472	5.466	4	9.5	11.2	0.0374	0.163	1.1846	5.629	1.4696	7.716	0.2925	1.305	0.0488	0.218
	計	994		21.9	37.4988	275.631	110		16.4	2.3159	15.237	39.8147	290.868	67.4687	541.240	7.6612	64.042	1.2769	10.674

表-4-2 2分地既往の調査結果の総括 (haあたり)

測定年月	樹種	林令	残存木				伐採木				計		総生産量		定期成長量		定期連年成長量	
			本数	平均高	平均直径	断面積	材積	本数	平均高	平均直径	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積
昭和15年 2月	アカマツ	63	229	20.2	31.0	17.2649	152.411	52	19.8	29.5	3.5827	31.245	20.8476	183.656				
	ヒノキ	17	29	12.8	14.9	0.5055	3.523						0.5055	3.523				
	スギ	17	299	13.0	15.6	5.7226	35.409	23	7.4	8.7	0.1370	0.560	5.8596	35.969				
	モミ		9	9.8	16.2	0.1747	0.984	3	6.0	8.4	0.0160	0.075	0.1907	1.059				
	計		566		23.1	23.6677	192.327	78		24.6	3.7357	31.880	27.4034	224.207				
昭和24年 12月	アカマツ	73	229	21.1	35.6	22.7562	206.732						22.7562	206.732	26.3389	237.977	5.4913	54.321
	ヒノキ	27	374	9.8	10.3	3.1100	15.609						3.1100	15.609	3.1100	15.609	2.6045	12.086
	スギ	27	328	13.7	18.7	9.0267	59.771	6	9.5	11.1	0.563	0.284	9.0830	60.055	9.2200	60.615	3.3604	24.646
	モミ		9	17.6	21.2	0.3085	2.557						0.3085	2.557	0.3245	2.632	0.1338	1.573
	広		38	9.7	10.1	0.3035	1.213										0.0304	0.121
	計		978		21.5	35.5049	285.882	6		11.1	0.563	0.284	35.5612	286.166	39.2969	318.046	11.8935	93.839
昭和30年 2月	アカマツ	78	226	21.5	37.4	24.8067	227.394	3	19.3	26.5	0.1602	0.731	24.9669	228.125	28.5496	259.370	2.2107	21.393
	ヒノキ	32	485	10.0	11.3	4.8413	25.165	3	8.7	11.0	0.0276	0.133	4.8689	25.298	4.8689	25.298	1.7589	9.689
	スギ	32	325	14.5	20.2	10.4393	70.479	3	13.4	16.2	0.0598	0.366	10.4991	70.845	10.6924	71.689	1.4724	11.074
	モミ		9	18.2	23.5	0.3772	3.186						0.3772	3.186	0.3932	3.261	0.0687	0.629
	広		38	10.0	11.9	0.4202	1.933						0.4202	1.933	0.4202	1.933	0.1167	0.720
	計		1083		21.9	40.8847	328.157	9		19.0	0.2476	1.230	41.1323	329.387	44.9243	361.551	5.6274	43.505
昭和35年 2月	アカマツ	83	223	21.7	38.8	26.4005	243.349	3	17.0	20.7	0.9780	0.783	26.4983	244.132	30.2412	276.108	1.6916	16.738
	ヒノキ	37	531	10.4	12.1	6.0540	33.273	3	10.0	11.7	0.0313	0.157	6.0853	33.430	6.1129	33.563	1.2440	8.265
	スギ	37	331	16.4	21.4	11.8796	95.171						11.8796	95.171	12.1327	96.381	1.4403	24.690
	モミ		9	18.8	24.6	0.4132	3.564						0.4132	3.564	0.4292	3.639	0.0360	0.378

	広	58	10.0	12.2	0.6779	2.977				0.6779	2.977	0.6779	2.977	0.2577	1.044	0.0515	0.209			
	計	1152		22.4	45.4252	378.334	6	16.9	0.1291	0.940	45.4252	378.334	49.5939	412.668	4.6696	51.117	0.9339	10.224		
昭和40年 2月	アカマツ	88	125	21.0	35.7	12.5099	114.472	98	22.7	46.5	15.9941	149.150	28.5040	263.622	32.3447	296.381	2.1035	20.273	0.4207	4.055
	ヒノキ	42	490	11.4	13.2	6.6724	39.524	41	11.0	12.4	0.4933	2.853	7.1657	42.377	7.2246	42.667	1.1117	9.104	0.2223	1.821
	スギ	42	316	17.7	22.7	12.7530	107.774	15	15.2	18.6	0.3932	3.035	13.1462	110.809	13.3993	112.019	1.2666	15.638	0.2533	3.128
	モミ		6	14.8	23.1	0.2414	1.944	320	5.3	18.6	0.2304	2.081	0.4718	4.025	0.4878	4.100	0.0586	0.461	0.0117	0.092
	広		41	10.0	15.1	0.7240	2.957	17	10.0	10.9	0.1649	0.777	0.8889	3.734	0.8889	3.734	0.2110	0.757	0.0422	0.151
	計		977		20.7	32.9007	266.671	174	35.5	17.2759	157.896	50.1766	424.567	54.3453	458.901	4.7514	46.233	0.9502	9.247	
昭和42年 2月	アカマツ							6	20.3	30.7	0.4298	3.857								
	ヒノキ							17	11.2	13.0	0.2311	1.398								
	スギ							6	12.5	15.0	0.1031	0.693								
	計							29	18.3	0.7639	5.948									
昭和45年 2月	アカマツ	93	116	21.5	37.2	12.7058	117.557	319	6.2	7.1	0.1673	1.473	12.8731	119.030	33.1377	304.796	0.7930	8.415	0.1586	1.683
	ヒノキ	47	458	11.8	14.7	7.8239	54.436	15	9.3	9.7	0.1067	0.540	7.9306	54.976	8.7139	59.517	1.4893	16.850	0.2978	3.370
	スギ	47	310	19.4	24.6	14.7766	137.382					14.7766	137.382	15.5259	142.320	2.1266	30.301	0.4253	6.060	
	モミ		6	14.5	25.4	0.2932	2.537					0.2932	2.537	0.5396	4.693	0.0518	0.593	0.0104	0.119	
	広		41	11.3	17.3	0.9593	5.844					0.9593	5.844	1.1242	6.621	0.2353	2.887	0.0471	0.577	
	計		931		22.4	36.5588	317.756	18	14.2	0.2740	2.013	36.8328	319.769	59.0413	517.947	4.6960	59.046	0.9392	11.809	
昭和51年 2月	アカマツ	99	87	23.0	38.8	10.2883	99.963	29	22.7	38.6	3.3869	32.532	13.6752	132.495	34.1071	319.734	0.9694	14.938	0.1616	2.490
	ヒノキ	53	476	13.9	16.6	10.2582	71.723	46	11.4	13.7	0.6835	4.391	10.9417	76.114	11.8317	81.195	3.1178	21.678	0.5196	3.613
	スギ	53	304	21.4	26.9	17.3910	163.142	12	18.2	22.0	0.4420	4.179	17.8330	167.321	18.5823	172.259	3.0564	29.939	0.5094	4.990
	モミ		6	18.8	30.6	0.4249	3.622					0.4249	3.622	0.6713	5.778	0.1317	1.085	0.0220	0.181	
	広		35	12.4	19.6	1.0504	5.997	613	5.1	7.5	0.1401	0.870	1.1905	6.867	1.3554	7.644	0.2312	1.023	0.0385	0.170
	計		908		23.5	39.4128	344.447	93	25.3	4.6525	41.972	44.0653	386.419	66.5478	586.610	7.5065	68.663	1.2511	11.444	

表-4-3 3分地既往の調査結果の総括 (haあたり)

測定年月	樹種	林令	残存木				伐採木				計		総生産量		定期成長量		定期連年成長量			
			本数	平均高	平均直径	断面積	材積	本数	平均高	平均直径	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積	断面積	材積		
昭和15年 2月	アカマツ	63	604	m 16.4	cm 21.6	m ² 22.8548	m ³ 125.060	233	m 15.6	cm 16.3	m ² 4.8819	m ³ 35.805	m ² 27.7367	m ³ 220.866	m ² 27.7367	m ³ 220.866	m ²	m ³		
	ヒノキ	17	49	m 10.2	cm 15.1	m ² 0.8616	m ³ 5.326				m ² 0.8616	m ³ 0.8616	m ² 5.326	m ³ 5.326						
	スギ	17	126	m 11.7	cm 15.6	m ² 2.4798	m ³ 15.650	17	m 9.9	cm 10.9	m ² 0.1631	m ³ 0.849	m ² 2.6429	m ³ 16.499	m ² 2.6429	m ³ 16.499				
	モミ		5	m 6.0	cm 10.2	m ² 0.0461	m ³ 0.081	3	m 10.0	cm 18.9	m ² 0.0790	m ³ 0.405	m ² 0.1251	m ³ 0.486	m ² 0.1251	m ³ 0.486				
	広							34		8.1		0.1738		0.180		0.1738		0.180		
	計		804		20.4	26.2423	206.118	287		15.3	5.2978	37.239	31.5401	243.357	31.5401	243.357				
昭和24年 12月	アカマツ	73	604	m 18.7	cm 24.5	m ² 29.4676	m ³ 250.758				m ² 29.4676	m ³ 250.758	m ² 34.3495	m ³ 286.563	m ² 6.6128	m ³ 65.697	m ² 0.6613	m ³ 6.570		
	ヒノキ	27	166	m 8.8	cm 12.0	m ² 1.8957	m ³ 10.776				m ² 1.8957	m ³ 10.776	m ² 1.8957	m ³ 10.776	m ² 1.0341	m ³ 5.450	m ² 0.1034	m ³ 0.545		
	スギ	27	169	m 12.3	cm 16.3	m ² 3.5048	m ³ 22.374				m ² 3.5048	m ³ 22.374	m ² 3.6679	m ³ 23.223	m ² 1.0250	m ³ 6.724	m ² 0.1025	m ³ 0.672		
	モミ		5	m 12.7	cm 14.2	m ² 0.0886	m ³ 0.537				m ² 0.0886	m ³ 0.537	m ² 0.1676	m ³ 0.942	m ² 0.0425	m ³ 0.456	m ² 0.0043	m ³ 0.046		
	広																			
	計		964		21.5	34.9567	284.445						34.9567	284.445	40.2545	321.684	8.7144	78.327	0.8715	7.833
昭和30年 2月	アカマツ	78	599	m 19.1	cm 25.9	m ² 31.4499	m ³ 272.108	25	m 18.0	cm 21.6	m ² 0.9241	m ³ 7.669	m ² 32.3740	m ³ 279.777	m ² 37.2559	m ³ 315.582	m ² 2.9064	m ³ 29.019	m ² 0.5813	m ³ 5.804
	ヒノキ	32	259	m 8.9	cm 11.9	m ² 2.9038	m ³ 16.246				m ² 2.9038	m ³ 16.246	m ² 2.9038	m ³ 16.246	m ² 1.0081	m ³ 5.470	m ² 0.2016	m ³ 1.094		
	スギ	32	191	m 12.6	cm 16.7	m ² 4.1811	m ³ 26.918				m ² 4.1811	m ³ 26.918	m ² 4.3442	m ³ 27.767	m ² 0.6763	m ³ 4.544	m ² 0.1353	m ³ 0.909		
	モミ		5	m 14.2	cm 16.2	m ² 0.1161	m ³ 0.830				m ² 0.1161	m ³ 0.830	m ² 0.1951	m ³ 1.235	m ² 0.0275	m ³ 0.293	m ² 0.0055	m ³ 0.059		
	広		3	m 7.0	cm 11.0	m ² 0.0267	m ³ 0.104				m ² 0.0267	m ³ 0.104	m ² 0.2005	m ³ 0.284	m ² 0.0267	m ³ 0.104	m ² 0.0053	m ³ 0.021		
	計		1057			38.6776	316.206	25		21.6	0.9241	m ² 7.669	m ³ 39.6017	m ² 323.875	m ³ 44.8995	m ² 361.114	m ³ 4.6450	m ² 39.430	m ³ 0.9290	
昭和35年	アカマツ	83	579	m 19.5	cm 27.3	m ² 33.8241	m ³ 296.998	20	m 14.5	cm 14.4	m ² 0.3206	m ³ 2.314	m ² 34.1447	m ³ 299.312	m ² 39.9507	m ³ 342.786	m ² 2.6948	m ³ 27.204	m ² 0.5390	m ³ 5.441
	ヒノキ	37	309	m 10.2	cm 212.4	m ² 3.7044	m ³ 20.737				m ² 3.7044	m ³ 20.737	m ² 3.7044	m ³ 20.737	m ² 0.8006	m ³ 4.494	m ² 0.1601	m ³ 0.898		
	スギ	37	205	m 12.8	cm 16.9	m ² 4.6189	m ³ 31.420				m ² 4.6189	m ³ 31.420	m ² 4.7820	m ³ 32.269	m ² 0.4378	m ³ 4.502	m ² 0.0876	m ³ 0.900		

2	月	モ	ミ	514.9	17.3	0.1322	0.973				0.1322	0.973	0.2112	1.378	0.0161	0.143	0.0032	0.029		
		広		3 7.5	13.6	0.0408	0.155				0.0408	0.155	0.2146	0.335	0.0141	0.051	0.0028	0.010		
		計		1101	22.1	42.3204	350.283	20	14.4	0.3206	2.314	42.6410	352.597	48.8629	397.505	3.9634	36.391	0.7927	7.278	
昭和40年 2月	アカマツ	88	410	19.2	26.5	22.5643	197.030	169	20.4	31.4	13.1999	117.972	35.7642	315.002	41.8908	360.790	1.9401	18.004	0.3880	3.601
	ヒノキ	42	281	11.8	14.1	4.3656	25.908	28	8.2	9.9	0.2157	0.939	4.5813	26.847	4.5813	26.847	0.8769	6.110	0.1754	1.222
	スギ	42	194	15.3	18.3	5.0933	36.049	11	12.2	14.0	0.1721	1.024	5.2654	37.073	5.4285	37.922	0.6465	5.653	0.1293	1.131
	モミ			513.9	18.5	0.1544	1.060					0.1544	1.060	0.2334	1.465	0.0222	0.087	0.0044	0.017	
	広			3 8.5	15.1	0.0503	0.202					0.0503	0.202	0.2241	0.382	0.0085	0.047	0.0017	0.009	
	計			893	21.4	32.2279	260.249	208	28.8	13.5877	119.935	45.8156	380.184	52.3581	427.406	3.4942	29.901	0.6988	5.980	
昭和42年 2月	アカマツ							45	19.3	26.9	2.5602	22.477	2.5602	22.477						
	ヒノキ							14	9.6	11.5	0.1450	0.745	0.1450	0.745						
	計							59	24.1	2.7052	23.222	2.7052	23.222							
昭和45年 2月	アカマツ	93	340	19.5	27.7	20.4734	180.694	25	14.3	19.6	0.7632	6.199	21.2366	186.893	43.1233	373.130	1.2325	12.340	0.2465	2.468
	ヒノキ	47	267	12.2	216.0	5.3283	35.828					5.3283	35.828	5.6890	37.512	1.1077	10.665	0.2215	2.133	
	スギ	47	194	16.0	19.6	5.8729	43.923					5.8729	43.923	6.2081	45.796	0.7796	7.874	0.1559	1.575	
	モミ			3 9.0	17.1	0.0646	0.326	213.0	21.2	0.0992	0.759	0.1638	1.085	0.2428	1.490	0.0094	0.025	0.0019	0.005	
	広			3 9.5	16.9	0.0629	0.272					0.0629	0.272	0.2367	0.452	0.0126	0.070	0.0025	0.014	
	計			807	22.4	31.8021	261.043	27	19.8	0.8624	6.958	32.6645	268.001	55.4999	458.380	.1418	30.974	0.6283	6.195	
昭和51年 2月	アカマツ	99	275	19.5	29.5	18.2834	155.267	65	18.0	26.0	3.4265	27.844	22.2099	183.111	44.8598	375.547	1.7365	2.417	0.2894	0.403
	ヒノキ	53	270	13.0	17.0	6.1545	39.809	42	15.9	17.2	0.9768	7.688	7.1313	47.497	7.4920	49.181	1.8030	11.669	0.3005	1.945
	スギ	53	208	16.4	20.1	6.5670	48.756	514.6	24.6	0.2664	1.801	6.8334	50.557	7.1686	52.430	0.9605	6.634	0.1601	1.105	
	モミ			3 8.2	18.1	0.0722	0.312					0.0722	0.312	0.2504	1.476	0.0076	-0.014	0.0013	-0.02	
	広			3 10.8	18.2	0.0731	0.374					0.0731	0.374	0.2469	0.554	0.0102	0.102	0.0017	0.017	
	計			759	23.9	31.1502	244.518	112	23.0	4.6697	37.333	36.3199	281.851	60.0177	479.188	4.5178	20.808	0.7530	3.468	

竜の口量水試験地観測報告

防災研究室、岡山試験地

はじめに

継続観測中である量水試験成績は、昭和45年12月31日までの分については既に森林理水試験観測報告（昭和36年3月、林業試験場）および竜の口量水試験地観測報告（昭和46年12月、林業試験場関西支場年報No. 12）によって報告されている。ここではそれ以降の昭和46年1月1日から昭和50年12月31日までの分についての資料を報告する。

資料は前掲報告と同様、岡山試験地観測露場の普通雨量計によって測定した日降水量（mm）と、南谷（22.611 ha）、北谷（17.274 ha）の2試験流域の日流出量（mm）である。

ここに登載した5年間について、変化した点を付記する。

1. 林況の変遷

南谷、北谷ともに全く放置されたままであり、南谷のクロマツは現在樹高5~8mに達している。また両谷の1部にマツクイムシによる被害木が見うけられる。

2. 降水量および流出量の測定

降水量の観測定時は全期間を通じて午前9時である。流出量計算については、水位曲線をほぼ直線と見なしうる部分に細分し、各部分の両端水位を平均し、得られた平均水位に対する流量を水位流量曲線から求め、これに当該時間を乗じ、流域面積で除し、それを順次累加して1日の流出量とした。

日降水量は当日の9時から翌日の9時までを当日とし、日流出量は0~24時である。

3. 観測あるいは観測値の整理に従事した職員

阿部敏夫、松田宗安、大滝光春、島村秀子、小林忠一、岸岡孝、藤枝基久、遠藤治郎

4. 日降水量と日流出量

次表に示すとおりである。

項目	1971年																	
	1月			2月			3月			4月			5月			6月		
	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量
日	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷
1		0.259	0.315		0.165	0.181		0.180	0.282		1.840	4.114		0.306	0.560		0.310	0.359
2		0.231	0.250		0.162	0.178	11.8	0.189	0.301		0.997	2.005		0.250	0.404	8.2	0.232	0.256
3	0.6	0.218	0.220	0.7	0.160	0.171		0.474	1.079		0.571	1.045	6.4	0.219	0.321	7.3	0.292	0.318
4	0.7	0.214	0.206		0.162	0.171		0.364	0.886		0.395	0.697	5.8	0.374	0.551	15.2	1.690	3.542
5	0.5	0.227	0.196	0.1	0.159	0.168		0.291	0.595	10.5	0.308	0.524		0.306	0.495	26.0	2.153	3.839
6		0.208	0.202		0.154	0.158		0.239	0.452		0.490	0.973	0.3	0.262	0.381		8.928	13.879
7		0.241	0.250		0.141	0.153		0.208	0.365		0.340	0.828	1.5	0.224	0.310		3.218	3.052
8	0.6	0.275	0.308		0.142	0.149		0.191	0.311	2.5	0.294	0.642		0.185	0.251		1.163	1.039
9		0.260	0.284		0.140	0.142		0.180	0.276	6.1	0.417	0.828		0.157	0.211		0.661	0.569
10		0.240	0.248		0.138	0.136		0.170	0.254		0.389	0.933		0.144	0.187	7.3	0.521	0.482
11		0.229	0.218		0.138	0.136		0.159	0.234		0.306	0.671		0.138	0.170	0.1	0.481	0.494
12		0.228	0.204	5.5	0.143	0.140		0.156	0.216		0.244	0.507		0.136	0.149	25.6	1.605	2.686
13		0.216	0.197		0.171	0.166		0.149	0.197		0.218	0.429		0.129	0.144		5.055	7.516
14		0.212	0.184	4.5	0.151	0.145		0.142	0.191		0.200	0.383	0.6	0.131	0.144	7.2	2.230	2.141
15		0.202	0.171	0.0	0.175	0.182		0.141	0.188	0.0	0.194	0.341		0.130	0.142	1.2	1.462	1.527
16		0.190	0.155	0.2	0.153	0.151	5.6	0.155	0.199	24.0	0.249	0.408		0.122	0.133		1.194	1.414
17		0.174	0.132	0.3	0.144	0.144		0.175	0.212	5.8	1.870	5.070		0.112	0.120		0.847	0.876
18		0.167	0.122		0.141	0.144		0.150	0.186		1.763	3.979	19.5	0.114	0.144		0.608	0.554
19		0.167	0.128		0.134	0.139		0.143	0.178		0.923	1.587	7.0	0.546	0.579		0.451	0.379
20	11.6	0.170	0.135		0.132	0.128		0.136	0.171		0.552	0.867		0.302	0.319	15.4	0.466	0.427
21	0.1	0.366	0.437	8.1	0.134	0.130		0.136	0.170	2.4	0.386	0.587		0.183	0.185		0.704	0.994
22		0.262	0.386	2.7	0.245	0.298	1.2	0.134	0.160	0.0	0.326	0.474	0.0	0.147	0.146		0.469	0.588
23		0.224	0.308	4.5	0.376	0.637		0.124	0.148		0.275	0.381	1.2	0.136	0.136		0.373	0.397
24	0.2	0.210	0.260		0.326	0.699		0.114	0.144		0.228	0.312	18.9	0.163	0.167		0.303	0.305
25	1.5	0.208	0.257		0.242	0.462		0.114	0.144		0.194	0.272		0.560	0.746		0.264	0.246
26		0.203	0.252	2.9	0.231	0.399	11.2	0.166	0.223		0.178	0.234	15.5	0.220	0.245	3.1	0.229	0.207
27		0.191	0.230		0.222	0.370		0.247	0.413		0.157	0.205	20.8	1.427	2.734	44.5	0.508	0.710
28		0.180	0.216		0.188	0.302	0.0	0.160	0.283	25.8	0.220	0.281	5.1	3.003	7.024	2.8	10.021	15.442
29		0.180	0.202				15.4	0.184	0.314	0.0	0.956	2.030		1.377	2.552		3.239	2.870
30		0.174	0.196				16.5	0.839	2.115		0.477	1.117		0.689	0.995	16.5	1.245	0.945
31		0.168	0.191				4.5	2.334	6.270					0.432	0.533			
計	15.8	6.694	7.060	29.5	4.969	6.379	66.2	8.544	17.157	77.1	15.957	32.724	102.6	12.624	21.178	180.4	50.922	68.053

項目 日	1971年																	
	7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量		
露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	
1	93.6	63.547	75.171		0.467	0.280		1.795	1.833	12.3	0.357	0.266		0.266	0.208		0.168	0.139
2		19.205	15.660		0.399	0.226		0.622	0.499		0.494	0.422		0.243	0.196		0.168	0.127
3		3.982	2.995	0.0	0.355	0.201		0.417	0.320		0.333	0.255		0.228	0.190		0.178	0.128
4		1.598	1.067	13.4	0.408	0.272		0.350	0.254	14.2	0.291	0.225		0.234	0.181		0.180	0.128
5		0.880	0.556	11.2	0.630	0.495	16.5	0.324	0.234		0.735	0.766		0.219	0.178	1.6	0.183	0.133
6	5.4	0.610	0.376		0.377	0.255	11.5	1.228	1.767		0.426	0.372		0.204	0.171	0.2	0.189	0.134
7	1.2	0.592	0.379		0.280	0.193		1.260	2.418		0.324	0.265		0.208	0.171		0.180	0.131
8	9.8	0.503	0.348		0.264	0.180		0.705	0.949		0.278	0.227		0.202	0.172		0.180	0.136
9	0.3	0.497	0.392		0.266	0.177	5.4	0.464	0.437		0.269	0.211	0.7	0.198	0.162		0.176	0.128
10		0.377	0.289		0.255	0.169	15.8	0.886	1.074	1.4	0.275	0.211		0.198	0.158		0.168	0.128
11	8.4	0.308	0.233	1.2	0.244	0.165		1.418	2.802		0.281	0.222		0.198	0.147		0.167	0.136
12	6.7	0.625	0.568	1.6	0.268	0.179		0.801	1.056		0.246	0.200		0.198	0.144		0.168	0.144
13		0.507	0.482		0.236	0.160		0.515	0.481	1.0	0.225	0.181		0.198	0.144		0.168	0.132
14		0.371	0.322		0.230	0.157		0.364	0.308	1.1	0.238	0.205	0.6	0.198	0.144	0.4	0.167	0.120
15		0.296	0.242		0.226	0.154		0.288	0.242		0.220	0.193	0.0	0.198	0.147		0.168	0.120
16	5.3	0.261	0.203	15.7	0.414	0.335	9.6	0.275	0.212		0.216	0.191	0.0	0.198	0.144		0.168	0.120
17	8.0	0.332	0.292		0.278	0.194	45.3	2.728	4.946	8.6	0.258	0.241		0.198	0.144		0.168	0.120
18	0.0	0.329	0.284		0.229	0.159	4.2	8.035	12.302		0.281	0.244		0.198	0.144		0.168	0.120
19		0.247	0.211	2.5	0.233	0.170		3.912	4.188		0.227	0.187		0.198	0.144		0.168	0.120
20		0.217	0.180	27.1	0.675	0.730		1.651	1.562		0.220	0.185		0.198	0.144		0.168	0.120
21	5.2	0.223	0.179	0.0	0.450	0.416	3.2	0.940	0.814		0.214	0.181		0.198	0.144		0.162	0.120
22	55.8	5.971	9.706	0.0	0.318	0.245		0.721	0.603	0.1	0.222	0.184		0.192	0.144		0.156	0.120
23	4.1	8.500	11.028	4.0	0.335	0.258		0.570	0.470		0.225	0.179	0.0	0.186	0.144		0.156	0.121
24	47.0	8.870	12.827	13.0	0.396	0.426		0.481	0.383		0.214	0.171		0.185	0.144		0.156	0.131
25	7.2	24.162	25.520		0.350	0.367	0.9	0.427	0.320	3.0	0.216	0.170		0.180	0.144	5.0	0.157	0.135
26	3.3	7.430	6.590		0.263	0.230	2.5	0.447	0.326		0.234	0.195		0.180	0.144	4.6	0.196	0.172
27		4.015	3.486		0.226	0.180		0.376	0.281		0.196	0.170		0.180	0.144	17.1	0.527	0.568
28		2.111	1.497		0.218	0.168		0.307	0.224		0.185	0.162		0.180	0.144		0.251	0.235
29		1.126	0.739	17.5	0.210	0.159		0.294	0.208	19.3	0.197	0.163		0.169	0.141	0.2	0.193	0.183
30		0.759	0.463	70.0	2.561	5.534	2.4	0.279	0.197	5.9	0.692	0.702		0.166	0.139	6.2	0.211	0.206
31		0.584	0.351		10.746	22.375					0.327	0.269					0.237	0.223
計	261.3	159.035	172.636	177.2	22.807	35.209	117.3	32.880	41.710	66.9	9.116	7.815	1.3	5.996	4.665	35.3	5.850	4.778

項目 日	1972年																		
	1月			2月			3月			4月			5月			6月			
	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量			
露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷		
1		0.208	0.178		0.655	1.547		0.632	1.073		0.372	0.813		0.502	0.744		0.171	0.157	
2		0.184	0.156		0.338	0.607		0.477	0.755		0.295	0.555		0.351	0.485	5.0	0.161	0.146	
3		0.179	0.144	5.0	0.249	0.370		0.385	0.590	0.0	0.266	0.470		0.279	0.355	43.0	0.437	0.494	
4	7.8	0.170	0.144	7.7	0.421	0.715		0.305	0.459	20.6	1.065	2.417	16.3	0.507	0.678		4.803	9.530	
5		0.286	0.293	0.3	0.728	1.749		0.257	0.385	0.8	1.908	4.827		0.773	1.500		1.416	1.940	
6		0.202	0.193	7.5	0.430	0.826		0.239	0.352	6.9	1.111	1.977		0.496	0.744	0.9	0.573	0.532	
7		0.187	0.166		0.656	1.408		0.221	0.324	4.7	0.996	1.875		0.384	0.479	93.2	3.452	6.722	
8		0.184	0.151		0.469	0.989	4.5	0.198	0.295	14.0	3.461	7.241	50.2	1.782	3.207	0.0	47.671	56.178	
9		0.178	0.153	11.5	0.338	0.593	0.5	0.224	0.315		4.587	6.487		14.616	22.671	0.0	6.265	4.615	
10	29.1	0.174	0.155	0.0	1.117	2.317		0.183	0.280		1.621	2.106		4.784	4.427		1.762	1.208	
11	10.2	2.073	3.537		0.853	2.133		0.170	0.266	0.3	0.838	1.114		1.596	1.422	12.3	0.829	0.515	
12		0.851	1.606		0.455	0.893		0.163	0.254		0.586	0.780	8.5	0.824	0.715	1.1	0.958	0.825	
13		0.357	0.490	13.2	0.998	2.032	0.2	0.151	0.240		0.432	0.576	9.0	0.850	0.931		0.641	0.570	
14		0.255	0.286		1.210	2.983	1.0	0.146	0.222	6.1	0.363	0.480		1.015	1.618		0.435	0.361	
15	0.5	0.232	0.242		0.608	1.213		0.139	0.212	20.0	1.659	3.576	6.0	0.849	1.250		0.342	0.262	
16		0.204	0.194	9.0	0.414	0.720	14.1	0.135	0.201		2.879	5.969	0.2	0.722	0.933		0.297	0.220	
17		0.184	0.172	0.4	0.682	1.444		0.450	1.016		1.451	2.094		0.501	0.599	7.5	0.294	0.227	
18		0.170	0.162		0.580	1.184		0.298	0.767		0.821	1.083		0.393	0.430		0.339	0.279	
19	1.0	0.161	0.148		0.463	0.811	3.2	0.252	0.555	2.7	0.566	0.750	3.7	0.374	0.370	1.5	0.265	0.217	
20		0.160	0.144		0.336	0.561	3.6	0.320	0.627	11.6	0.770	1.190		0.384	0.352		0.266	0.200	
21		0.160	0.143		0.277	0.438		0.315	0.713		0.754	1.596		0.310	0.282	0.2	0.238	0.192	
22		0.146	0.124		0.250	0.375		0.265	0.556		0.546	0.987		0.253	0.229	13.1	0.327	0.297	
23		0.146	0.120		0.228	0.327	14.5	0.255	0.495		0.445	0.697		0.218	0.196		0.395	0.374	
24	9.3	0.218	0.229	1.0	0.202	0.286		1.062	2.683		0.367	0.543		0.201	0.186		0.258	0.218	
25	0.0	0.225	0.276		0.183	0.256	4.6	0.806	1.919	6.8	0.305	0.428		0.194	0.171		0.210	0.174	
26		0.179	0.214	14.3	0.441	0.752		0.625	1.263	13.6	0.643	1.063	10.4	0.223	0.198	41.0	0.220	0.194	
27	0.2	0.166	0.194	8.7	0.623	1.652		0.430	0.870		1.065	2.657	0.8	0.326	0.297	5.3	5.309	9.725	
28		0.159	0.173		0.646	1.386		0.338	0.630		0.747	1.432		0.235	0.215	3.6	2.767	3.655	
29	4.3	0.150	0.162	0.7	0.801	1.683		0.295	0.522		0.526	0.819	6.2	0.206	0.188	1.5	1.177	1.184	
30		0.177	0.194					10.1	0.365	0.605		0.503	0.669	2.0	0.303	0.284	1.8	0.709	0.710
31	13.5	0.413	0.660					0.553	1.311	9.3				0.216	0.193				
計	75.9	8.738	11.203	79.3	15.651	32.250	56.3	10.654	20.755	117.4	31.948	57.271	113.3	34.667	46.349	231.0	82.987	101.949	

項目	1972年																							
	7月				8月				9月				10月				11月				12月			
	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量				
日	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷			
1		0.505	0.467		0.366	0.218		0.252	0.163		0.240	0.162		0.267	0.183		0.236	0.171						
2		0.384	0.345		0.347	0.207		0.239	0.149		0.219	0.158	19.0	0.256	0.171		0.225	0.171						
3	2.4	0.339	0.295		0.342	0.203		0.234	0.147	3.6	0.235	0.153	12.0	1.571	1.913		0.223	0.173						
4	2.2	0.312	0.272		0.326	0.197		0.230	0.142	1.6	0.285	0.199		0.523	0.567		0.215	0.162						
5	37.0	0.339	0.284		0.315	0.190		0.218	0.137		0.259	0.169		0.316	0.272		0.215	0.162						
6	6.9	10.131	13.436		0.312	0.177	11.1	0.216	0.137		0.241	0.153	3.0	0.312	0.236		0.215	0.162						
7		5.604	4.894		0.318	0.179	22.1	0.640	0.566		0.222	0.153		0.282	0.205	2.3	0.216	0.162						
8		1.797	1.285		0.302	0.171	56.0	1.588	1.514		0.196	0.153		0.257	0.178		0.222	0.162						
9	66.2	1.870	1.697		0.297	0.170	1.6	6.297	9.632	5.5	0.256	0.191	23.3	0.255	0.174		0.215	0.162						
10	73.9	38.409	43.975	13.5	0.491	0.362	0.0	1.057	1.106	0.4	0.263	0.189	6.3	2.097	3.099		0.215	0.162						
11	15.8	62.827	66.875		0.402	0.243		0.492	0.366		0.239	0.169		0.839	1.174	4.1	0.215	0.162						
12	25.6	22.453	23.940		0.354	0.207		0.372	0.258		0.217	0.148		0.475	0.426	3.2	0.282	0.223						
13	3.7	14.894	14.487		0.312	0.180	1.8	0.318	0.212		0.204	0.144		0.373	0.291		0.240	0.171						
14	6.7	6.484	6.093		0.294	0.170	42.0	1.314	1.674		0.199	0.146	0.7	0.309	0.231		0.222	0.162						
15	38.0	4.570	4.417		0.274	0.156	24.5	5.351	8.708		0.190	0.146	4.1	0.322	0.233		0.215	0.162						
16	0.6	21.607	25.306		0.260	0.148	65.0	39.810	51.572		0.194	0.143	2.7	0.328	0.234		0.215	0.162						
17		7.756	6.244		0.257	0.143		23.130	18.929		0.192	0.136		0.284	0.224	0.8	0.215	0.162						
18		2.622	1.891		0.255	0.136	0.1	3.617	2.498	1.9	0.200	0.134		0.265	0.200		0.215	0.155						
19		1.321	0.810		0.251	0.136		1.341	0.839	6.4	0.258	0.191		0.256	0.191		0.213	0.153						
20		0.905	0.476	38.0	0.394	0.265		0.746	0.443		0.225	0.165	2.7	0.258	0.192		0.206	0.153						
21		0.702	0.368	24.0	1.319	1.116		0.484	0.308	19.5	0.200	0.144		0.260	0.189		0.206	0.153						
22		0.587	0.302		1.586	1.406		0.398	0.245		0.518	0.453		0.246	0.177	2.4	0.206	0.153						
23	19.6	0.546	0.297		0.428	0.274	0.2	0.359	0.219		0.226	0.162	1.2	0.246	0.171	43.0	1.147	1.851						
24	7.4	0.978	0.772		0.336	0.204		0.349	0.213		0.231	0.148		0.246	0.171	0.0	3.336	7.084						
25		0.633	0.488		0.308	0.195	0.4	0.304	0.195		0.235	0.148		0.246	0.171		0.782	1.354						
26		0.467	0.303	7.4	0.373	0.260		0.281	0.174	15.2	0.253	0.163		0.246	0.171	0.0	0.472	0.583						
27		0.426	0.260		0.350	0.227		0.257	0.163		0.476	0.372		0.238	0.171	4.5	0.380	0.402						
28		0.400	0.238	2.6	0.308	0.194	3.3	0.267	0.171		0.283	0.183		0.225	0.171	0.3	0.345	0.346						
29		0.381	0.222	0.1	0.308	0.196		0.277	0.189		0.268	0.166		0.225	0.171		0.352	0.343						
30		0.374	0.222		0.284	0.181		0.250	0.162	12.1	0.370	0.291	3.4	0.240	0.185		0.304	0.304						
31		0.370	0.220		0.266	0.169					0.336	0.244					0.274	0.259						
計	306.0	210.993	221.181	85.6	12.335	8.280	228.1	90.688	101.231	66.2	7.930	5.676	78.4	12.263	12.142	60.6	12.239	16.146						

項 目 日	1973年																		
	1月			2月			3月			4月			5月			6月			
	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	
	露 場	南 谷	北 谷	露 場	南 谷	北 谷	露 場	南 谷	北 谷	露 場	南 谷	北 谷	露 場	南 谷	北 谷	露 場	南 谷	北 谷	
53	1	16.1	0.552	0.739		0.299	0.325		0.419	0.456		0.178	0.181	19.2	0.433	0.373		0.232	0.186
	2	0.1	1.230	2.482		0.270	0.283		0.349	0.395		0.167	0.180	18.5	5.421	9.244	5.1	0.215	0.182
	3		0.805	1.335	7.1	0.256	0.265		0.317	0.354	1.1	0.153	0.171		4.506	5.246		0.201	0.192
	4		0.544	0.686	0.5	0.325	0.355		0.290	0.330	0.3	0.153	0.177		1.650	1.622	6.7	0.191	0.170
	5		0.428	0.463	2.0	0.295	0.337		0.283	0.316		0.151	0.171		0.880	0.787	11.1	0.254	0.227
	6	12.0	0.372	0.381		0.290	0.322		0.251	0.285		0.142	0.171		0.566	0.482	27.4	0.957	1.160
	7	6.7	1.203	2.283		0.271	0.311		0.235	0.255		0.138	0.171	8.8	0.443	0.368		1.677	3.087
	8		1.714	3.163		0.251	0.282		0.235	0.245		0.138	0.171	26.0	4.305	7.584		0.536	0.753
	9		0.999	1.321		0.246	0.264		0.231	0.241	14.0	0.138	0.171		4.720	5.671		0.311	0.314
	10	0.3	0.676	0.786	0.4	0.246	0.257		0.225	0.234	1.3	0.325	0.449		1.821	1.622		0.253	0.227
	11		0.500	0.549	0.0	0.246	0.257		0.225	0.234	1.3	0.215	0.292	0.0	0.923	0.718		0.238	0.194
	12		0.413	0.431		0.239	0.252		0.225	0.229	0.1	0.193	0.247		0.572	0.462		0.203	0.170
	13		0.355	0.356	0.3	0.231	0.241		0.218	0.215		0.170	0.200	0.6	0.467	0.359		0.169	0.159
	14	0.7	0.331	0.323		0.225	0.234		0.206	0.201	17.5	0.161	0.181		0.410	0.316		0.165	0.155
	15	0.9	0.326	0.296		0.225	0.229		0.206	0.196	35.5	3.996	13.781	0.8	0.341	0.256		0.158	0.150
	16	4.9	0.296	0.277	0.5	0.225	0.218	2.7	0.206	0.191	22.8	3.128	8.858	12.7	0.430	0.356	3.9	0.148	0.139
	17	17.8	0.600	0.899	9.1	0.264	0.270		0.206	0.191	0.1	6.928	14.152		0.463	0.410	0.3	0.186	0.177
	18		2.399	4.652	15.8	0.285	0.325		0.206	0.191		2.697	3.638	3.2	0.383	0.315	9.6	0.201	0.172
	19		1.771	2.331	1.1	1.632	3.843		0.200	0.191	0.3	1.001	1.288		0.332	0.270		0.299	0.257
	20		0.953	1.105	0.3	1.263	2.544	6.5	0.196	0.191		0.626	0.761		0.273	0.222		0.225	0.168
	21		0.656	0.689	5.5	0.700	1.123	0.3	0.236	0.253	24.0	1.123	2.091		0.241	0.196	0.5	0.183	0.146
	22	1.3	0.523	0.519	11.2	1.622	3.132		0.207	0.198		3.524	6.692		0.232	0.191		0.160	0.140
	23	0.1	0.449	0.433		2.805	4.369		0.196	0.181		1.642	2.112		0.214	0.188		0.151	0.130
	24	10.1	0.625	0.781	0.2	1.404	1.780		0.190	0.181	2.2	0.950	1.056		0.196	0.181		0.130	0.110
	25		0.683	1.246		0.857	0.985		0.178	0.181		0.635	0.651		0.196	0.181		0.119	0.106
	26		0.561	0.870		0.686	0.748		0.178	0.181	25.5	1.316	1.961		0.196	0.181	39.4	0.439	0.453
	27		0.460	0.633	1.2	0.562	0.608		0.178	0.181		4.528	7.231		0.196	0.181		0.849	0.904
	28	0.0	0.382	0.496		0.505	0.534		0.178	0.181		1.873	2.024	26.6	0.391	0.417	5.0	0.286	0.255
	29		0.344	0.431				0.1	0.178	0.181		0.913	0.863		0.534	0.587	15.2	1.101	1.590
	30		0.331	0.391					0.178	0.181		0.578	0.508		0.285	0.267		0.644	1.040
	31		0.313	0.350					0.178	0.181					0.241	0.202			
計	71.0	21.794	31.697	55.2	16.725	24.693	9.6	7.004	7.221	146.0	37.880	70.600	116.4	32.261	39.455	124.2	10.881	13.113	

項 目 日	1973年																	
	7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量		
露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	
1	18.6	0.331	0.338		0.162	0.120		0.085	0.070		0.167	0.145		0.103	0.136		0.097	0.092
2	18.2	3.039	6.313		0.122	0.084	0.1	0.075	0.069		0.124	0.105	2.0	0.098	0.136	0.0	0.097	0.092
3		1.937	3.593		0.099	0.078	9.1	0.144	0.148		0.110	0.093		0.093	0.124	0.0	0.097	0.092
4		0.618	0.796		0.083	0.070	32.5	0.096	0.093	0.0	0.106	0.095		0.086	0.120		0.097	0.092
5		0.360	0.333		0.078	0.067	3.3	0.962	0.865		0.104	0.092	0.1	0.086	0.120		0.097	0.092
6		0.280	0.235		0.075	0.064		0.266	0.164	2.1	0.097	0.088	2.5	0.089	0.125		0.097	0.092
7		0.240	0.190	3.0	0.078	0.064		0.130	0.101	0.1	0.091	0.093		0.097	0.118		0.097	0.092
8		0.207	0.163		0.088	0.062		0.089	0.081		0.090	0.088		0.097	0.112		0.097	0.085
9		0.191	0.144		0.079	0.057	10.2	0.085	0.075		0.086	0.079	11.3	0.160	0.193		0.097	0.085
10		0.175	0.141		0.064	0.052		0.184	0.170	0.0	0.083	0.079		0.148	0.164		0.097	0.085
11		0.163	0.129		0.061	0.048		0.098	0.088	14.7	0.104	0.119		0.118	0.131		0.097	0.085
12		0.152	0.122		0.059	0.046	1.5	0.082	0.074	4.7	0.165	0.217		0.117	0.120		0.097	0.085
13		0.142	0.113		0.058	0.044	56.0	3.295	3.984	31.0	2.100	3.136		0.117	0.120		0.097	0.083
14		0.131	0.111	9.0	0.078	0.074		1.259	1.627		1.216	2.022		0.111	0.120		0.097	0.079
15		0.125	0.106	1.9	0.128	0.098		0.249	0.222		0.311	0.346		0.110	0.119	1.5	0.097	0.079
16		0.116	0.099	0.5	0.102	0.082		0.160	0.134	15.3	0.172	0.187		0.110	0.112		0.101	0.079
17		0.106	0.092	0.3	0.087	0.070	2.6	0.131	0.108		0.746	1.074		0.103	0.105		0.104	0.079
18		0.106	0.090		0.077	0.061	9.2	0.218	0.214		0.456	0.564		0.104	0.105		0.101	0.079
19		0.102	0.088	33.6	0.454	0.458	5.1	0.239	0.208		0.252	0.261		0.104	0.102		0.097	0.079
20		0.095	0.080	4.8	0.161	0.116	0.5	0.240	0.210	13.5	0.192	0.187		0.104	0.100		0.097	0.079
21	3.0	0.104	0.099		0.111	0.092	3.4	0.223	0.182	10.8	1.737	2.551		0.104	0.105	1.5	0.097	0.080
22		0.113	0.092		0.095	0.076	0.0	0.237	0.207		1.495	2.217		0.104	0.105		0.097	0.080
23		0.096	0.077		0.080	0.068	9.6	0.251	0.237		0.496	0.571		0.104	0.105		0.097	0.079
24		0.097	0.072	32.0	0.459	0.417		0.235	0.228		0.283	0.268	0.5	0.097	0.105	0.1	0.097	0.079
25		0.089	0.069		0.375	0.280		0.177	0.149		0.212	0.210		0.097	0.102		0.097	0.079
26		0.095	0.068	4.4	0.190	0.147		0.142	0.120		0.159	0.155	0.0	0.097	0.098		0.097	0.079
27		0.089	0.070		0.136	0.104		0.122	0.108	10.3	0.141	0.141	0.0	0.097	0.094	2.5	0.097	0.079
28		0.079	0.064	5.6	0.107	0.088		0.104	0.092	0.0	0.242	0.258		0.097	0.092	0.4	0.100	0.079
29		0.078	0.064		0.127	0.102	9.1	0.104	0.092		0.163	0.171		0.097	0.092		0.101	0.079
30	6.1	0.082	0.066	0.8	0.097	0.075	3.8	0.231	0.226		0.133	0.147	0.5	0.097	0.092		0.097	0.079
31	9.0	0.171	0.153		0.082	0.070					0.118	0.136					0.097	0.079
計	54.9	9.709	14.170	95.9	4.052	3.334	156.0	9.873	10.346	102.5	11.951	15.895	16.9	3.146	3.472	6.0	3.029	2.576

項目	1974年																							
	1月				2月				3月				4月				5月				6月			
	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量				
日	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷			
1		0.097	0.079		0.110	0.098		0.170	0.184		0.176	0.236		0.366	0.404		0.105	0.076						
2		0.097	0.077		0.110	0.098		0.161	0.159		0.152	0.196		0.286	0.303		0.097	0.070						
3		0.097	0.073		0.110	0.098	1.2	0.148	0.136	2.0	0.138	0.167		0.254	0.234	3.5	0.085	0.068						
4		0.097	0.073	6.3	0.110	0.098		0.146	0.134	0.2	0.138	0.140		0.227	0.195	17.2	0.105	0.153						
5		0.097	0.073	21.8	0.591	0.749	4.0	0.146	0.125		0.138	0.120		0.208	0.170	10.8	0.297	0.465						
6		0.095	0.073	6.0	0.529	0.704	26.2	0.251	0.271		0.135	0.120		0.194	0.157			0.344						
7		0.091	0.073	11.2	0.364	0.444	0.8	3.380	6.312	40.0	0.169	0.169		0.175	0.137			0.179						
8		0.091	0.073		0.743	1.201		0.948	1.800	47.2	13.396	24.711	5.5	0.161	0.120			0.136						
9		0.091	0.073		0.510	0.759	14.6	0.512	0.839	2.1	18.780	23.336	0.8	0.183	0.164			0.115						
10		0.091	0.073		0.288	0.399		1.752	3.529		4.597	4.479		0.181	0.134	17.4		0.106						
11		0.091	0.073	0.0	0.224	0.280		0.969	1.671		1.519	1.652		0.166	0.113	0.4		0.279						
12		0.091	0.073		0.178	0.199		0.491	0.816		0.752	0.802		0.160	0.103			0.137						
13		0.091	0.073		0.166	0.148		0.315	0.491	2.5	0.478	0.536		0.152	0.092			0.107						
14		0.0	0.091	0.073		0.157	0.141		0.242	0.321	4.6	0.461	0.503	9.8	0.146	0.092	0.3		0.086					
15		0.091	0.073	2.8	0.153	0.136	2.5	0.202	0.228	14.5	0.333	0.422		0.209	0.179			0.074						
16		0.091	0.069	0.0	0.153	0.136	0.0	0.201	0.211		1.271	2.593		0.177	0.110			0.071						
17		0.091	0.068		0.153	0.136		0.183	0.206		1.049	1.930		0.151	0.089	40.0		0.601						
18		0.091	0.068		0.150	0.128		0.166	0.191		0.624	0.989		0.136	0.085			0.751						
19		0.091	0.068	5.0	0.141	0.128		0.151	0.178		0.398	0.601	0.0	0.125	0.085			0.223						
20		1.8	0.091	0.070	0.159	0.158	0.0	0.138	0.162	8.3	0.332	0.435	19.0	0.120	0.102	0.6		0.111						
21	15.2	0.259	0.269		0.152	0.143	5.5	0.148	0.177	13.0	0.878	1.540	1.9	0.339	0.354	21.5	測	0.789						
22	0.1	0.157	0.152	7.2	0.146	0.132		0.152	0.172		0.965	1.902	2.0	0.292	0.165			0.674						
23		0.125	0.116	5.0	0.400	0.665		0.138	0.156		0.614	0.997		0.251	0.135	2.5		0.246						
24		0.117	0.105	2.7	0.377	0.658		0.135	0.153		0.418	0.607		0.212	0.118			0.161						
25		0.117	0.105		0.306	0.497	0.2	0.129	0.153	10.8	0.412	0.566		0.179	0.112			0.110						
26		0.117	0.105		0.253	0.366	9.1	0.127	0.153		0.500	0.820	3.3	0.158	0.129			0.084						
27	0.2	0.117	0.105		0.203	0.278	2.0	0.266	0.336		0.415	0.565		0.136	0.134	6.5		0.110						
28		0.117	0.105		0.177	0.225		0.281	0.443	12.0	0.341	0.441		0.118	0.107			0.101						
29		0.111	0.104					0.222	0.343		0.602	0.825		0.110	0.094			0.077						
30		0.110	0.098				1.0	0.197	0.290	0.2	0.444	0.548	0.9	0.110	0.088	7.6		0.098						
31		0.110	0.098					0.187	0.282					0.110	0.082									
計	17.3	3.311	2.810	68.0	7.113	9.202	67.1	12.654	20.622	157.4	50.625	72.948	43.2	5.792	4.586	128.3		6.602						

項目 日	1974年																	
	7月			8月			9月			10月			11月					
	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量	流 出 量	降水量			
	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷	露場	南 谷	北 谷			
1	24.8		0.147		0.256	0.126	22.1	0.256	0.163	84.2	0.336	0.181		0.382	0.284	10.0	0.215	0.171
2	26.2		6.034		0.244	0.123		0.366	0.282	4.7	24.340	25.670		0.312	0.222	8.0	0.649	0.762
3			6.362		0.227	0.122		0.188	0.098		4.901	3.590		0.284	0.196		0.591	0.741
4	24.0	欠	4.860		0.216	0.112		0.164	0.089		1.338	0.785	3.0	0.279	0.186		0.440	0.438
5	39.8		17.711		0.213	0.110		0.154	0.088		0.575	0.290		0.303	0.216		0.336	0.324
6	29.7		26.875		0.208	0.108	0.4	0.143	0.083		0.379	0.176		0.274	0.188		0.290	0.270
7			12.449	10.2	0.264	0.172	3.0	0.161	0.095	26.2	0.306	0.143		0.268	0.181		0.273	0.240
8			2.069		0.272	0.148	80.3	0.407	0.275	0.0	2.425	2.817	1.0	0.266	0.179		0.266	0.218
9			0.635		0.202	0.109	2.3	8.127	7.486	2.4	1.649	1.439		0.256	0.171	10.0	0.252	0.206
10	12.6		0.345		0.194	0.100		1.958	0.946		0.838	0.575		0.238	0.171	4.0	0.531	0.630
11	8.0	測	1.335	10.2	0.242	0.138		0.546	0.215		0.527	0.317		0.225	0.171		0.537	0.781
12	5.5		1.625		0.277	0.154		0.331	0.137		0.431	0.230		0.224	0.170		0.437	0.486
13	2.8		1.925		0.204	0.110		0.252	0.116		0.359	0.185		0.212	0.162	1.0	0.394	0.398
14	21.8		1.406		0.199	0.104	2.0	0.224	0.111		0.304	0.158		0.203	0.162		0.361	0.346
15	18.0		11.025		0.216	0.107	0.4	0.226	0.122		0.265	0.140		0.196	0.162		0.304	0.288
16	24.0		14.322		0.169	0.090		0.197	0.106		0.234	0.123	10.0	0.196	0.162		0.266	0.256
17	17.7	15.258	15.922		0.161	0.088		0.170	0.093		0.203	0.113	16.8	0.928	1.001	12.2	0.256	0.242
18		12.204	12.977		0.156	0.087		0.165	0.113	32.6	0.201	0.119		0.891	0.979	3.0	0.744	1.121
19		5.405	4.280		0.154	0.082		0.162	0.107	7.6	3.934	4.961		0.519	0.434		0.753	1.228
20	16.7	2.519	1.917		0.148	0.082		0.149	0.087		2.650	2.400		0.420	0.307		0.580	0.736
21		2.326	1.762	2.7	0.159	0.089	0.0	0.146	0.086	10.1	0.988	0.710		0.381	0.262		0.468	0.504
22		1.559	0.902		0.156	0.083		0.142	0.085	16.2	4.074	5.519		0.305	0.228		0.394	0.406
23	0.9	0.950	0.459		0.159	0.086	22.0	0.223	0.137		4.619	4.410	2.2	0.270	0.204		0.352	0.353
24		0.672	0.313	0.0	0.151	0.082		0.362	0.274		1.546	1.188		0.274	0.204		0.339	0.318
25		0.540	0.236	7.0	0.182	0.107		0.210	0.129		0.796	0.530		0.242	0.191		0.306	0.290
26		0.438	0.200		0.196	0.112	10.0	0.187	0.116		0.555	0.342		0.235	0.190		0.268	0.262
27	4.0	0.370	0.163	28.0	0.176	0.101	0.2	0.332	0.233		0.464	0.270		0.233	0.181		0.256	0.242
28		0.372	0.181		0.565	0.429		0.247	0.137		0.365	0.221		0.225	0.181	2.5	0.256	0.234
29		0.337	0.146		0.205	0.106		0.204	0.110	0.5	0.314	0.188		0.225	0.181		0.256	0.234
30		0.300	0.142		0.168	0.101		0.179	0.099	15.0	0.597	0.483		0.222	0.178		0.242	0.234
31		0.274	0.136	1.7	0.172	0.113					0.561	0.484				0.5	0.232	0.222
計	276.5		148.861	59.8	6.511	3.681	142.7	16.578	12.218	199.5	61.074	58.757	33.0	9.488	7.704	51.2	11.844	13.181

項目	1975年																		
	1月		2月		3月		4月		5月		6月								
	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	降水量	流出量	
日	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	
5	1	0.5	0.225	0.218	1.0	0.314	0.336		0.235	0.245		0.225	0.257		0.363	0.452		0.177	0.170
	2		0.225	0.211	2.0	0.314	0.336		0.235	0.245	1.5	0.225	0.257	2.5	0.320	0.375		0.169	0.162
	3		0.224	0.208	13.0	0.294	0.318		0.232	0.240		0.218	0.254	12.1	0.344	0.382		0.162	0.162
	4	0.0	0.210	0.196	6.0	0.926	1.560		0.225	0.230		0.206	0.234	0.2	0.517	0.677	23.5	0.168	0.168
	5		0.206	0.191		1.257	2.148	12.1	0.243	0.249	13.0	0.206	0.222		0.402	0.527	0.8	0.464	0.504
	6		0.206	0.191	7.0	0.902	1.244		0.388	0.516		0.479	0.721		0.326	0.401	16.6	0.444	0.478
	7	9.5	0.206	0.191	1.0	0.962	1.281		0.286	0.419	6.4	0.290	0.452		0.273	0.324		0.572	0.643
	8	3.5	0.423	0.506		0.925	1.327		0.260	0.344	3.4	0.463	0.777	1.0	0.242	0.278		0.288	0.282
	9		0.369	0.562		0.752	1.003	7.1	0.246	0.308		0.478	0.867	24.8	0.941	1.368		0.219	0.209
	10		0.296	0.412		0.641	0.788		0.343	0.494	3.7	0.404	0.611		1.703	2.765	13.0	0.221	0.247
	11		0.262	0.344		0.549	0.631		0.296	0.471		0.355	0.528		0.949	1.092		0.223	0.243
	12		0.240	0.305		0.474	0.521		0.274	0.414	6.6	0.294	0.434		0.581	0.578	2.1	0.178	0.181
	13		0.231	0.276		0.420	0.452		0.266	0.366	13.9	0.586	1.048	0.7	0.431	0.422		0.176	0.179
	14		0.224	0.248	3.5	0.387	0.411		0.254	0.332		1.434	3.226	0.3	0.393	0.376		0.163	0.168
	15	1.0	0.215	0.232		0.396	0.408		0.246	0.315		1.317	2.120	0.0	0.347	0.351		0.154	0.158
	16		0.215	0.222		0.349	0.388		0.242	0.302	19.3	0.803	1.134	5.0	0.314	0.318		0.141	0.151
	17	0.1	0.212	0.218		0.318	0.357		0.232	0.282	11.2	4.687	8.884		0.309	0.320	13.1	0.167	0.183
	18		0.194	0.208		0.292	0.329		0.224	0.276		4.784	6.223	14.9	0.244	0.254	24.9	1.204	1.813
	19		0.187	0.201	0.5	0.290	0.308	5.9	0.215	0.257		1.909	2.187	0.2	0.516	0.618	0.6	0.823	1.293
	20		0.183	0.191		0.290	0.300	8.0	0.372	0.510	20.1	1.102	1.170		0.342	0.402	0.1	0.414	0.467
	21	4.0	0.178	0.171	4.0	0.290	0.295		0.375	0.714	3.0	2.683	4.714		0.267	0.295	31.0	0.412	0.417
	22	13.2	1.205	1.685		0.279	0.290		0.304	0.500		2.861	3.828		0.231	0.246	2.6	4.088	7.387
	23		1.432	1.837		0.256	0.276	0.1	0.290	0.447	15.3	1.859	2.281		0.208	0.220	21.0	2.038	2.321
	24	3.0	0.911	1.073		0.240	0.257	2.4	0.275	0.396		3.183	4.693		0.194	0.206	24.4	9.333	14.458
	25		0.763	0.839		0.235	0.254		0.266	0.363		2.238	2.647		0.190	0.201	42.8	29.430	35.498
	26		0.625	0.714		0.235	0.245	3.0	0.266	0.350	1.6	1.235	1.431	4.2	0.211	0.226	0.7	15.039	13.752
	27		0.551	0.594	1.0	0.235	0.245		0.262	0.338	0.3	0.857	0.985		0.222	0.212	16.7	3.139	2.643
	28		0.483	0.524	0.2	0.235	0.245		0.242	0.299	0.8	0.614	0.749	0.0	0.190	0.187	1.3	3.732	4.676
	29		0.384	0.451				0.2	0.235	0.282	5.7	0.552	0.667		0.196	0.190	1.8	3.203	3.300
	30		0.347	0.389				0.2	0.235	0.282		0.441	0.580	0.6	0.196	0.188		1.501	1.311
	31		0.316	0.357					0.232	0.276					0.193	0.185			
計	34.8	11.948	13.965	39.2	13.057	16.553	39.0	8.296	11.062	125.8	36.988	54.181	66.5	12.155	14.636	237.0	78.442	93.624	

項目 日	1975年																	
	7月			8月			9月			10月			11月			12月		
	降水量	流出量	露場	降水量	流出量	露場	降水量	流出量	露場	降水量	流出量	露場	降水量	流出量	露場	降水量	流出量	
露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	露場	南谷	北谷	
1		0.782	0.547		0.219	0.142		0.164	0.122	0.8	0.326	0.313		0.260	0.242		0.256	0.222
2		0.552	0.343		0.211	0.135	0.4	0.167	0.124	4.5	0.256	0.218		0.227	0.200		0.256	0.222
3	15.0	0.500	0.316		0.207	0.130		0.172	0.123	2.2	0.296	0.261		0.212	0.179		0.250	0.222
4		0.662	0.554	0.0	0.205	0.127		0.160	0.111	6.7	0.263	0.218		0.206	0.171	21.5	0.287	0.298
5	25.6	1.233	1.497		0.207	0.127		0.148	0.113		0.333	0.305		0.206	0.172		1.274	1.744
6	7.4	4.887	7.187	9.7	0.250	0.161		0.141	0.111	0.2	0.242	0.205	16.2	0.290	0.255	15.0	0.901	1.149
7	0.2	2.424	2.494	6.6	0.360	0.275		0.134	0.105	18.0	0.231	0.188		0.449	0.488	1.3	2.848	4.179
8		1.248	1.165		0.278	0.199	0.6	0.154	0.112		1.356	1.735		0.301	0.274		1.823	2.048
9	2.1	0.745	0.573		0.212	0.157		0.137	0.085		0.483	0.524		0.252	0.219		1.098	1.118
10	0.0	0.587	0.424		0.202	0.145		0.122	0.074		0.281	0.238		0.218	0.190		0.726	0.682
11	6.0	0.519	0.363		0.198	0.136		0.133	0.077	45.0	0.255	0.207		0.206	0.179		0.589	0.515
12	6.4	0.491	0.362		0.197	0.128		0.134	0.072	12.0	10.253	16.902		0.206	0.171		0.490	0.436
13	11.7	0.625	0.543		0.185	0.121	0.3	0.123	0.073		4.119	5.186	6.0	0.206	0.171		0.422	0.383
14	14.4	4.405	5.560		0.174	0.115		0.111	0.070		1.673	1.948	65.0	1.843	2.585		0.394	0.340
15		4.128	3.956		0.171	0.110	6.9	0.137	0.090		0.643	0.699	0.0	20.317	26.803		0.378	0.316
16		1.512	1.193	3.3	0.170	0.109		0.155	0.095	11.2	0.388	0.376		5.627	5.090		0.336	0.290
17		0.810	0.571	12.0	0.260	0.202	12.9	0.235	0.189	22.2	0.822	1.202		1.600	1.516		0.298	0.270
18		0.542	0.364	10.8	0.313	0.244	0.8	0.208	0.146	5.4	5.067	8.836	8.9	0.868	0.778		0.282	0.257
19		0.427	0.276		0.275	0.197		0.183	0.127		3.856	4.484	2.1	1.033	1.159		0.274	0.254
20		0.376	0.250		0.208	0.145		0.154	0.104		1.372	1.446		0.955	1.131		0.268	0.245
21		0.341	0.228	2.5	0.189	0.133		0.143	0.105		0.598	0.595		0.653	0.697		0.268	0.245
22		0.304	0.208	41.2	0.345	0.282	0.1	0.149	0.103		0.359	0.315		0.478	0.516		0.266	0.245
23		0.283	0.181	2.9	1.082	0.929	103.4	4.688	6.342	5.9	0.310	0.238		0.413	0.405		0.252	0.238
24		0.306	0.185		0.278	0.199		2.336	2.736	0.4	0.373	0.299		0.352	0.341		0.246	0.222
25		0.282	0.179		0.204	0.152		0.398	0.279		0.294	0.242		0.290	0.284		0.246	0.222
26		0.282	0.179		0.201	0.146	19.5	0.259	0.164		0.248	0.190	3.6	0.279	0.257		0.242	0.218
27		0.267	0.173		0.197	0.151		0.920	0.969		0.232	0.171	1.5	0.304	0.289		0.235	0.211
28		0.257	0.167		0.190	0.142	21.0	0.434	0.381	15.6	0.233	0.181		0.290	0.270		0.235	0.211
29		0.237	0.156		0.181	0.133	0.8	1.859	2.849	0.4	0.667	0.758		0.279	0.257		0.235	0.211
30		0.235	0.151		0.171	0.125		0.737	1.106	0.2	0.405	0.422		0.272	0.242		0.235	0.211
31		0.230	0.152		0.166	0.122				0.1	0.312	0.294					0.235	0.211
計	88.8	30.479	30.497	89.0	7.706	5.619	166.7	14.995	17.157	150.8	36.546	49.196	103.3	39.092	45.531	37.8	16.145	17.635

試験研究発表題名一覧表

昭和50年度 試験研究発表一覧表

研究室	題名	著者名	書名	巻号	年月
育林部長	森林土壤の遊離酸化物について	河西田豊弘昭	林業試験場研究報告	275	50. 8
造林	宮島国有林の風致施業に関する基礎調査報告書	早稲田藤森齊山	大阪営林局		50. 3
	抾伐林に関する研究(Ⅰ) —今須における抾伐林の実態—	早稲田藤森勝隆	日本林学会大会講演集	86	50. 8
	抾伏林に関する研究(Ⅱ) —今須における技打ち技術と材質—	早稲田藤森隆	〃	〃	〃
	モウソウチク林の施業試験 —林分の成長と収穫に対する密度と施肥の効果—	鈴木健成	林業試験場研究報告	273	50. 7
	竹林の施業	鈴木健敬	林業技術	402	50. 9
	フィリピンの竹資源と利用	〃	竹	14	〃
	混交林の経営に関する研究(Ⅲ) —兵庫県氷上郡山南町におけるスギ・ヒノキ混交林の林分構造—	山本久仁雄	日本林学会関西支部講演集	26	50. 10
	庇蔭条件とヒノキ稚樹の反応	齊藤勝郎	〃	〃	〃
	庇蔭条件とスギ稚苗の反応	齊藤勝郎	〃	〃	〃
	技打ち効果とその応用	藤森隆郎	林業技術	404	50. 11
	技打ちの技術体系に関する研究	〃	林業試験場研究報告	273	50. 7
経営	森林の高度土地利用計画策定調査報告書	久田喜二 他7名	日本林業技術協会		48. 3
	第2次林構事業にみる協業活動 —鹿児島県大口市・菱刈町—	久田喜二 森鈴木了	全国林業構造改善協議会		50. 3
	非皆伐施業における社会的・経営的側面からの考察	久田喜二	林業経済	323	50. 9
	建築用材価格変動要因の解明	久田喜二 外4名	林業試験場経営部	178	50. 9
	地域林業の発展と森林組合の役割	久田喜二	日本林学会関西支部大会シンポジウム	26	50. 10
	非皆伐における社会的・経営的考察	〃	日本林学会関西支部講演集	26	50. 10
	間伐材等処理施設の設置について —兵庫県神崎町—	久杉原川喜彦尚	全国林業構造改善協議会		50. 11

研究室	題名	著者名	書名	巻号	年月
	木材集出荷施設の設置について —兵庫県森連—	久村山 喜由一 二直彦	全国林業構造改善協議会		50.11
	山村振興コンサルタント意見書 —岐阜県板取村—	久田長谷川 喜敬二	山村振興調査会		50.11
	地域林業の発展と森林組合のあり方 協業活動拠点施設の設置について —徳島県東谷山村—	久田喜二	森林組合	67	51. 1
	造林の採算の地区比較 —育林生産のフローチャート集—	久江岩 喜奈良尚 二男美	全国林業構造改善協議会		51. 1
	ヒノキ人工林の林分密度と直径成長	久田喜二	林業試験場関西支場経営資料	7	51. 3
	ヒノキ人工林の林分密度と直径成長	上野 賢爾	昭和49年度国有林野事業特別会計技術開発試験報告書		50. 7
	相対幹距比によるヒノキ人工林の密度管理	//	日本林学会関西支部講演集	26	50.10
	上手に売る・磨丸太 (1)市場性のある製品を	岩水 豊	林業新知識	261	50. 8
	上手に売る・磨丸太 (2)原木つくりの施業	//	//	262	50. 9
	上手に売る・磨丸太 (3)加工のしかた	//	//	264	50.11
	上手に売る・磨丸太 (4)販売のしかた	//	//	265	50.12
	上手に売る・磨丸太 (5)将来とも需要は安定	//	//	266	51. 1
	磨丸太のすべて	//	大日本山林会		50.10
	人工育成による新しい銘木の開発可能性を探る	//	山 林	1097	//
	高品質材の需給構造に関する研究 1. スギ特殊クローンによる秀材の開発可能性	//	日本林学会関西支部講演集	26	//
土 じ ょ う	都市近郊社寺林の土壤と植生	小島笠田 誠忠 俊郎 司昭二郎	//	//	//
	沖縄地域における赤色土、黄色土、赤黄色土、表層グライ系赤・黄色土および暗赤色土の遊離酸化鉄の形態	西小島 豊俊	林業試験場研究報告	285	
	森林土壤の保水性	吉岡二郎	日本林学会講演集	86	50. 8
防 災	山腹工の水保全性について	小林忠一	日本林学会関西支部講演集	26	50.10

研究室	題名	著者名	書名	巻号	年月
保護部長	マツカレハの2化現象についての考察	山田房男	日本林学会関西支部講演集	26	50.10
	マツカレハ幼虫の発育におよぼす日長時間の影響	山田房男 小野三郎子	日本応用動物昆虫学会誌	19.4	50.12
	森林の保育と虫害	山田房男	林業技術	408	51.3
樹病	マツの材線虫病の薬剤防除 1. 樹幹注入による枯損防止について	紺谷修一 峰田中	日本林学会関西支部講演集	〃	〃
	西日本におけるマツノザイセンチュウによるマツの激害枯損対策について	紺谷修一	第30回グリーン研究大会講演要旨		51.2
	マツノザイセンチュウがマツノマダラカミキリから離脱し伝播する時期について	峰谷修一	日本林学会講演集	86	50.8
	マツノマダラカミキリからのマツノザイセンチュウの離脱と樹体侵入	峰尾一彦	日本林学会関西支部講演集	26	50.10
	マツの材線虫病の発生に及ぼすSO ₂ の影響	田中潔	日本林学会講演集	86	50.8
	マツのすす葉枯病の発生に及ぼすSO ₂ の影響 —配置法による実験—	田中田光一	〃	〃	〃
	大気汚染による植物被害 〔21〕病害虫による大気汚染類似症状	田中潔	農業および園芸	50.9	50.9
	大気汚染による植物被害 〔22〕病害虫と大気汚染との関連	〃	〃	50.10	50.10
	汚染物質に対する病原体の反応とその指標性 —マツのすす葉枯病の発生におよぼす低濃度硫酸ガスの影響—	〃	農林水産環境における指標生物の耐性限界とその利用		51.3
	大気汚染に伴なって発生する病害とその指標性 —ボブラーのマルゾニナ落葉病—	〃	〃		〃
昆蟲	マツノマダラカミキリ成虫の材線虫保持数 —和歌山県潮岬における1974年の結果—	小竹細美 林谷田 武井一昭 田中素丈 戸田規	日本林学会講演集	86	50.8
	マツの枯損とマツノマダラカミキリの數	小林一三	森林防疫	283	50.10
	松くい虫被害材の置き方とマツノマダラカミキリの脱出状況	〃	日本林学会関西支部講演集	26	〃

研究室	題名	著者名	書名	巻号	年月
	標高と松の枯損率との関係 —宮島における調査例—	小細林田一隆素三治男 奥細田田素隆男治三男 小山林田房三男	日本林学会関西支部講演集 日本林学会講演集	26 86	50.10 50.8
	3種類のマツの伐倒時期とマツノマダラカミキリの寄生程度	奥田素隆一房男治三男 奥田素男	日本林学会関西支部講演集	26	50.10
	マツノマダラカミキリの羽化脱出部位と材線虫保持数	奥田素男	日本林学会関西支部講演集	26	50.10
	昆虫相の変動とその指標性 一大気汚染地域におけるクモ相の変動—	細山田隆房治男	農林水産環境における指標生物の耐性限界とその利用		51.3
	マイマイガの低密度な発生条件下における環境抵抗としてのコムクドリ	古田公人	応用動物昆虫学会第19回大会講演要旨		50.4
	天然林と人工林に人为的につけ加えられたマイマイガ <i>Lymantria dispar</i> の死亡要因	古田公人	日本林学会誌	57.12	50.
	マイマイガとトドマツオオアブラの低密度個体群の動態に関する研究	古田公人	林業試験場研究報告	279	51.1
	森林害虫防除における土着天敵の利用	〃	個体群生態学会報	28	51.3
	マツの激害型枯損木の発生環境 —温量からの解析—	竹谷昭彦男治 奥細田田素隆彦	日本林学会誌	57.6	50.
	マツノマダラカミキリ成虫の捕虫数の時期変化と捕虫部位	井戸田規丈一昭雄夫三彦 武小竹林谷	日本林学会講演集	86	50.8
	マツノマダラカミキリの羽化脱出消長ならびに時間別脱出状況	〃 〃 〃 〃 〃	〃	〃	〃
	マツノマダラカミキリ成虫の分散行動に関する研究	〃 〃 〃 〃 〃	〃	〃	〃
	自然下におけるマツノマダラカミキリ成虫の放虫時の分散行動	井戸田規丈一昭雄夫三彦男治人 武小奥細古林田田素隆公	日本林学会関西支部講演集	26	50.10
	林木種子害虫の生態学的研究	小林一三	熱帶農研集報	27	50.10
岡山	スラッシュマツの成育状況	松田宗安	日本林学会関西支部講演集	26	50.10

組織、情報、その他の

(1) 沿革

昭和22年林政統一による機構改革にともない、林業試験研究機関を整備することになり、同年4月大阪管林局内の試験調査部門を編成がえのうえ農林省林業試験場大阪支場として局内に併置された。

関西支場

- 昭和25. 4 大阪支場京都分室設置さる
昭和27. 7 京都分室を廃止し、そのあとに支場を移転し京都支場と名称を改む
昭和28. 2 新たに伏見区桃山町に支場庁舎敷地として 12ha を決め、同時に桃山研究室を設置した
昭和31. 3 庁舎、研究室を新築、移転
昭和34. 7 関西支場と名称を改む
昭和38. 4 調査室設置
昭和40. 3 研究室等を増改築
昭和41. 4 部制設置（育林、保護の2部）
〃 防災研究室を岡山試験地から移設

岡山試験地

- 昭和10. 8 岡山県上道郡高島村に水源涵養試験地として設置
昭和13. 1 林業試験場高島試験地と名称を改む
昭和22. 4 林業試験場大阪支場の所管となり、同支場高島分場と名称を改む
昭和27. 7 林業試験場京都支場高島分場と名称を改む
昭和34. 7 林業試験場関西支場岡山分場と名称を改む
昭和41. 4 林業試験場関西支場岡山試験地と名称を改む

(2) 土地および施設

1. 土地

1. 庁舎敷地

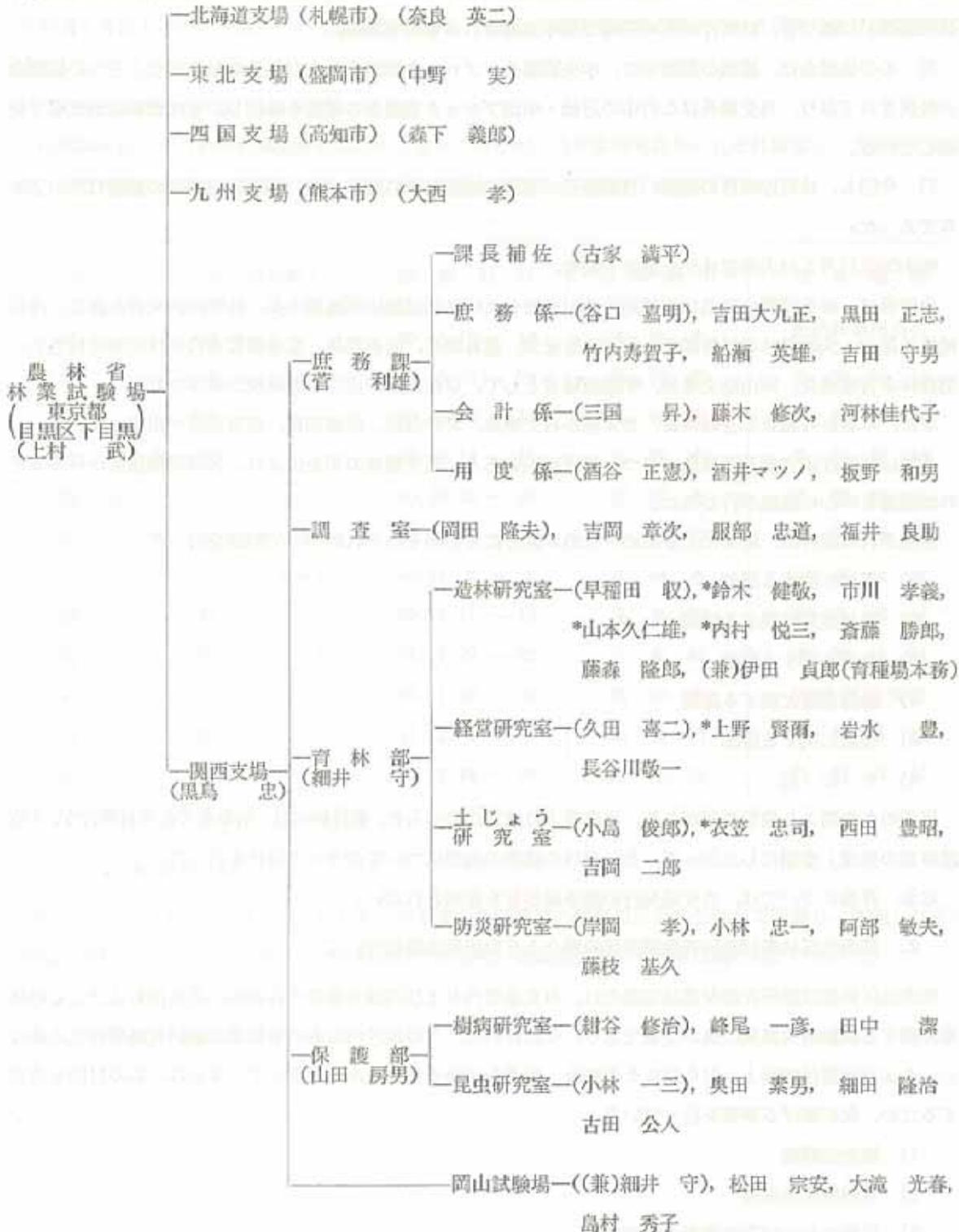
	関西支場	岡山試験地
庁舎および付属敷	11,539m ²	1,999m ²
苗 畑	13,270	4,264
樹 木 園	7,862	
見本林、実験林	27,998	64,817
計	60,669	71,080
2. 宿舎敷地	9,373	916
3. 島津試験林	7,045	—
4. 宇治見試験林	3,812	—
計	80,899	71,996

2. 主な施設

研究室	棟数	面積(m ²)	棟数	面積(m ²)
内 記				
会議室		166.9		
研究室(育林)		628.6		
新館(含調査室)		1507.1		
資料室		189.0		
温 室	1棟	54.5		0
ガラス室	1ヶ	61.6		0
隔離温室	1ヶ	51.3		0
殺菌培養室	1ヶ	48.6		0
樹病低温実驗室	1ヶ	91.0		0
昆蟲飼育室	1ヶ	105.8		0
林木水耕実驗室	1ヶ	26.0		0
材線虫媒介昆蟲実驗室	1ヶ	41.8		0
研究資料調整室	1ヶ	64.1		0
宿 舎	24ヶ	1196.7	2ヶ	196.6

(3) 組織

(昭和51年3月31日現在)



(4) 会 議 の 開 催

1. 昭和50年度（第3回）林業技術開発推進近畿・中国ブロック協議会

- 1) この協議会は、林業技術開発推進協議会運営要領（昭和48年6月8日付け、48林野普第108号林野庁長官通達）に基づき、林野庁長官の主催で毎年開催されるものである。
- 2) この協議会は、協議の段階別に、中央協議会、ブロック協議会および都道府県協議会と三つの協議会が設置されており、当支場長はこの中の近畿・中国ブロック協議会の運営を総括し、また庶務は当支場で処理している。
- 3) 今回も、林野庁長官の招集、当支場長の運営の総括により開催され、標記の協議会の概要は次のとおりであった。

昭和50年11月5日大阪営林局会議室で開催。

出席者は、当支場管内府県林務部局行政担当者および林業試験研究機関の長、林野庁研究普及課長、課長補佐外係官、大阪営林局経営部長、計画課監査官、造林課長、監査課長、監査課監査官外技術開発担当官、関西林木育種場長、同山陰支場長、学識経験者として、京都大学の赤井名彦教授が参加された。

なお、本場から調査部企画科長、当支場から支場長、育林部長、保護部長、調査室長が出席した。

会議は林野庁研究普及課長あいさつ、経過説明のあと、当支場長の司会により、各府県協議会から提案された議案を中心に協議が行われた。

提案された案件は、約30に上るため、次の5区分にまとめそれぞれについて討議を行った。

- 1) 育林に関する課題
- 2) 森林施業に関する課題
- 3) 育種に関する課題
- 4) 森林保護に関する課題
- 5) 特産に関する課題
- 6) その他

提案の各機関より趣旨説明があり、出席者より意見がのべられ、最終的には、招集者である林野庁が、「協議事案の処理」要領にしたがって、それぞれの議案の処理についてのランク付けを行った。

なお、詳細については、当支場発行の議事録要旨を参照されたい。

2. 関西地区林業試験研究機関連絡協議会とその研究活動について

関西地区林業試験研究機関連絡協議会は、当支場管内および四国支場管内各府県にある国および公立の林業に関する試験研究機関の長が会員であり、その目的は、この地区内における林業試験研究機関相互の連携、および林業技術向上、ならびにその普及、発達をはかることである。そして、本会は、この目的を達成するため、次に掲げる事業を行っている。

- 1) 総会の開催
- 2) 共同研究の推進
- 3) 研修会および研究発表会の開催
- 4) 林業技術開発推進協議会との連絡

5) その他本会の目的達成のために必要な事業

以上の事業のうち、昭和50年度は、下記のとおり行われた。

○ 第28回総会

昭和50年10月2日、高知市において第28回総会が開催された。会議では過去1ヶ年間の各部会の共同研究の経過と今後1年間の計画について協議が行われ、円滑な共同研究体制の確立のため活発な意見の交換がなされた。

○ 各部会活動の状況

昭和50年度中に行われた部会活動は次のとおりであるが、当支場研究員もそれぞれ参加し、共同研究の実施、研究情報の交換および助言など、公立研究機関との研究上の緊密な連絡を行なった。

部 会 名(研究班)	開 催 期 日	開 催 場 所	当 番 機 関
育 苗	50. 6.12 ~ 13	徳島市	徳島林業総合技術センター
保 育	50. 6.24 ~ 26	神戸市	兵庫林試
立 地	50.10.14 ~ 15	高知市	高知林試
林 業 機 械	50.10.14 ~ 15	鳥取市	鳥取林試
樹 木 公 害	50.10.28 ~ 29	宮津市	京都林試
特 産(シイタケ)	50.11. 5 ~ 6	芦原町	福井林試
ク (マツタケ)	50.11. 6 ~ 8	珠洲市	石川林試
經 営	50.11.11 ~ 12	湯来町	広島林試
特 産(ク リ)	51. 1.22 ~ 23	三和町	京都林試
更 新	51. 1.29 ~ 30	高知市	林試四国支場
育 種	51. 2. 5 ~ 6	奈良市	奈良林試
保 護	51. 2.18 ~ 20	松江市	島根林試

3. 業務報告会

昭和50年6月9日より3日間にわたり、49年度の各研究室の業務報告会を会議室で開催し、実施した研究課題のそれぞれについて成果ならびに経過などを説明、質疑応答等あり活発な報告会が行われた。

(5) 受託研究、調査、指導

用 務	委 託 者	用 務 先	実施期日	出 張 者	
				研究 室	氏 名
林業経営のための土じょうに関する研修指導	三重県林業技術センター	津 市	50. 8.18 ～8. 19	支 場 長	黒鳥 忠
しいたけ樹木の雑菌対策に関する調査指導	ク	白 山 町	50.11.20 ～11.21	樹 病	紺谷 修治
森林保護に関する調査指導	富山県農地林務部	富 山 市	50.10. 7 ～10. 9	保護部長	山田 房男
磨丸太の生産技術についての調査指導	福井県林務課	福 井 市	51. 2.18 ～ 2.20	経 営	岩水 豊
育林技術の再検討についての調査指導	山 口 県 農 林 部	山 口 市	50. 9.22 ～ 9.24	造 林	早稻田 収
昭和50年度土地分類基本調査「沖縄県」の土壤図の作成	沖 縄 県 知 事	久 米 島	50. 9.16 ～ 9.26	土じょう	小島 俊郎
優良材の生産と林業経営についての調査指導	新潟県若船郡山北町	山 北 町	51. 3. 4 ～ 3. 6	経 営	岩水 豊
土壤調査全般指導	日本林業技術協会	福 山 市	50. 7.21 ～ 7.22	土じょう	小島 俊郎
小径木処理施設の設置についての調査指導	会 国 林 業 構 造 改 善 協 会	神 崎 町	50. 9. 2 ～ 9. 4	経 営	久田 喜二
山村振興のための調査	山村振興調査会	岐 阜 市	50.10. 1 ～10. 4	経 営	久田 喜二
ク	ク	ク	ク	ク	長谷川敬一
土 壤 調 査	関 西 電 力 環 境 部	岬 町	50.12.11	支 場 長	黒鳥 忠
ク	ク	ク	ク	土じょう	小島 俊郎

(6) 研修、海外出張

技術研修受入れ

氏名	所属機関	研修期間	研修内容
原 雅継	福井県林業試験場	50. 7. 1~9.30	森林の更新と保育
藤原 均	山口県林業試験場	50. 9. 1~11.30	樹木病害に関する研究
河村 一人	山口県農林部林政課	50. 10. 1~12.28	良質材生産に関する研究
吉野 豊	兵庫県林業試験場	51. 1. 19~2.18	植物体養分の分析法に関する研究
畑中 政雄	〃	51. 2. 2~2.28	茸類鋸屑栽培における害菌の防除に関する研究
志水 孝	〃	51. 2. 16~3.15	非皆伐造林技術に関する研究

当場職員研修

氏名	研修先	研修期間	研修内容
藤枝 基久	本 場	50. 5. 12~5.13	昭和50年度新任者研修
小島 俊郎	イングリッシュ・プラザ	50. 9. 1~ 51. 3. 31	英語研修
田中 潔	農林研修所	50. 10. 21~10.25	昭和50年度農林水産試験研究機関研究員の公害等に関する研修
黒田 正志	農林研修所	50. 8. 26~9.12	昭和50年度中級事務職員研修
服部 忠道	本 場	50. 12. 17~12.19	昭和50年度圃場関係職員技術研修
福井 良助	〃	〃	〃

海外出張

氏名	出張先	出張期間	研究課題
内村 悅三	フィリピン	50. 8. 5~51. 1. 2 51. 2. 6~51. 7. 5	フィリピンにおける竹栽培に関する研究

(7) 見学者

区分	件数	人数	備考
国	51	84	
府 県	22	134	
学 校	6	85	
大 学	3	610	
そ の 他			
団 体	5	113	
一 般	20	59	
外 人	4	14	フィリピン、インドネシア、マレーシア他
計	111	1,099	

昭和50年4月1日～昭和51年3月31日

(8) 人のうごき

50. 4. 1 付

主任研究官 造林研究室 山本久仁雄

50. 5. 1 付

育林部長 本場 細井守

本場土じょう部土じょう肥料科長 河田弘

防災研究室 本場 藤枝基久

50. 8. 10 付

熱帯農業研究センター研究第一部併任 造林研究室 内村悦三

50. 9. 1 付

本場調査部企画科連絡室 調査室 成田忠範

51. 2. 1 付

調査室併任 大阪営林局 岡田隆夫

51. 3. 1 付

調査室長 大阪営林局 岡田隆夫

木曾分場長 調査室長 横田英雄

試 驗 地 一 覧 表

試験地一覧表

試験地名	當林署	担当区	林小区	樹種	面積	設定期月	終予年	了定期度	担当研究室
高取山スギ人工林皆伐用材林 作業収穫試験地	奈良	下市	56 49	ほ ほ	ス ギ	0.60	昭10	昭125	經營
高取山ヒノキ人工林 〃	〃	〃	56	ほ	ヒ ノ キ	0.40	〃10	〃92	〃
高野山スギ人工林 〃	高野	高野	31	ろ	ス ギ	0.17	〃10	〃107	〃
高野山ヒノキ人工林 〃	〃	〃	31 44	ろ に	ヒ ノ キ	1.07	〃10	〃107	〃
滝谷スギ人工林 〃	山崎	西谷	136	り	ス ギ	2.25	〃11	〃94	〃
御弁当谷ヒノキ人工林 〃	龜山	北勢	37	に	ヒ ノ キ	0.98	〃12	〃103	〃
新重山ヒノキ人工林 〃	福山	井関	49	と	〃	1.05	〃12	〃111	〃
遠藤スギその他抾伐用材林 作業収穫試験地	津山	上齊原	39	ろ	ス ギ	1.67	〃12	〃132	〃
西山アカマツ天然林皆伐用材林 作業収穫試験地	西条	大草	1032	い	アカマツ	1.02	〃12	〃92	〃
滑山スギ人工林皆伐用材林 作業収穫試験地	山口	滑	11	り	ス ギ	1.60	〃13	〃102	〃
滑山ヒノキ人工林 〃	〃	八坂	20	は	ヒ ノ キ	0.67	〃13	〃102	〃
奥島山アカマツ天然林画伐用材林 〃	大津	八幡	71 79	と は	アカマツ	5.18 3.23	〃13	〃63	〃
菩提山アカマツ天然林皆伐 〃	奈良	郡山	20	に	〃	1.07	〃13	〃75	〃
地獄谷アカマツ天然林その他抾伐 用材林 〃	〃	〃	17	り	アカマツ スピノギ	1.73	〃15	〃117	〃
八ツ尾山ヒノキ人工林皆伐用材林 〃	大津	大滝	92	よ	ヒ ノ キ	2.67	〃17	〃102	〃
篠谷山スギ人工林皆伐用材林 〃	倉吉	根雨	1015	い	ス ギ	0.80	〃34	〃119	〃
若荷淵山ヒノキ人工林 〃	新宮	飛鳥第二	41	へ	ヒ ノ キ	0.71	〃35	〃145	〃
白見スギ人工林 〃	〃	新宮	5	ほ	ス ギ	1.24	〃37	〃147	〃
六万山スギ人工林 〃	金沢	白峰	55	は	〃	0.79	〃37	〃142	〃
西条保育形式試験地	西条	志和	11	へ	アカマツ	2.15	〃35	〃69	造林
福山 〃	福山	上下	16	へ	〃	2.25	〃33	〃	〃
吉永植栽比較試験地	岡山	吉永	1005	ほ	スピノギ 外	1.54	〃41	〃71	〃
マツ苗の根系比較試験地	大津	八幡	72	い	アカマツ クロマツ	0.70	〃39	〃50	〃
島津竹林試験地		支場島津実驗林			モウソウチク	0.50	〃33	未定	〃
林地肥培高野試験地	高野	高野	7	ろ	ス ギ	0.10	〃36	昭52	土じよ
〃 西条 〃	西条	大草	1026	に	クロマツ	0.22	〃39	〃	〃

試験地名	営林署	担当区	林小班	樹種	面積	設定年度	終了年	研究室
松くい虫三木試験地	神戸	三木	35 と	クロマツ	1.77 ha	昭39	昭54	昆虫
竜の口山量水試験地	岡山	岡山	11 ほ・に・は	アカマツ 外	44.99	〃10	〃72	防災
スギ山崎短期育成試験地	山崎	薦沢	25 へ	スギ	1.69	〃37	〃69	造林
アカマツ福山 グ	福山	木津和	108 ぬ	アカマツ	1.75	〃37	〃	"

氣 象 年 表

気象年表

関西支場構内および岡山試験地で、いろいろと試験研究を行なっていく上、苗畑、実験林の局地的気象資料を得るために、苗畑、実験林の一部に露場を設け、おもな気象要素について、常時観測を実施しているが、昭和50年の観測結果は別表のとおりである。なお観測要領は気象観測法にしたがい定時9時に観測した。

(支 場 構 内)

標高65m 北緯 34°56'
東経 135°46'

月	気温 °C 1.2m							気温 °C 0.1m							気温別日数 °C 1.2m					
	平均		最高		最低		起日	平均		最高		最低		起日	最高		最低			
	(9h)	最高	平均	最高	最低	起日		(9h)	最高	平均	最高	最低	起日		<0°C	≥25°C	<-10°C	≤0°C	≥25°C	
1	0.8	7.4	-2.2	11.0	25	-2.2	31	2.2	8.2	-1.3	12.2	24	-4.9	19	-	-	-	15	-	
2	0.4	7.8	-3.0	11.2	7	-3.6	28	2.7	10.1	0	16.0	25	-2.9	19	2	-	-	-	21	-
3	5.8	11.0	-3.3	16.7	29	-4.0	2	5.1	10.0	0.2	16.8	10	-2.7	2	-	-	-	8	-	
4	13.3	22.0	5.3	24.2	26	-0.7	4	13.2	21.5	6.3	23.1	29	-0.9	4	-	-	-	1	-	
5	18.0	22.4	12.8	28.2	25	8.3	18	17.9	23.0	13.2	26.9	25	7.4	18	-	14	-	-	-	
6	22.6	25.0	17.3	30.9	17	15.5	8	22.3	24.8	17.6	30.0	16	11.0	1	-	24	-	-	-	
7	27.3	31.3	22.3	36.2	22	17.1	12	26.8	30.0	22.2	35.5	31	15.4	1	-	31	-	-	12	
8	26.6	30.0	23.3	36.7	3	19.2	9	26.9	30.5	22.1	36.6	3	18.5	9	-	30	-	-	7	
9	24.1	27.5	16.2	33.8	20	16.0	30	24.9	28.0	18.3	33.2	2	15.7	30	-	27	-	-	-	
10	16.2	24.0	11.9	30.0	4	10.3	31	17.6	24.0	13.5	29.3	4	9.7	31	-	4	-	-	-	
11	10.4	19.0	3.8	22.8	7	3.6	29	10.9	18.6	5.2	20.8	7	1.0	25	-	-	-	-	-	
12	3.0	12.7	-2.3	15.0	4.8	-3.5	18	2.9	10.8	-1.5	14.9	4	-2.5	18	-	-	-	18	-	
年	14.0	20.0	8.5					14.5	20.0	9.7					2	130	-	63	19	
極値					36.7	8.3	-4.0	3.2				36.6	8.3	-4.9	1.19					

月	湿度 %			降水量 (mm)					量別降水日数								
	平均	最小	起日	総量	最大日量	起日	最大1時間量	起日	≥1.0 mm	≥10 mm	≥30 mm	≥50 mm	≥100 mm	≥300 mm			
1	85	32	21	43.5	13.5	22	6.0	22	5	2							
2	81	34	20	52.5	23.5	7	6.0	7	7	2							
3	75	19	19	45.0	31.0	20	7.0	20	6	1	1						
4	74	11	19	164.5	34.0	21	10.0	21	12	6	2						
5	67	20	25	81.5	29.5	19	7.0	19	10	2							
6	75	25	3	178.0	51.5	25	11.0	25	13	6	1	1					
7	75	26	1	242.0	54.0	14	25.0	14	12	6	3	1					
8	75	21	3	233.5	72.0	23	23.5	6	8	7	3	1					
9	75	29	14	235.0	134.5	23	40.0	23	12	4	2					1	
10	83	35	27	225.5	32.0	18	14.0	8	13	9	3						
11	86	38	3	112.5	49.0	7	20.0	7	6	5	1						
12	85	38	3	67.0	27.5	5	10.0	5	5	3							
年	78			1680.5					109	53	16	3	1				
極 値		11	4.19		134.5	9.23	40.0	9.23									

(岡山試験地)

標高40m 北緯34°42'
東経133°58'

月	気温 ℃							湿度 %			平均蒸気圧 (mm) (9 h) (10 h)		平均蒸発量 (mm) (9 h) (10 h)		地温 °C			
	平均 (9 h) (10 h)	平均最高	平均最低	最高	起日	最低	起日	平均 (9 h) (10 h)	最小	起日	0.0	0.1	0.2	0.3				
1	1.1	8.1	-2.0	12.9	27	-5.2	31	85	63	4	5.9	0.8	2.6	3.2	3.5	3.8		
2	1.1	8.2	-2.1	14.8	27	-7.8	24	84	53	26	5.9	1.6	2.4	3.2	3.4	3.6		
3	4.9	11.9	0.3	16.9	31	-3.2	8	76	56	21	6.7	2.6	5.8	5.9	5.9	5.9		
4	13.4	18.0	7.7	23.3	17	-1.5	3	76	45	11	12.0	3.5	12.4	12.3	11.8	11.8		
5	17.5	22.8	11.6	27.2	27	5.3	7	75	47	2	15.1	4.2	17.9	17.5	17.0	17.0		
6	21.7	26.4	17.4	29.5	3	13.5	2	82	58	23	21.2	4.3	22.7	21.9	21.4	21.4		
7	25.1	30.7	22.1	33.9	25	15.9	1	84	64	29	26.7	5.2	27.6	26.3	25.7	25.5		
8	26.0	31.4	22.0	34.0	6	17.6	9	80	61	9	27.1	5.2	26.9	26.4	26.0	26.0		
9	23.5	30.0	19.6	32.8	18	13.7	25	84	65	9	24.5	4.3	25.2	24.4	24.3	24.5		
10	16.0	21.8	13.6	28.8	6	8.4	21	90	66	30	16.5	2.5	17.9	18.1	18.2	18.5		
11	8.9	16.3	6.4	26.2	18	0.3	25	92	65	24	10.7	1.8	10.8	11.5	11.8	12.1		
12	3.5	10.9	0.6	16.5	7	-3.8	18	92	77	28	7.5	0.8	4.9	5.7	6.1	6.5		
年	13.5	19.7	9.7	34.0	8.6	-7.8	2.24	83	45	4.11	14.9	3.0	14.7	14.7	14.5	14.7		
累年平均	14.7	19.5	9.2					77			14.2	2.8	16.6	14.3	14.8	15.2		
過去極値																		

月	降水量 (mm)					量別降水日数						気温別日数					
	総量	最大日量	起日	最大1時間量	起日	≥1.0 mm	≥10 mm	≥30 mm	≥50 mm	≥100 mm	≥300 mm	<0°C	≥25°C	<-10°C	<0°C	≥25°C	
1	35.3	13.2	23	5.6	23	6	1	—	—	—	—	—	—	—	—	25	
2	39.0	13.0	4	2.6	4	9	1	—	—	—	—	—	—	—	—	20	
3	39.2	12.1	6	2.8	6	6	1	—	—	—	—	—	—	—	—	17	
4	125.8	20.1	21	6.9	6	14	6	—	—	—	—	—	—	—	—	2	
5	66.5	24.8	10	5.7	4	7	3	—	—	—	—	—	—	7	—	—	
6	237.0	42.8	26	8.8	26	14	10	2	—	—	—	—	—	21	—	—	
7	88.8	25.6	6	7.6	15	8	4	—	—	—	—	—	—	30	—	—	
8	89.0	41.2	23	5.8	23	8	3	1	—	—	—	—	—	31	—	1	
9	166.7	103.4	24	40.5	24	5	4	1	1	1	—	—	—	30	—	—	
10	150.7	45.0	12	6.6	8	11	6	1	—	—	—	—	—	6	—	—	
11	103.4	65.0	15	6.7	15	7	2	1	1	—	—	—	—	—	—	—	
12	37.8	21.5	5	9.0	5	3	2	—	—	—	—	—	—	—	—	16	
年	1179.2	103.4	9.24	40.5	9.24	98	43	6	2	1	—	—	125	—	80	1	
累年平均	1195.6																
過去極値																	

月	現象日数											季節					
	種別	初日			終日			中間日數 本年									
		本年	極最早	本年	極最晚												
1	16	11	4	—	14	13	1	4	—	1	23	氣溫最低 $<0^{\circ}\text{C}$	49	27	50	37	119
2	18	7	3	—	—	14	—	2	3	1	19		12.6	11.14	4.3	4.19	
3	20	11	—	—	4	3	—	—	—	—	13	霜	49	28	50	33	153
4	14	8	8	—	2	1	1	—	—	—	2		11.2	10.15	4.3	5.13	
5	13	15	3	—	—	—	—	—	—	—	—	霜柱	49	14	50	13	
6	14	9	7	—	—	—	—	1	—	—	—		12.16	12.4	4.3	4.10	109
7	19	8	4	—	—	—	—	1	—	—	—	雪	49	13	50	14	
8	21	6	4	—	—	—	—	—	—	—	—		12.6	11.12	2.22	4.2	79
9	18	10	2	—	—	—	—	—	—	—	—	積雪	50	40	50	14	
10	12	8	11	—	—	—	—	1	—	—	—		1.20	12.17	2.27	3.19	39
11	23	3	4	—	3	1	2	—	—	—	2	結冰	49	45	50	33	
12	23	6	2	—	18	7	—	—	—	—	18		11.15	11.12	4.3	4.15	140
年	211	102	52	—	41	39	7	6	3	2	77						
累年平均	173	157	60														

昭和51年11月13日印刷
昭和51年11月20日発行

発行所 農林省林業試験場関西支場
京都市伏見区桃山町永井久太郎官有地
面積 611-1201

印刷所 中西印刷株式会社
京都市上京区下立売小川東入
面積 441-3155